

山形大学農学部

2017年報

2018年4月

2017年 報 目 次

1. 管理運営

- (1) 平成29年度山形大学農学部概況（主な行事日程等） 1
- (2) 農学部機構図 3
- (3) 農学部現員表 3
- (4) 職員組織 4
- (5) 農学部各種委員会一覧 6
- (6) 平成29年度農学部における発行印刷物一覧 7

2. 教育・研究活動

- (1) 平成30年度入学試験実施状況 8
- (2) 平成29年度在学者数 8
- (3) 卒業・修了後の進路 9
- (4) 平成29年度大学院農学研究科修了者について 10
- (5) 教員の活動実績
 - ① 教育活動 12
 - ② 研究活動 14
 - ③ 学会・社会活動 53
 - ④ 海外研究者との研究活動 86
 - ⑤ 研究員等の受け入れ状況 91
 - ⑥ その他 93

3. 国際交流状況について

- (1) 学部間国際交流協定締結大学一覧 96
- (2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの） 97
- (3) 外国出張一覧 97
- (4) その他の国際交流の実施 99

4. 社会活動・地域貢献

- (1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧 101
- (2) 平成29年度社会・地域等の要請により派遣した職員一覧 102
- (3) 平成29年度他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧 104
- (4) 外部資金等の受け入れ状況
 - ・ 平成29年度科学研究費補助金交付決定一覧・分担金一覧 105
 - ・ 平成29年度奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況 107
- (5) 公開講座等大学開放実施状況 108

5. フィールド科学センターの概況等 111

6. 農学部図書館の概要等 126

7. 大型設備の設置状況 127

8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地，土地・建物の概要，配置図 128

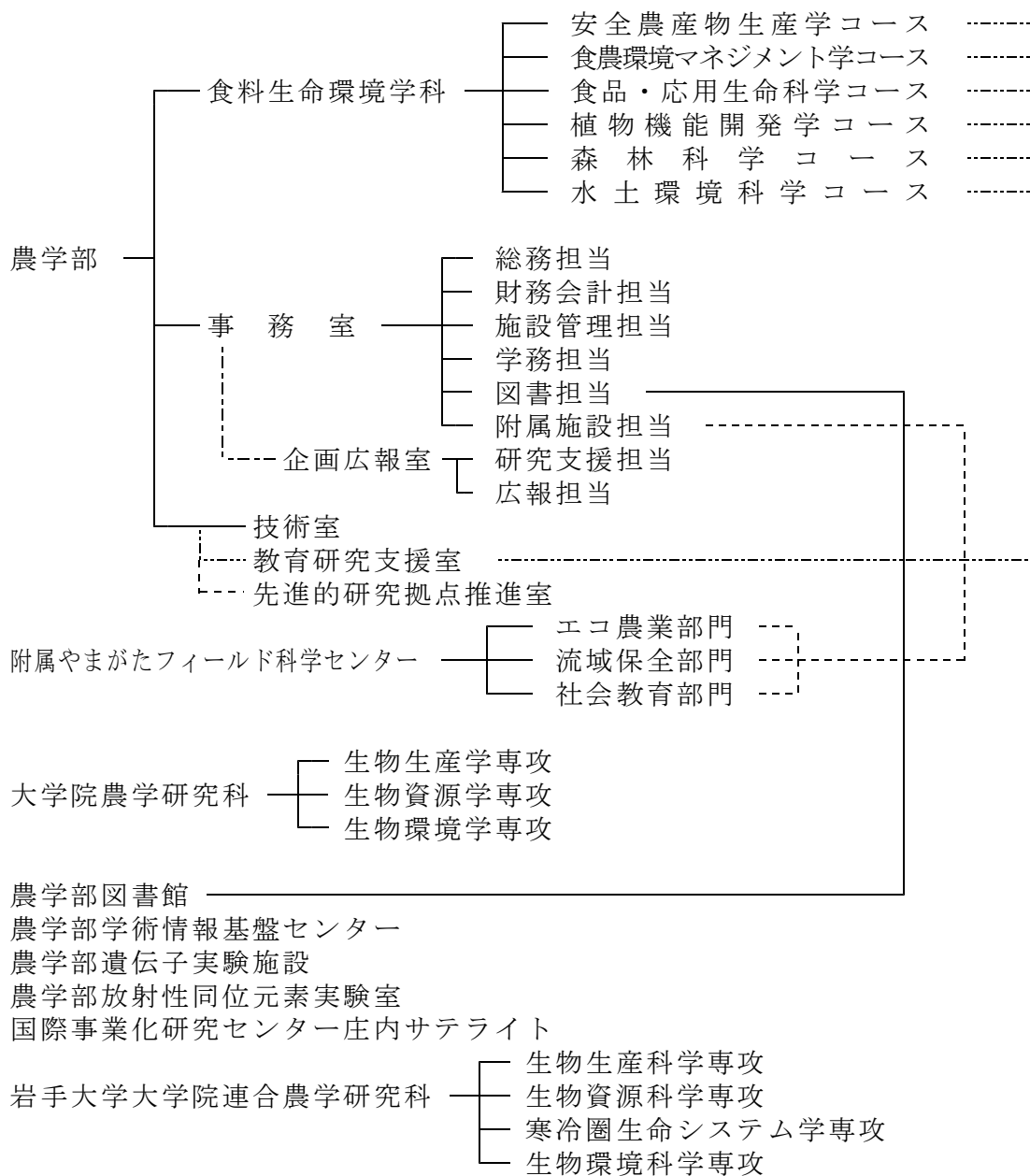
1. 管理運営

(1) 平成29年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）

29.	4.	13	鶴岡南高等学校 S S Hガイダンス・基礎実験開始
29.	4.	13	市民交流農園開園式
29.	4.	25	「食と農のビジネス塾」開講式
29.	5.	6	演習林入山式
29.	5.	13	わんぱく農業クラブ①
29.	5.	18	「食-農-環境連携を担うグローバル人材育成事業」 海外派遣学生報告会
29.	5.	27	公開講座（～6月24日 全5回）
29.	6.	10	わんぱく農業クラブ②
29.	6.	27	農業・農村白書説明会
29.	6.	28	平成29年度農学部地域産学官連携協議会役員会および総会
29.	6.	29	農場市スタート
29.	7.	2	わんぱく農業クラブ③
29.	7.	11	山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会総会・報告会
29.	7.	19	構内環境美化活動
29.	7.	21	外交講座
29.	7.	22	森の学校①
29.	7.	30	オープンキャンパス（鶴岡キャンパス）
29.	7.	30	女性研究者裾野拡大セミナー2017 in 農学部
29.	7.	31	夏期セミナー
29.	7.	31	農学部市民交流農園夏の交流会
29.	8.	3	第1回農学部記者懇談会
29.	8.	5	わんぱく農業クラブ④
29.	8.	21	(独)国際協力機構(JICA)地域別研修「アフリカ地域稲作収穫後 処理」コース(～9月29日)
29.	9.	1	タイ・チェンマイ ショートステイプログラム(～9月9日)
29.	9.	11	サマースクール in ドイツ (～9月24日)
29.	9.	16	ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」
29.	9.	16	わんぱく農業クラブ⑤
29.	9.	19	山形大学ビーチサッカー大会
29.	9.	19	地域定住農業者育成コンソーシアム 公開講座
29.	9.	20	留学生日本文化研修
29.	9.	25	基礎農学セミナー
29.	9.	25	高校教員との情報交換会
29.	10.	5	農学紹介講座「農学のタベ」(～11月30日 全8回)
29.	10.	7	山大農場フェスティバル
29.	10.	13	ホームカミングデー(鶴窓会関東支部・S37卒同期会・S51卒業生)
29.	10.	14	わんぱく農業クラブ⑥
29.	10.	14	農学部創立70周年式典
29.	10.	21	森の学校②
29.	10.	17	防火訓練
29.	10.	18	留学生交通安全教室
29.	10.	21	つるおか大産業まつり出展

29. 10. 25 学長特別講演会
29. 10. 31 市民交流農園 秋の交流会
29. 11. 5 鶴寿祭（～11月6日）
29. 11. 9 ビジネスマッチ東北 2017
29. 11. 10 高坂農場 獣魂祭
29. 11. 11 わんぱく農業クラブ⑦
29. 11. 17 山形大学農学部・県立農業大学校・県内農業高校連携
「第8回農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」
29. 11. 20 学長・学部長・教職員とのワークライフバランス懇談会
29. 11. 28 庄内スマート・テロワール収穫感謝祭
29. 11. 29 穀物調製調査棟除幕式
29. 12. 1 鶴岡工業高等専門学校、山形大学工学部、山形大学農学部三機関
連携情報交換会
29. 12. 5 学生と学長・理事・キャンパス長との懇談会
29. 12. 6 農学部・山形県農林水産部連携推進協議会スキルアップ研修会
29. 12. 10 「知の拠点庄内」第7回シンポジウム
29. 12. 14 第2回農学部記者懇談会
29. 12. 15 日本酒シンポジウム「Oh!酒落に日本酒 de Night 5時限目」
30. 1. 25 「燦樹(きらめき)2018」新酒発表会
30. 1. 26 遺伝子組換え実験に係る教育訓練
30. 1. 30 農学部研究シーズ説明会・ビジネスマッチ
30. 2. 2 「食と農のビジネス塾」ビジネス計画書優秀者報告会・修了式
30. 2. 2 農学部・東北森林管理局連携シンポジウム
30. 2. 3 森の学校③
30. 2. 13 平成29年度卒業・修士論文発表会（～3月1日）
30. 2. 20 平成29年度農学部地域連携推進協議会
30. 2. 21 山大農学部・鶴岡市連携事業「庄内水田フォーラム2018」
30. 2. 23 農業人材シンポジウム
30. 2. 26 学生向け「鶴岡の産業講座」（～2月28日）
30. 2. 25 個別学力試験（前期日程）
30. 3. 8 農学部合同企業説明会
30. 3. 13 第3回農学部記者懇談会
30. 3. 15 鶴岡市新規就農フォーラム
30. 3. 17 平成29年度学位記授与式
30. 3. 22 ウィンタースクール in インドネシア（～3月30日）

(2) 農学部機構図



(3) 農学部現員表

(平成30年3月31日現在)

	教 員				その他の職員	合 計
	教 授	准教授	助 教	計		
現 員	29	28	6	63	70	133

(4) 職員組織

(平成30年3月31日現在)

学 部 長 林 田 光 祐
副 学 部 長 小 沢 亙
副 学 部 長 村 山 秀 樹

食料生命環境学科

学 科 長 村 山 哲 也

安全農産物生産学コース

教 授 西 澤 隆
教 授 藤 井 弘 志
☆教 授 平 智
教 授 堀 口 健 一
准教授 小笠原 宣 好
准教授 角 田 憲 一
准教授 長 谷 修
准教授 小 林 隆
准教授 片 平 光 彦
准教授 森 静 香
准教授 佐 藤 智
准教授 松 山 裕 城
助 教 松 本 大 生

食農環境マネジメント学コース

教 授 岩 鼻 通 明
教 授 小 沢 亙
☆教 授 角 田 毅
准教授 家 串 哲 生
准教授 藤 科 智 海
准教授 渡 辺 理 絵
助 教 保 木 本 利 行

食品・応用生命科学コース

教 授 三 橋 涉
教 授 小 関 卓 也
教 授 豊 増 知 伸
教 授 永 井 毅
教 授 木 村 直 子
☆教 授 加 来 伸 夫
教 授 塩 野 義 人
准教授 渡 辺 昌 規
准教授 井 上 奈 穂

植物機能開発学コース

教 授 村 山 哲 也
教 授 俵 谷 圭 太郎
教 授 村 山 秀 樹
☆教 授 江 頭 宏 昌
教 授 程 為 国
准教授 笹 沼 恒 男
准教授 服 部 聡
准教授 及 川 彰
准教授 星 野 友 紀
助 教 網 干 貴 子

☆は、コース主任

森林科学コース

教授 高橋 孝悦
 ☆教授 森 茂太
 教授 林 田光祐
 教授 芦谷 竜矢
 准教授 柳原 敦
 准教授 菊池 俊一
 准教授 小川 三四郎
 准教授 林 雅秀
 准教授 江成 広斗
 准教授 吉村 謙一
 助教 齋藤 昌幸

水土環境科学コース

☆教授 藤井 秀人
 教授 奥山 武彦
 教授 安中 武幸
 教授 渡部 徹也
 准教授 石川 雅也
 准教授 花山 奨
 准教授 渡邊 一哉
 助教 梶原 晶彦

☆は、コース主任

学科所属

助教 中坪 あゆみ

附属やまがたフィールド科学センター

センター長 藤井 弘志

エコ農業部門

★教授 浦川 修司
 准教授 池田 和生
 准教授 佐々木 由佳

社会教育部門

教授 小沢 互
 (兼任：食料生命環境学科)
 ★准教授 家串 哲生
 (兼任：食料生命環境学科)

流域保全部門

★教授 ロペス ラリー
 助教 梶原 晶彦
 (兼任：食料生命環境学科)

★は、部門長

事務職員

事務 長 奥山 利弘
 副事務 長 中山 由紀
 企画広報室 係長 野寺 智史
 総務担当 係長 加藤 幸
 財務会計担当 係長 成田 敦史
 施設管理担当 係長 阿部 強士
 学務担当上席 係長 上野 和男
 学務担当上席 係長 佐藤 利広
 附属施設担当上席 係長 菅原 一彰
 図書担当 係長 齋藤 順一

(5) 農学部各種委員会一覧

- ・農学部運営会議 (H22. 4. 1 設置)
- ・農学部教員人事委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・農学部コース主任・教育ディレクター会議 (H23. 4. 1 設置)
- ・農学部選挙管理委員会 (S28. 2.16 設置)
- ・農学部利益相反マネジメント委員会 (H24. 5.24 設置)
- ・農学部国際交流委員会 (H 5.11.18 設置)
- ・鶴岡地区事業場安全衛生委員会 (H16. 4. 1 設置)
- ・農学部遺伝子実験室運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・農学部放射性同位元素実験室運営委員会 (H 8. 7. 1 設置)
- ・農学部キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 (H17. 7. 1 設置)
- ・農学部・農学研究科運営協議会 (S49.10.25 設置)
- ・農学部目標計画・評価分析委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・農学部EM・広報委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・農学部予算委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・農学部学術情報基盤センター運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・農学部学務委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・農学部入学試験実施委員会 (S53. 5. 1 設置)
- ・農学部FD委員会 (H25. 4. 1 設置)
- ・附属やまがたフィールド[®]科学センター運営委員会 (H18. 7. 1 設置)
- ・農学部図書館運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・農学部教育支援室運営委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・連合農学研究科代議員 (H 2. 6. 8 設置)
- ・学生相談室運営会議 (H27. 4. 1 設置)
- ・農学部創立70周年記念事業委員会 (H26. 8. 1 設置)
- ・農学部寄附講座(食料自給園「スマート・テロワール」形成講座)委員会 (H29. 4. 1 設置)

(6) 平成29年度農学部における発行印刷物一覧

I 広報誌

- 1 山形大学農学部案内
受験生や関係高等学校、企業への広報関係誌
- 2 農学部研究シーズ集
農学部全教員の主要な研究テーマを紹介した民間企業等を対象とした冊子体

II 自己点検・評価報告書等

- 1 山形大学農学部2017年報

III 教育関係広報活動・報告書等

(学生向け冊子)

- 1 山形大学農学部学生便覧

(報告書等)

- 1 学位論文抄録集

2. 教育・研究活動

(1) 平成30年度入学試験実施状況(外国人留学生を除く。)

○ 農学部入学試験

区分・学科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
推薦入試									
食料生命環境学科	40	28	36	28	36	16	26	16	26
小計	40	28	36	28	36	16	26	16	26
A0入試									
食料生命環境学科	5	10	14	3	7	1	4	1	4
小計	5	10	14	3	7	1	4	1	4
一般入試(前期)									
食料生命環境学科	95	136	109	131	100	65	49	60	40
小計	95	136	109	131	100	65	49	60	40
一般入試(後期)									
食料生命環境学科	25	182	143	182	143	21	20	11	10
小計	25	182	143	182	143	21	20	11	10
合計	165	356	302	344	286	103	99	88	80

○ 農学部3年次編入学試験

学 科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
食料生命環境学科	若干人	6	6	6	6	3	3	2	3
合計		6	6	6	6	3	3	2	3

○ 大学院農学研究科入学試験

専 攻	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
生物生産学専攻	14	9	3	9	3	9	3	9	3
生物資源学専攻	16	9	8	9	8	6	7	5	6
生物環境学専攻	12	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	42	20	13	20	13	17	12	16	11

(2) 平成29年度 在学者数(外国人留学生を除く。平成29年5月1日現在)

○ 学 部

学 科	入学定員	現 員								合 計
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
食料生命環境学科	165	89	75	86	71	86	71	86	87	651
生物生産学科	55							1	0	1
生物資源学科	50							0	0	0
生物環境学科	50							0	0	0
合計		89	75	86	71	86	71	87	87	652

○ 大学院農学研究科

専 攻	入学定員	現 員						合 計
		1年次		2年次		合 計		
		男	女	男	女	男	女	
生物生産学専攻	14	4	4	4	2	8	6	14
生物資源学専攻	16	7	7	5	5	12	12	24
生物環境学専攻	12	4	4	4	5	8	9	17
合計	42	15	15	13	12	28	27	55

(3) 卒業・修了後の進路

卒業後の進路(学部)

学 科	卒業者数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
食料生命環境学科	161 (82)	30 (10)	6 (0)	82 (52)	43 (20)	125 (72)	0 (0)	100.0

()内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

食料生命環境学科	<p>野川商事株式会社、遠藤商事株式会社、山形県農業共済組合、レストランNico、自営農業、日東ベスト株式会社、JA全農山形(2名)、株式会社ヤガイ、モガミフーズ株式会社(2名)、日新製菓株式会社、株式会社でん六、株式会社ヤマザワ 片倉コープアグリ株式会社、カネコ種苗株式会社、プライフーズ株式会社、株式会社 シグマクレスト、アグロカネシヨウ株式会社、株式会社アグリテクノ、有限会社ジョルディカワムラ、栃木県農業共済組合、イオンテール株式会社、小野田化学工業株式会社、JA利根沼田、富士食品工業株式会社、JA全農長野、自営農業、株式会社カクヤス、株式会社第一印刷所、税理士法人三部会計事務所、階上キューピー株式会社、富士通テレコムネットワークス株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社アマダホールディングス、株式会社つくば食品、株式会社グリーンハウス、株式会社ゼンショーホールディングス、株式会社トライアングル、平塚製菓株式会社、タカラ食品工業株式会社、株式会社メイテック、株式会社EPSアリエイト、株式会社OSTech、黒龍酒造株式会社、リンナイ株式会社、スタッフサービス・エンジニアリング、WDBエウレカ株式会社(2名)、山崎製パン株式会社、株式会社ブルボン、ミドリオートレザラー株式会社、インターフェイス株式会社、株式会社ケーズホールディングス、日本ピュアフード株式会社、ジブラルタ生命保険会社、株式会社阿部長商店、株式会社佐藤渡辺(2名)、株式会社 木の花ホーム、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター、株式会社 佐藤農園、日の丸酒造株式会社、グリーン産業株式会社、株式会社ダイユーエイト、アース環境サービス株式会社、株式会社ウッドワン、国土緑化株式会社、協和木材株式会社、株式会社シー・アイ・シー、株式会社インフィコン、渡辺パイプ株式会社(2名)、株式会社クリエイトセンター(2名)、東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社、日栄地質測量設計株式会社、ホンザキ東北株式会社、エヌシーイー株式会社、小林測量株式会社、岩手県土地改良事業団体連合会、滋賀工業株式会社</p> <p>農林水産省、山形県庁(8名)、宮城県庁(2名)、福島県庁(8名)岩手県庁(3名)、青森県庁(2名)、新潟県庁(2名)、群馬県庁(2名)、栃木県庁、茨城県庁、山梨県庁、長野県庁、兵庫県庁、千代田区役所、山形市役所、福島市役所、新潟市役所、飯田市役所、宇都宮市役所、山形県庁(臨時職員)、柳津町役場(臨時職員) 福島県教員(農業) 独立行政法人家畜改良センター</p> <p>山形大学大学院農学研究科(23名)、東北大学大学院(3名)、北海道大学基盤研究部門農業経済学分野、静岡県立大学薬食生命科学総合学府、広島大学大学院</p>
----------	--

修了後の進路(大学院農学研究科《修士課程》)

学 科	卒業者数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
生物生産学専攻	11 (4)	2 (1)	4 (1)	3 (0)	2 (2)	5 (2)	0 (0)	100.0
生物資源学専攻	10 (6)	1 (0)	2 (1)	7 (5)	0 (0)	7 (5)	0 (0)	100.0
生物環境学専攻	9 (5)	2 (2)	0 (0)	5 (2)	2 (1)	7 (3)	0 (0)	100.0
計	30 (15)	5 (3)	6 (2)	15 (7)	4 (3)	19 (10)	0 (0)	100.0

()内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

生物生産学専攻	<p>秋田県農業協同組合中央会、(株)ゼンショーホールディングス、日本農産工業株式会社 京都府庁、栃木県庁 岩手大学大学院連合農学研究科(2名)</p>
生物資源学専攻	<p>株式会社常磐植物化学研究所、株式会社サンプラネット、凸版印刷株式会社、日本クッカー株式会社、株式会社エンテックス、日本甜菜製糖株式会社、有限会社アンティアンティオーガニック 岩手大学大学院連合農学研究科</p>
生物環境学専攻	<p>アグロカネシヨウ株式会社、リンナイ株式会社、株式会社佐藤渡辺、東北緑化環境保全株式会社、中一建設工業株式会社 東北地方整備局、福島県庁 岩手大学大学院連合農学研究科(2名)</p>

(4) 平成29年度大学院農学研究科修了者について

○生物生産学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
安全農産物生産学	久米川 和貴	水稲におけるケイ酸と塩耐性条件の違いが塩分付着害軽減機構に及ぼす影響	森 静香
安全農産物生産学	田邊 大	UAV（無人航空機）を利用した農作物の生育診断	片平 光彦
安全農産物生産学	両角 知奈	デジタルカメラを用いた大豆の葉色変化に関する研究	藤井 弘志
安全農産物生産学	谷中 沙妃	電解次亜塩素酸水を用いたバラ灰色かび病の防除	長谷 修
食農環境マネジメント学	吉野 晃弘	営農集団型コントラクターの運営実態とオペレーター個別経営の労働力構造－山形県真室川町を事例に－	藤科 智海
安全農産物生産学	MUSABYISONI ALOYS	Effect of "Onsen" water on the plant growth and fruit quality of tomatoes	西澤 隆
食農環境マネジメント学	NGUYEN THI TRAM ANH	ベトナム会社による安全野菜流通の課題と産消提携の可能性	小沢 互
安全農産物生産学	NKURUNZIZA CHRISTIAN	Effect of nitrogen application method and type of nitrogen fertilizer on productivity in wetland rice	角田 憲一
安全農産物生産学	NZEYIMANA ALAIN	Effect of rice planting methods on field work efficiency, plant growth and yield	片平 光彦
安全農産物生産学	TAUFIQUE TROPA	Physiological and histological changes of seed potato and true potato seed (TPS) tubers as influenced by cold storage and microwave heating	西澤 隆
安全農産物生産学	福田 翔太	ケニア国ムエア灌漑稲作地域に適した節水栽培方法の検討	佐々木 由佳

○生物資源学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
植物機能開発学	青木 聡樹	ツキヨタケ (<i>Omphalotus guepiniformis</i>) 子実体に含まれる成分の探索	村山 哲也
食品・応用生命科学	伊藤 安里紗	野生イネ <i>Leersia</i> 属におけるジテルペノイド生合成遺伝子	豊増 知伸
食品・応用生命科学	内山 晋司	シロイヌナズナ細胞周期停止因子AtKRP3の他遺伝子発現への影響について	三橋 渉
食品・応用生命科学	岡部 友香	マウス初期胚発生過程でのグルクロン酸抱合の役割とその制御による高発生培養系の開発	木村 直子
植物機能開発学	川上 珠恵	新規な「つや姫」突然変異集団の構築とそれを利用した有用遺伝子の創出	星野 友紀
食品・応用生命科学	鈴木 瑞穂	ホスファターゼの動態に着目したSOD1遺伝子欠損マウス卵の異数性発生機序の解明	木村 直子
植物機能開発学	蜂矢 志保実	Characterization of acid phosphatase released from extraradical hyphae of arbuscular mycorrhizal fungi	俵谷 圭太郎
食品・応用生命科学	法師人 悠也	シロイヌナズナ細胞周期停止因子とABA信号伝達因子との結合とその生化学的意義の検討	三橋 渉
植物機能開発学	INGABIRE ALINE CLEMENTINE	Effect of ethylene and modified atmosphere package on postharvest biology and handling of sweet cherries, pears and grape berries	村山 秀樹
植物機能開発学	KIMANI SAMUEL MUNYAKA	Effects of Azolla application on water loss, rice yield, and methane and nitrous oxide emissions from flooded paddy ecosystems	程 為国

○生物環境学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
森林科学	相澤 拓	水界～陸域で生育する多様な系統の生物呼吸比較	森 茂太
水士環境科学	伊藤 絵里香	養殖牡蠣へのヒト腸管系ウイルス蓄積の季節的変動と感染性胃腸炎流行との関連	渡部 徹
森林科学	遠田 絢子	Leaf nitrogen resorption and leaf $\delta^{15}\text{N}$ of four tree species in cold temperate forests of Japan	ロベス・ラリー
水士環境科学	大場 梢	サクラマス産卵行動から見た砂防堰堤スリット化後の河川環境の変動	渡邊 一哉
森林科学	小菌井 貴裕	Evaluation of snowmelt water used by Japanese cedar at the start of the growing season in Shonai region	ロベス・ラリー
森林科学	芳賀 由晃	休眠種子から実生への個体呼吸の急激な変化 -マメ科樹木3種の比較-	森 茂太
水士環境科学	三浦 逸実	抗菌薬に耐性を示す活性汚泥細菌の群集解析	渡部 徹
水士環境科学	三保谷 廉	排水改良型転換畑における温室効果ガス削減要因とその生物化学的解析	石川 雅也
森林科学	CITRA GILANG QUR'ANI	Whole-plant respiration of <i>Fagus crenata</i> seedlings in open and shaded sites	森 茂太

①教育活動

※ () 内は分担の科目数

	氏名	①基盤教育の 担当授業科目数	②学部教育の 担当授業科目数	③卒業論文の 学生数(主指導のみ)	④大学院における 担当授業科目数	⑤大学院における 修士学生数(主指導のみ)	⑥大学院における 博士学生数(主指導のみ)
安全農産物生産学	西澤 隆	0	9(6)	1	4(2)	2	0
	藤井 弘志	3(3)	13(3)	2	5(5)	1	2
	平 智	1(1)	11(11)	2	2(2)	0	0
	浦川 修司	1(1)	8(7)	3	3(2)	2	0
	堀口 健一	1(1)	15(14)	1	4(3)	1	0
	小笠原宣好	0	3(2)	2	1	0	0
	角田 憲一	1(1)	4(3)	3	1(1)	1	0
	長谷 修	0	15(13)	2	4(4)	2	1
	小林 隆	0	15(14)	3	5(5)	0	0
	片平 光彦	1(1)	14(12)	3	6(2)	2	2
	森 静香	0	12(12)	3	5(5)	3	0
	佐藤 智	1(1)	4(2)	3	2	0	0
	松山 裕城	0	14(13)	4	4(4)	1	0
	佐々木由佳	2(2)	11(11)	2	12(12)	1	0
	池田 和生	2(2)	16(16)	2	4(4)	0	0
松本 大生	1(1)	4(4)	2	2(2)	0	0	
食農環境マネジメント学	岩鼻 通明	2(1)	8(4)	2	2(1)	0	1
	小沢 互	0	9(7)	3	7(4)	1	1
	角田 毅	0	9(4)	3	4(2)	3	2
	家串 哲生	1(1)	7(3)	2	4(2)	1	0
	藤科 智海	1(1)	10(6)	4	5(2)	4	0
	渡辺 理絵	3(1)	8(3)	2	2(1)	0	0
食品・応用生命科学	三橋 涉	1(1)	14(13)	3	5	4	0
	小関 卓也	1(1)	16(15)	4	4	1	0
	豊増 知伸	1(1)	16(15)	3	5	4	0
	永井 毅	2(2)	7(3)	0	1	0	0
	木村 直子	1(1)	18(7)	3	11(9)	2	1
	加来 伸夫	4(4)	14(12)	4	5(2)	1	0
	塩野 義人	1(1)	2(1)	4	1	0	1
	渡辺 昌規	1(1)	15(5)	2	1(0)	1	0
	井上 奈穂	2(2)	5(3)	3	2	0	0
植物機能開発学	村山 哲也	3(3)	14(12)	3	4(1)	2	0
	俵谷圭太郎	4(4)	14(12)	4	4	1	0
	村山 秀樹	1(1)	13(12)	3	2	1	1
	江頭 宏昌	1(1)	15(13)	2	0	0	0
	程 為国	2(2)	5(4)	2	1	1	1
		⑦教育活動による受賞 主指導した修士学生(KIMANI SAMUELさん)が山形大学優秀学術研究賞受賞					

	氏名	①基盤教育の 担当授業科目数	②学部教育の 担当授業科目数	③卒業論文の 学生数(主指導のみ)	④大学院における 担当授業科目数	⑤大学院における 修士学生数(主指導のみ)	⑥大学院における 博士学生数(主指導のみ)
植物機能 開発学	笹沼 恒男	1(1)	14(12)	3	2(1)	0	1
	服部 聡	1(1)	15(13)	1	3	1	0
	及川 彰	1	2(1)	3	1	3	0
	星野 友紀	2(2)	13(11)	2	2	2	0
	網干 貴子	1(1)	14(12)	3	1	0	0
		⑦教育活動による受賞	山形大学優秀教育者賞				
森林科学	森 茂太	2(2)	7(5)	4	9(2)	4	1
	林田 光祐	0	11(9)	3	2	0	0
	芦谷 竜矢	1(1)	7(7)	3	4(1)	2	2
	菊池 俊一	1(1)	11(7)	4	9(2)	1	0
	小川 三四郎	1(1)	7(5)	4	7	0	0
	林 雅秀	2(1)	8(6)	1	6	1	0
	江成 広斗	2(2)	5(3)	3	4(1)	2	0
	吉村 謙一	1(1)	4(2)	0	0	0	0
	斎藤 昌幸	0	2(1)	0	0	0	0
水土環境 科学	藤井 秀人	1(1)	8(3)	4	1(1)	0	0
	奥山 武彦	1(1)	11(8)	3	0	0	0
	安中 武幸	1(1)	5(2)	3	2(2)	0	0
	渡部 徹	1(1)	15(12)	3	13(6)	3	2
	石川 雅也	3(3)	5(1)	3	3	1	0
	花山 奨	1(1)	12(7)	3	2	0	0
	渡邊 一哉	1(1)	10(5)	2	0	1	0

②研究活動

安全農産物生産学コース

西澤 隆

2-① 著書

- (1) 西澤 隆. 2017. まるごとわかるイチゴ. p.1-207. 誠文堂新光社. 東京

2-② 原著論文

- (1) Wilawan Kumpoun, Takashi Nishizawa*, Yoshie Motomura, Tanidchaya Puthmee, and Toshiyuki Aikawa. 2017. Histological and Biochemical Traits of Chilling-injured Pulp Tissues as Affected by Cold Storage of Mango Fruit. HortScience 52(10):1380-1384.
- (2) Y. Motomura, J. Sugawara, T. Aikawa, K. Nara and T. Nishizawa. 2017. Antioxidant activity of cell-wall components in netted melon flesh against ascorbic acid oxidation during fruit development. Acta Horticulturae 1179:45-50.
- (3) T. Nishizawa, T. Puthmee, R. Kawamata, T. Aikawa and Y. Motomura. 2017. Does the thickness of net tissues affect the water-proofing ability of musk melon (Cucumis melo L.) fruit? Acta Horticulturae 1179:51-59.

2-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 西沢 隆・金子暁夫・後藤 楓. 2017. ミニトマトにおける「つやなし果」の形態的および生理的特徴. 園学研16別1,17[野菜]. 102.
- (2) トーフック・トロバ,西沢 隆,菊池芽衣子,ロイ・ツヒン,ラーマン・マフザール,チャクラボルティ・ラジェシュ,奈良一寛. 低温貯蔵期間が種いもおよび真性種子ジャガイモ塊茎中のデンプンにおける生理的および形態的变化に及ぼす影響. H29東北支部. 17-18.
- (3) ムサビソニ・アロイス・西沢 隆. 温泉水がトマト`麗夏`の生長と果実品質に及ぼす影響. H29東北支部. 21-22.

2-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Takashi Nishizawa, Tuhin S. Roy, Kazuhiro Nara, Mahfuzar Rahman, Rajesh Chakraborty, Xue Li and Yoshie Motomura. 2017. Do varietal differences in the morphological traits of potato tubers affect histological and physiological traits of the starch granules? VII South-Eastern Europe Symposium on Vegetables & Potatoes. p.91.

2-⑤ 特許関係(特許出願、種苗登録等)

- (1) 「切り花の殺菌処理方法」に関する特許出願

2-⑥ 外部資金の獲得

2-⑥-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

2-⑥-(ii) 科研費以外の外部資金

- 受託研究 2件

藤井弘志

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 両角知奈・松本由美・森静香・藤井弘志(2017):大豆の葉色による診断指標の構築、日本土壤肥料学会講演要旨集、63、114
- (2) 遠藤わか菜・森静香・松本由美・藤井弘志(2017):ケイ酸施肥位置の違いが水稻の生育・ケイ酸吸収に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、63、138
- (3) 久米川和貴・森静香・及川彰・東海林暁・松本由美・藤井弘志(2017):水稻におけるケイ酸の塩分付着害軽減機構に関する研究、日本土壤肥料学会講演要旨集、63、138
- (4) 林智裕・森静香・鈴木俊矢・松本由美・藤井弘志(2017):ケイ酸吸収促進剤が生育・成分吸収に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、63、138

2-② その他の研究活動

- (1) コニカミノルタ、ヤンマー、伊藤電子工業:ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、2017年4月～2018年3月

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費以外の外部資金

- 共同研究:1件、受託研究:2件、奨学寄附金 2件

2-④ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 日本土壤肥料学会技術賞(2017年4月16日)

平 智

2-① 原著論文

- (1) Taira, S., M. Awa and D. Matsumoto. 2017. Comparison between the astringency removal of 'Hiratanenashi' and 'Denkuro' persimmon applying ethanol treatment on-tree and after harvest. Acta Hort. (in press)

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 平 智・本間瑛帆・齊藤 葵・松本大生. 2017. 山形県におけるアケビの食文化に関する研究. 園学要旨. 平29東北支部. 41-42.

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Tira, S., S. Kamio, and D. Matsumoto. 2017. Effects of microclimate around fruit and number of leaves per fruit on fruit quality in sweet cherry (*Prunus avium* L. 'Satonishiki') with special reference to "Urumi" appearance. Abstr. 8th Int. Symposium on Cherry, 5-9 June 2017, Yamagata, Japan. p.152.

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

浦川修司

2-① 著書

- (1) 唐沢豊・菅原邦生・神勝紀 編(2017)動物の飼料 第2版, 文永堂出版株式会社
- (2) 浦川修司(2018)稲発酵粗飼料の現状と今後の展開, 農村通信, 3, 40-43

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 久保聖諒・堀口健一・松山裕樹・大畑尚・石井貴大・浦川修司 (2018): 採卵鶏における動物性飼料の給与が卵の風味に影響、日本畜産学会演要旨集、124大会、175
- (2) 小野恵美・松山裕樹・浦川修司・堀口健一 (2018): 規格外パレイショサイレージの給与が肥育豚の発育と肉質に及ぼす影響、日本畜産学会演要旨集、124大会、174
- (3) 室 絢大・松山 裕樹・堀口 健一・中込 弘二・松下 景・浦川 修司(2018): 山形県庄内地域における極短穂WCS用イネ品種・系統の適応性の評価、日本草地学会演要旨集、熊本大会

堀口健一

2-① 原著論文

- (1) 田川伸一・松山裕樹・佐藤裕一郎・遠藤芳郎・堀口健一 (2017): ドライエクストルーダ処理飼料用米の第一胃内消化特性. 日本草地学会誌, 63, 89-92.

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 福室絢大・松山裕樹・堀口健一・中込弘二・松下 景・浦川修司 (2018): 山形県庄内地域における極短穂WCS用イネ品種・系統の適応性の評価. 日本草地学会誌, 64(別号), 7.
- (2) 小野恵美・松山裕樹・浦川修司・堀口健一 (2018): 規格外パレイショサイレージの給与が肥育豚の発育と肉質に及ぼす影響. 日本畜産学会第124回大会講演要旨, 174.

- (3) 久保聖諒・堀口健一・松山裕城・大畑 尚・石井貴大・浦川修司 (2018): 産卵鶏における動物性飼料の給与が卵の風味に及ぼす影響. 日本畜産学会第124回大会講演要旨, 175.

2-③ その他の研究活動

- (1) 堀口健一・松山裕城・浦川修司 (2017): 国産穀類の飼料用米を多給与した肥育豚の発育・肉質成績と食味評価に関する調査研究. 畜産の情報, 6月号, 50-58.

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費以外の外部資金

受託研究 2件、奨学寄附金 1件

小笠原宣好

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 小笠原宣好・佐々木彩香 (2017): ミニシクラメンの生育特性の品種間差、園芸学会東北支部平成29年度大会研究発表要旨、49-50

角田憲一

2-① 著書

- (1) 角田 憲一 (2018) 土壌サイエンス入門第2版, 61-70

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 角田憲一(2017): 水田における耕起時期が稲わらの浮遊および分解に与える影響, 土肥講演要旨, 63, p99
- (2) K. Kakuda (2017): Effect of N application and type of N fertilizer on N use efficiency in wetland rice, Abstracts of annual meeting of SSPN, 63, p100
- (3) K. Kakuda (2017): Nitrogen accumulation and mineralization in paddy soils after long-term application of rice straw and cow dung compost, Abstracts of annual meeting of SSPN, 63, p91
- (4) 角田憲一(2017): 土壌環境の異なる水田における稲わらと堆肥の連用が地力窒素に与える影響, 土肥講演要旨, 63, p91

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 1件、JICA研修 3件

長谷 修

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 谷中沙妃・森田修介・菅原 敬・小林 隆・西沢 隆・長谷 修(2017).バラ切り花の灰色かび病に対する電解次亜塩素酸水を用いたドライ処理法の検討. 日本植物病理学会報83(3月):194(講要). [発表2017,4,26-28, H29年度日本植物病理学会大会, 盛岡市]
- (2) 谷中沙妃・森田修介・千草 尚・菅原 敬・小林 隆・西沢 隆・長谷 修(2017) 電解次亜塩素酸水のドライ処理における遊離有効塩素量とバラ灰色かび病の発生病斑数の関係. 日本植物病理学会報84(1月):54(講要). [発表2017,9,28-29, H29年度日本植物病理学会東北部会, 弘前市]
- (3) 田 朋恵・長谷 修・小林 隆・安藤 正(2017). キュウリうどんこ病に対するケイ酸資材混合豚糞堆肥の施用効果. H日本植物病理学会報84(1月):55(講要). [発表2017,9,28-29, H29年度日本植物病理学会東北部会, 弘前市]
- (4) 谷中沙妃・森田修介・菅原敬・小林隆・西沢隆・長谷修(2018). 電解次亜塩素酸水の気化処理におけるバラ灰色かび病の発病抑制効果と遊離有効塩素量の関係[発表2018,3,25-27, H30年度日本植物病理学会大会, 神戸市]
- (5) 小林 隆・菅原隆介・田邊 大・上野 清・佐々木一嘉・白土宏之・吉田めぐみ・片平光彦・長谷 修(2018), 無人航空機(UAV)画像によるイネいもち病被害度の評価[発表2018,3,25-27, H30年度日本植物病理学会大会, 神戸市]

2-② 特許関係(特許出願、種苗登録等)

- (1) 「切り花の殺菌処理方法および殺菌ユニット」に関する特許出願

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

2-③-(ii) 科研費以外の外部資金

共同研究 3件

小林 隆

2-① 原著論文

- (1) 吉田めぐみ、藤井直哉、善林薫、小林隆、倉内賢一、上野清、大久保さゆり(2017)南野謙一、東北日本海側地域におけるいもち病発生予察システムを活用した無人ヘリによるイネいもち病効率的防除の現地実証～秋田県能代市の実証事例を中心に～、北日本病虫研報、68, 33-44

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 谷中沙妃、森田修介、菅原敬、小林隆、西澤隆、長谷修(2017)バラ切り花の灰色かび病に対する電解次亜塩素酸水を用いたドライ処理法の検討、日本植物病理学会報、83, 194
- (2) 安藤杉尋、清水弘晶、小林隆、吉田重信、對島誠也、伊藤豊影、宮下脩平、高橋英樹(2017)有機栽培育苗土から分離した細菌の混合施用による病害抑制効果と菌相変動の解析、北日本病害虫研究会報、68, 255
- (3) 小林隆、佐々木一嘉、上野清、吉田めぐみ、南野謙一、長谷修、(2017)発生予察システムを活用したいもち病無人ヘリ防除の効率化：庄内地方における現地実証例、北日本病害虫研究会報、68, 259
- (4) 田邊大、中坪あゆみ、片平光彦、小林隆、嶋田浩(2017)UAV(無人航空機)を利用した農作物の生育診断(第2報)、農業食料工学会東北支部報、64, 17-20
- (5) 谷中沙妃、森田修介、千草尚、菅原敬、小林隆、西澤隆、長谷修(2018)電解次亜塩素酸水のドライ処理における遊離有効塩素量とバラ灰色かび病の発生病斑数の関係、日本植物病理学会報、84, 54
- (6) 田朋恵、長谷修、小林隆、安藤正(2018)キュウリうどんこ病に対するケイ酸資材混合豚糞堆肥の施用効果、日本植物病理学会報、84, 55

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費以外の外部資金

受託研究 2件、共同研究 1件

片平光彦

2-① 原著論文

- (1) スタブルカルチと縦軸駆動ハローを用いた播種床造成による水稲無代かき湛水直播栽培の特徴と水稲生育、農作業研究、52(3) 121-131, 2017年09月共著
- (2) UAVを利用した農作物の生育診断(第2報)、農業食料工学会東北支部報、64 17-20, 2017年12月共著
- (3) Effects of Agricultural Machine Fuel Consumption on Paddy Fields, Journal of Agricultural Science and Technology B, 7(3) 170-178, 2017年12月共著
- (4) Effect of direct seeded rice (DSR) method using Broadcasting and Hill drop systems compared to transplanted rice (TPR), 農業食料工学会東北支部報、64 13-16, 2017年12月共著

2-② 総説

- (1) マメ類の知的選別機の開発、株式会社食品資材研究会, new food industry, 59(8) 25-32, 2017年08月

2-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 2017国際食品工業展, 国際会議, 2017年06月, 東京ビッグサイト, ベニバナの収穫・乾燥の効率化と抽出成分の機能性評価, 口頭(一般)
- (2) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2017年08月, 盛岡市, 畜産施設のIOT化とAIの適用 - 鶏舎清掃ロボットへの取り組み -, 口頭(一般)

- (3) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2017年08月, 盛岡市, UAV(無人航空機)を利用した農作物の生育診断(第2報) -マルチスペクトルカメラを用いたバレイショほ場のセンシング-, ポスター(一般)
- (4) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2017年08月, 盛岡市, Effect of direct seeded rice (DSR) method using Broadcasting and Hill drop systems compared to transplanted rice (TPR), ポスター(一般)
- (5) 農業食料工学会第75回年次大会, 国内会議, 2017年09月, 東京農業大学, UAV(無人航空機)を用いた農作物の生育診断(第一報), 口頭(一般)
- (6) 農業食料工学会第75回年次大会, 国内会議, 2017年09月, 東京農業大学, 水田転換ほ場での機械化作業体系の確立(第3報) -転換二年目ほ場でのサトイモの生育特性-, 口頭(一般)
- (7) 農作業学会大会, 国内会議, 2018年03月, 宇都宮大学, ベニバナ収穫調製作業の効率化(第1報), 口頭(一般)
- (8) 農作業学会大会, 国内会議, 2018年03月, 宇都宮大学, 鶏の飼育作業の改善とRFIDタグを使った体重自動計測装置開発(第1報), 口頭(一般)

2-④ 学会発表(国際学会)

- (1) The International Tri-Conference for Precision Agriculture in 2017, 国際会議, 2017年10月, HAMILTON, Growth monitoring of horticulture crops using unmanned aerial vehicle(part.1), ポスター(一般)
- (2) VI International Postharvest Unlimited Conferenc, 国際会議, 2017年10月, Madrid (Spain), Survival of Cut Cabbage subjected to Subzero Temperatures, ポスター(一般)

2-⑤ 外部資金の獲得

2-⑤-(i) 科研費以外の外部資金

一般受託研究 1件

森 静香

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 両角知奈・松本由美・森静香・藤井弘志(2017):大豆の葉色による診断指標の構築、日本土壤肥料学会講演要旨集、63、114
- (2) 遠藤わか菜・森静香・松本由美・藤井弘志(2017):ケイ酸施肥位置の違いが水稻の生育・ケイ酸吸収に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、63、138
- (3) 久米川和貴・森静香・及川彰・東海林暁・松本由美・藤井弘志(2017):水稻におけるケイ酸の塩分付着害軽減機構に関する研究、日本土壤肥料学会講演要旨集、63、138
- (4) 林智裕・森静香・鈴木俊矢・松本由美・藤井弘志(2017):ケイ酸吸収促進剤が生育・成分吸収に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、63、138

2-② 特許関係(特許出願、種苗登録等)

- (1) 「燃焼資材の製造方法および製造装置」に関する特許出願

2-③ その他の研究活動

- (1) (独)理化学研究所(鶴岡):水稻のケイ酸による塩分付着害軽減機構に関する連携研究、2017年4月~2018年3月
- (2) 鶴岡市、香蘭産業(株):未利用資源の資材化に関する連携研究、2017年4月~2018年3月
- (3) (独)理化学研究所:水稻における塩耐性系統の塩分付着害に関する連携研究、2017年4月~2018年3月
- (4) サカタのタネ(株)、(株)サミュエルインターナショナル、庄内地域各JA:「ケイ酸吸収促進液肥」に関する連携研究、2017年4月~2018年3月
- (5) コニカミノルタ、ヤンマー、伊藤電子工業:ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、2017年4月~2018年3月

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(代表 1件)

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 1件

佐藤 智

2-① 原著論文

- (1) Andreas Hendracipta Kurniawan, Satoru Sato, Hironori Yasuda (2018): Effects of ambient temperature and the mud snail *Cipangopaludina chinensis laeta* (Architaenioglossa: Viviparidae) on performance of rice plants (2018): Applied Entomology and Zoology (2018) 53:137-141

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) Kurniawan Andreas, Sato Satoru, Yasuda Hironori (2018) Effects of ambient temperature and the mud snails on performance of rice plant. 第62回日本応用動物昆虫学会大会要旨集
- (2) Nabilaputri Niken・Andreas Hendracipta・Satoru Sato (2018) Effects of presence and body size of *Pomacea canaliculata* on survival and fecundity of *Physa acuta*. 第62回日本応用動物昆虫学会大会要旨集
- (3) Kesima Bening Pagi・Andreas H Kurniawan・Satoru Sato (2018) Interspecific interaction in two species of fresh water snails, apple snails and mud snails. 第62回日本応用動物昆虫学会大会要旨集

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 2件(うち代表 1件)

2-③-(ii) 科研費以外の外部資金

受託研究 1件、共同研究 1件

松山裕城

2-① 原著論文

- (1) 田川伸一・松山裕城*・佐藤裕一郎・遠藤芳郎・堀口健一(2017):ドライエクストルーダ処理飼料用米の第一胃内消化特性. 日本草地学会誌, 63, 89-92

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 福室絢大・松山裕城・堀口健一・中込弘二・松下景・浦川修司(2018):山形県庄内地域における極短穂WCS用イネ品種・系統の適応性の評価、2018年度日本草地学会熊本大会講演要旨集、7.
- (2) 小野恵美・松山裕城・浦川修司・堀口健一(2018):規格外バレイショサイレージの給与が肥育豚の発育と肉質に及ぼす影響、日本畜産学会第124回大会講演要旨集、174.
- (3) 久保聖諒・堀口健一・松山裕城・大畑尚・石井貴大・浦川修司(2018):産卵鶏における動物性飼料の給与が卵の風味に及ぼす影響、日本畜産学会第124回大会講演要旨集、175.

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費以外の外部資金

受託研究 2件

佐々木由佳

2-① 著書

- (1) Masanori Okazaki and Yuka Sasaki (2018). Chapter 14 Soil environment in sago palm forest. Sago Palm -Multiple Contributions to Food Security and Sustainable Livelihoods, Hiroshi Ehara, Yukio Toyoda, Dennis V. Johnson, Eds., pp. 193-206, Springer Open, Singapore, ISBN 978-981-10-5268-2, ISBN 978-981-10-5269-9 (eBook)

2-② 原著論文

- (1) Weiguo Cheng, Samuel Munyaka Kimani, Takamori Kanno, Shuirong Tang, Aung Zaw Oo, Keitaro Tawarayama, Shigeto Sudo, Yuka Sasaki, Norio Yoshida (2018) Forage rice varieties Fukuhibiki and Tachisuzuka emit larger CH₄ than edible rice Haenuki. Soil Science and Plant Nutrition 64, 77-83

2-③ 学会発表(国内学会)

- (1) Thanh Tung Nguyen・佐々木由佳・角田憲一 (2017.9) Nitrogen accumulation and mineralization in paddy soils after long-term application of rice straw and cow dung compost. 日本土壤肥料学会講演要旨集 63, 91
- (2) 佐々木由佳・Nguyen Thanh Tung・角田憲一 (2017.9) 土壌環境の異なる水田における稲わらと堆肥の連用が地力窒素に与える影響. 日本土壤肥料学会講演要旨集 63, 91
- (3) 福田翔太・佐々木由佳・鯨島啓彰・菊田真由実・John Kimani・榎原大悟・山内彰(2017.9) ケニア ムエア灌漑地域の水稲栽培における節水栽培の適応可能性. 日本土壤肥料学会講演要旨集 63, 95
- (4) 佐藤貴広・角田憲一・佐々木由佳 (2017.9) 水田における耕起時期が稲わらの浮遊および分解に与える影響. 日本土壤肥料学会講演要旨集 63, 99
- (5) Christian Nkurunziza・Ken-ichi Kakuda・Yuka Sasaki・Kanako Okada (2017.9) Effect of N application and type of N-fertilizer on N-use efficiency in wetland rice. 日本土壤肥料学会講演要旨集 63, 100

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費以外の外部資金

受託研究 2件、共同研究 1件、奨学寄附金 2件 補助金 1件

池田和生

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 阿部美里・八代真緒・佐々木泰子・池田和生(2017)組織培養による赤着色系セイヨウナシの果皮からのカルス形成. 園学要旨. 平29東北支部:33-34
- (2) 佐藤紗野・森本陸・安孫子裕樹・池田和生(2017)PCRおよびシーケンス法によるナシ代替輸入花粉のSハプロタイプの判別. 園学要旨. 平29東北支部:35-36

2-② 学会発表(国際学会)

- (1) S. Sato, Y. Saito, K. Shirasawa and K. Ikeda. (2017) Development of DNA markers for breeding yellow cherries. 8th International Cherry Symposium
- (2) Masuda, K., H. Yamane, K. Ikeda, T. Tetsumura, M. Gao-Takai, and R. Tao. (2017) Effects of chilling accumulation on DORMANCY-ASSOCIATED MADS-box gene expressions in sweet cherry 'Satonishiki'. 8th International Cherry Symposium

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費

- (1) 挑戦的研究(萌芽) 1件(うち代表 1件)
- (2) 基盤研究(C) 1件(うち分担 1件)

2-③-(ii) 科研費以外の外部資金

受託研究 1件

松本大生

2-① 原著論文

- (1) S. Taira, M. Awa, D. Matsumoto (2017): Comparison between the Astringency Removal of 'Hiratanenashi' and 'Denkuro' Persimmon Applying Ethanol Treatment On-tree and after Harvest. Acta Horticulturae. (in press)
- (2) D. Matsumoto, S. Ishizawa, Y. Sasaki, S. Tomura (2017): Transient transformation of sweet cherry pollen with a hairpin gene construct targeting S haplotype-specific F-box, the pollen S determinant of Prunus self-incompatibility. Acta Horticulturae. (in press)

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 平 智、本間瑛帆、齊藤 葵、松本大生 (2017年6月24日): 山形県におけるアケビの食文化に関する調査研究、日本食品保蔵学会第66回大会(高知大会)

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) D. Matsumoto, S. Ishizawa, Y. Sasaki, S. Tomura (2017年6月5-9日): Transient transformation of sweet cherry pollen with a hairpin gene construct targeting S haplotype-specific F-box, the pollen S determinant of Prunus self-incompatibility. 8th International Cherry Symposium. Yamagata, Japan.

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 若手研究(A) 1件(うち代表 1件)
- (2) 基盤研究(C) 1件(うち分担 1件)

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

2-① 著書

- (1) 岩鼻通明(2017):出羽三山, 岩波新書, 240p

2-② 原著論文

- (1) 岩鼻通明(2017):米沢藩領中山村絵図覚書,村山民俗31,p.9-16.
- (2) 岩鼻通明(2017):出羽三山信仰を描いた映像記録,庄内民俗37, p.26-30.

2-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 岩鼻通明(2017):出羽三山における日本遺産認定の認識度について,東北地理学会春季大会(仙台市戦災復興記念館)

2-④ その他の研究活動

- (1) 岩鼻通明(2017):紹介:村田弘『山の神・鮭の大助譚・茂吉 東北からの民俗考』村山民俗31,p78-79.
- (2) 岩鼻通明(2017):紹介:佐賀大学地域学歴史文化研究センター刊『花守と介次郎 明治を担った小城の人びと』庄内民俗37, p.68.
- (3) 岩鼻通明(2017):文献紹介:高橋陽一『近世旅行史の研究』歴史地理学59-4.,p.27-28.

小沢 互

2-① 原著論文

- (1) 土屋正幸・小沢互・藤科智海(2017)「外食・中食事業者の仕入動向から見た産地農協の対応方向ー中小農協による「地域農協米穀事業統合体」の経済的合理性の検討ー」農村経済研究、第35巻第1号、67-74
- (2) 藤科智海・下館千尋・小沢互(2017)「学校給食へ地場産農産物を供給する農家の特徴ー鶴岡市藤島地域のサンサン・畑の会を事例にー」農業経営研究、第55巻第3号、83-88
- (3) 吉野晃弘・藤科智海・小沢互(2018)「コントラクターの発展過程とオペレーターの個別経営との関係ー山形県真室川町における飼料作コントラクターを事例としてー」農村経済研究、第35巻第2号、52-63

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) Nguyen Thi Tram Anh・小沢互・藤科智海、2017年8月26日、ベトナムの有機野菜流通における産消提携の可能性ーハノイ市を事例にー、東北農業経済学会2017年山形大会
- (2) 陳奥飛・藤科智海・小沢互、2017年8月26日、中国プロイラー産業におけるインテグレーションー山東省のプロイラー処理加工企業の調達戦略と販売戦略ー、東北農業経済学会2017年山形大会

2-③ その他の研究活動

- (1) 地域定住農業者育成プロジェクト事業(地域定住農業者育成コンソーシアム事務局長)

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

- 受託研究 1件、 奨学寄附金 1件

角田 毅

2-① 著書

- (1) 角田毅 (2018),実践! 集落営農の動かし方 全国農業会議所(分担執筆)

2-② 原著論文

- (1) Kagenza Jean Marie Vianney, Tsuyoshi SUMITA * (2017); Impact of Farmer Field Schools in Rwanda- Case study of Potato farmers in Musanze district- Journal of Rural Society and Economics, Vol35-2: 84-91
- (2) 鈴木洋、角田毅 * (2017); 集落営農法人における果樹作導入の意義と課題—山形県村山地域におけるオウトウ産地を対象に一、農村経済研究、第35巻第2号: 92-100
- (3) 中村勝則、藤井吉隆、上田賢悦、角田毅 (2017); 集落営農法人における従業員雇用と収益分配—東北地域の特性を踏まえた検討—、農業経営研究、第52巻第2号: 15-20

2-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 角田毅(2017): 水稻単作地帯からの園芸振興、東北農業経済学会講演要旨集
- (2) Rosalia Natalia, Tsuyoshi SUMITA (2017): Characteristics of the Farmer Group in Indonesia -A Case Study of Bambanglipuro District, Yogyakarta Special Region-, 平成29年度日本農業経営学会研究大会報告要旨集
- (3) 中村勝則、角田毅(2017): 規模拡大に伴う水田作経営と農村コミュニティの関係変化—秋田県における農業法人を事例に一、平成29年度日本農業経営学会研究大会報告要旨集
- (4) 藤井吉隆、角田毅、中村勝則、山本和博(2017): 農業法人における雇用人材の就業意識に関する考察—大規模稲作経営における事例分析—、2017年度地域農林経済学会報告要旨集
- (5) 上田賢悦、角田毅、藤井吉隆、中村勝則(2016): 集落型農業法人雇用就農者を対象としたPAC分析による組織社会化の検討、日本農業経済学会講演要旨集

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(A) 1件(うち分担 1件)
- (2) 基盤研究(C) 5件(うち代表 1件、分担 4件)

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

受託研究 3件

家串哲生

2-① 外部資金の獲得

2-①-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち分担 1件)

藤科智海

2-① 原著論文

- (1) 土屋正幸・小沢互・藤科智海(2017): 外食・中食事業者の仕入動向から見た産地農協の対応方向—中小農協による「地域農協米穀事業統合体」の経済的合理性の検討—、農村経済研究, 35(1), 67-74
- (2) 藤科智海(2017): 食品循環資源の堆肥化とその市場形成, 農業と経済, 83(8), 52-60
- (3) 藤科智海・下館千尋・小沢互(2017): 学校給食へ地場産農産物を供給する農家の特徴—鶴岡市藤島地域のサンサン・畑の会を事例に一、農業経営研究, 55(3), 83-88, 2017年10月
- (4) 吉野晃弘・藤科智海*・小沢互(2018): コントラクターの発展過程とオペレーターの個別経営との関係—山形県真室川町における飼料作コントラクターを事例として—、農村経済研究, 35(2), 52-63, 2018年3月
- (5) 陳奥飛・金成学・藤科智海*(2018): 中国プロイラー産業における農民專業合作社の役割, 農村経済研究, 84-95, 2018年3月

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) Nguyen Thi Tram Anh・小沢互・藤科智海(2017): ベトナムの有機野菜の流通における産消提携の可能性—ハノイ市を事例に一、第53回東北農業経済学会山形大会報告要旨, 76頁

- (2) 陳奥飛・藤科智海・小沢互(2017):中国プロイラー産業におけるインテグレーションー山東省のプロイラー処理加工企業の調達戦略と販売戦略ー,第53回東北農業経済学会山形大会報告要旨,77頁

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費以外の外部資金

受託研究 3件

渡辺理絵

2-① 著書

- (1) 渡辺理絵(2017)「絵図から過去の景観を考える」月刊「地理」747,36-43

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 渡辺理絵(2017):近世日本の産物に関する資料と地理情報ー動植物の分布域復元を視野にー,2017、東北地理学会春季大会、2017年5月21日、仙台市戦災復興記念館

2-③ その他の研究活動

- (1) 渡辺理絵(2017):書評 有菌正一郎著『地産地消の歴史地理』地理62-2, 117頁
- (2) 渡辺理絵(2017):書評 福嶋紀子著『赤米のたどった道もうひとつの日本のコメ』地理62-3, 121頁
- (3) 渡辺理絵(2017):書評 島越皓之著『環境の日本史5自然利用と破壊』地理62-4, 114頁
- (4) 渡辺理絵(2017):書評 美濃飛驒古地図同攷会編/伊藤安男監修『古地図で楽しむ岐阜 美濃・飛驒』地理62-5, 88頁
- (5) 渡辺理絵(2017):書評 藻谷浩介・山田桂一郎著『観光立国の正体』地理62-6, 94頁
- (6) 渡辺理絵(2017):書評 秋篠宮文仁・緒方喜雄著/森誠一編『ナマズの博物誌』地理62-7, 106頁
- (7) 渡辺理絵(2017):書評 野間晴雄ほか著『ジオ・パルNEO[第2版]地理学・地域調査便利帖』地理62-8, 118頁
- (8) 渡辺理絵(2017):書評 田口洋美著『クマ問題を考える野生動物生息域拡大のリテラシー』地理62-9, 118頁
- (9) 渡辺理絵(2017):書評 岡恵介著『山棲の生き方木の実食・焼畑・短角牛・ストック型社会』地理62-11, 114頁
- (10) 渡辺理絵(2018):書評 帝国書院編『百年前の地図帳・教科書から読みとく大正時代の日本』地理63-1, 119頁
- (11) 渡辺理絵(2018):書評 佐藤哲著『フィールドサイエンティスト地域環境学という発想』地理63-2, 104頁
- (12) 渡辺理絵(2018):書評 池谷和信著『狩猟採集民からみた地球環境史 自然・隣人・文明との共生』地理63-3, 102頁

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 科研若手(B)1件(うち代表 1件)

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

平成29年度ダイバーシティ事業研究費

食品・応用生命科学コース

三橋 渉

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 合田智聡、坂井亜莉里、伊藤安里紗、宮本暎司、Matthew R. Shenton, 三橋渉, 倉田のり、山根久和、岡田憲典、豊増知伸(2017)野生イネにおけるジテルペン環化酵素遺伝子 植物化学調節学会研究発表記録集、52、111
- (2) 富田啓介、松尾安浩、川向誠、八代田陽子、吉田稔、三橋渉、野尻秀昭、岡田憲典(2017)植物がつくり出す化学防御物質モミラクトンの分裂酵母に対する生育抑制効果 植物化学調節学会 第52回大会 研究発表記録集、52、109
- (3) 坂井優生、菅原かほり、千葉光浩、川本望、樋口雄介、増口潔、山口信次郎、荒木崇、三橋渉、深澤壽太郎、加藤修雄、豊増知伸(2017)フシコクシン依存14-3-3 タンパク質相互作用を利用した転写因子の機能制御 植物化学調節学会 第52回大会 研究発表記録集、52、78
- (4) 吉田昂平、原 遵、二村美恵、阿部央樹、高橋伸明、豊増知伸、三橋 渉(2016): 高等植物の細胞周期停止因子は種々のタンパク質と結合し得る? 日本農芸化学会東北支部第151回大会講演要旨集 p.35

2-② その他の研究活動

- (1) 三橋 渉、小倉亮子、関史恵、大熊康仁、小嶋優香、渡部想乃子、豊増知伸(2017): シロイヌナズナ細胞周期停止因子とオートファジー因子の関係性は? 第25回山形分子生物学セミナーで口頭発表(平成29年11月11日)
- (2) 内山晋司、吉田昂平、法師人悠也、二村美恵、阿部央樹、高橋伸明、豊増知伸、三橋 渉(2017): シロイヌナズナ細胞周期停止因子の過剰発現体とノックアウト体におけるアブシジン酸応答系の観察 第25回山形分子生物学セミナーで口頭発表(平成29年11月11日)

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費以外の外部資金

共同研究 1件

小関卓也

2-① 原著論文

- (1) D. Komiya, A. Hori, T. Ishida, K. Igarashi, M. Samejima, T. Koseki, S. Fushinobu, Crystal structure and substrate specificity modification of acetyl xylan esterase from *Aspergillus luchuensis*. *Applied and Environmental Microbiology*, 83, e01251-17 (2017). <https://doi.org/10.1128/AEM.01251-17>
- (2) J. Islam, T. Koseki, K. Watanabe, Ardiansyah, S. Budijant, A. Oikawa, M. Alauddin, T. Goto, H. Aso, M. Komai, H. Shirakawa, Dietary supplementation of fermented rice bran effectively alleviates dextran sodium sulfate-induced colitis in mice. *Nutrients*, 9, 747 (2017). <https://doi.org/10.3390/nu9070747>
- (3) M. Ishikawa, Y. Shiono, T. Koseki*, Biochemical characterization of *Aspergillus oryzae* recombinant α -L-rhamnosidase expressed in *Pichia pastoris*. *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 124, 630-634 (2017). <https://doi.org/10.1016/j.jbiosc.2017.07.007>
- (4) A. Tchoukoua, T. Ota, R. Akanuma, Y.-M. Ju, U. Supratman, T. Murayama, T. Koseki, Y. Shiono, A phytotoxic bicyclic lactone and other compounds from endophyte *Xylaria curta*. *Natural Product Research*, 31, 2113-2118 (2017). <https://doi.org/10.1080/14786419.2016.1277352>
- (5) S. Yoshida, T. Suzuki, H. Furuno, T. Aboshi, T. Murayama, T. Koseki, Y. Shiono, Spectroscopic characterisation of two polyketide metabolites from *Cylindrocarpon* sp. from driftwood, *Natural Product Research*, 31, 1-5 (2017). <https://doi.org/10.1080/14786419.2017.1332616>
- (6) N. R. Ariefita, P. Kristiana, H. H. Nurjanto, H. Momma, E. Kwon, T. Ashitani, K. Tawaraya, T. Murayama, T. Koseki, H. Furuno, N. Usukhbayar, K. Kimura, Y. Shiono, Nectrianolins A, B, and C, new metabolites produced by endophytic fungus *Nectria pseudotrichia* 120-1NP, *Tetrahedron Letters*, 58, 4082-4086 (2017). <https://doi.org/10.1016/j.tetlet.2017.09.032>
- (7) A. Tchoukoua, R. Hasegawa, K.A. Hendracipta, S. Sato, T. Koseki, Y. Shiono, Structure elucidation of new fusarielins from *Fusarium* sp. and their antimicrobial activity. *Magnetic Resonance in Chemistry*, 56, 32-36 (2018). <https://doi.org/10.1002/mrc.4662>

- (8) A. Tchoukoua, T. Suzuki, N. R. Ariefa, T. Koseki, Y. Okawa, K. Kimura, Y. Shiono, A new eremophilane sesquiterpene from the fungus *Xylaria* sp. V-27 and inhibition activity against degranulation in RBL-2H3 cells. *Journal of Antibiotics*, 70, 1129-1132 (2017).
<https://doi.org/10.1038/ja.2017.120>

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 川崎真由, 石川真衣, 塩野義人, 小関卓也 (2017): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来 6-O- α -L-rhamnosyl- β -D-glucosidase (AoRut) の酵素化学的性質, 第9回日本応用糖質科学会東北支部会講演会, 仙台(7月)
- (2) 鈴木拓馬, 小関卓也, 大野美紗, 木村賢一, 塩野義人 (2017): 海藻より分離した糸状菌 *Paraconiothyrium* sp. SW-B 株が生産する新規 δ -ラクトン類とそれらの生理活性について, 第16回新規素材探索研究会, 横浜 (6月)
- (3) 市川響太郎, 佐々木克仁, 塩野義人, 小関卓也 (2017): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来タンナーゼ (AoTanB) の諸性質, 第69回日本生物工学会, 東京 (9月)
- (4) 川崎真由, 石川真衣, 塩野義人, 小関卓也 (2017): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来ルチノシダーゼ AoRut の酵素学的諸性質, 日本農芸化学会東北支部第152大会, 秋田(11月)
- (5) 鈴木拓馬, 吉田誠也, 網干貴子, 村山哲也, 小関卓也, 上杉祥太, 木村賢一, 塩野義人 (2017): 流木より分離した糸状菌 *Cylindrocarpus* sp. SY-39株が生産する物質について, 日本農芸化学会2017年度大会, 3/18-3/20(京都)
- (6) 中村智, 鈴木拓馬, 小関卓也, 塩野義人 (2017): 糸状菌 *Pseudocosmospora* sp. Bm-1-1 株が生産する二次代謝産物について, 日本農芸化学会東北支部第152大会, 秋田(11月)
- (7) Nanang Rudianto Ariefa, Tatsuya Ashitani, Keitaro Tawaraya, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Narandulam Usukhbayar, Ken-ichi Kimura, Yoshihito Shiono (2017): Sesquiterpene-epoxycyclohexenone conjugates from *Nectria pseudotrichia*, 日本農芸化学会東北支部第152大会, 秋田(11月)
- (8) 市川響太郎, 佐々木克仁, 塩野義人, 小関卓也 (2017): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来タンナーゼ AoTanB の生化学的特性, 第17回糸状菌分子生物学コンファレンス, 11月(佐賀)
- (9) 市川響太郎, 佐々木克仁, 塩野義人, 小関卓也 (2017): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来タンナーゼ AoTanB の生化学的特性, 2017年度日本生物工学会北日本支部福島シンポジウム, 12月(福島)
- (10) 川崎真由, 石川真衣, 塩野義人, 小関卓也 (2017): フラボノイドからルチノースを加水分解する麹菌 *Aspergillus oryzae* の新規ジグリコシダーゼ, 2017年度日本生物工学会北日本支部福島シンポジウム, 12月(福島)
- (11) Nanang Rudianto Ariefa, Takako Aboshi, Keitaro Tawaraya, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Ken-ichi Kimura, Yoshihito Shiono (2018): New Isocoumarins, Naphthoquinones, and Cleistanthane Diterpene from *Nectria pseudotrichia* 120-1NP, 日本農芸化学会2018年度大会, 3月(名古屋)
- (12) 鈴木拓馬, 網干貴子, 小関卓也, 村山哲也, 塩野義人 (2018): マングローブ植物由来糸状菌 *Bionectria ochroleuca* B5-2株が生産するりんごジュース米培地により誘導される二次代謝産物について, 日本農芸化学会2018年度大会, 3月(名古屋)

2-③ その他の研究活動

- (1) K. Ichikawa, K. Sasaki, Y. Shiono, T. Koseki (2017): An *Aspergillus oryzae* Tannase: Cloning and Expression of AotanB Gene, and Characterization of the Recombinant Enzyme. 2nd International Symposium on Health-Care Technology 2017 in Yamagata, Nov. 30 (Yonezawa).
- (2) M. Kawasaki, M. Ishikawa, Y. Shiono, T. Koseki (2017): A Novel *Aspergillus oryzae* Diglycosidase That Hydrolyzes 6-O- α -L-rhamnosyl- β -D-glucoside from Flavonoids, 2nd International Symposium on Health-Care Technology 2017 in Yamagata, Nov. 30 (Yonezawa).

2-④ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 第17回糸状菌分子生物学コンファレンス企業特別賞(フジワラ夢醸賞), 市川響太郎, 佐々木克仁, 塩野義人, 小関卓也, 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来タンナーゼ AoTanB の生化学的特性, 11月17日

豊増知伸

2-① 原著論文

- (1) Shinde, S. S., Minami, A., Chen, Z., Tokiwano, T., Toyomasu, T., Kato, N., Sassa, T., and Oikawa, H. (2017): Cyclization mechanism of phomopsene synthase: mass spectrometry based analysis of various site-specifically labeled terpenes. *J. Antibiot.* 70, 632-638

2-② 総説

- (1) 豊増知伸、宮本皓司、岡田憲典 (2017) 栽培イネのジテルペン系ファイトアレキシン生合成遺伝子とその進化、植物の生長調節、53, 85-91

2-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 伊藤瑛、手塚大介、三橋渉、今井亮三、豊増知伸 (2016年10月9日) イネのent-KAURENE SYNTHASE 2の特徴付け、日本農芸化学会東北支部第151回大会。
- (2) 湊 志帆、宮本皓司、三橋 渉、山根久和、岡田憲典、豊増知伸 (2016年10月9日) ミナトカモジグサのジテルペン環化酵素遺伝子、日本農芸化学会東北支部第151回大会。
- (3) 坂井優生、菅原かほり、川本望、松浦嵩、千葉光浩、三橋渉、荒木崇、深澤壽太郎、加藤修雄、豊増知伸 (2016年10月9日) フシコクシン処理による花成関連bZIP転写因子FD1と14-3-3タンパク質相互作用の人為制御、日本農芸化学会東北支部第151回大会。

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)
- (2) 新学術領域(公募) 1件(うち代表 1件)

永井 毅

2-① 原著論文

- (1) N. KAI, T. INOUE., and T. NAGAI, (2017): Each effect of the boiling treatment upon the distributions of selenium and mercury in short-necked clam. *Studies in Science and Technology*, 6, 31-34
- (2) T. NAGAI, N. KAI, Y. TANOUE, and N. SUZUKI, (2017): The fruit liquor prepared from everbearing strawberry (*Fragaria x ananassa* Duch.) cultivar, 'Summertiarra' berries with superior health promoting abilities. *SciFed Food & Dairy Technology Journal*, 1, 1000006
- (3) N. KAI, T. INOUE, and T. NAGAI, (2017): The available utilization of selenium from some inedible tissues of marine products-III: The distribution of selenium in several species of shellfish. *Studies in Science and Technology*, 6, 103-106
- (4) T. NAGAI, N. KAI, Y. TANOUE, and N. SUZUKI, (2018): Chemical properties of commercially available honey species and the functional properties of caramelization and Maillard reaction products derived from these honey species. *Journal of Food Science and Technology*, 55, 586-597
- (5) T. NAGAI, N. KAI, Y. TANOUE, and N. SUZUKI, (2018): Characteristics of rice flour breads using yeast isolated from pear Red Bartlett fruits. *Journal of Agricultural Science*, 10, 16-29
- (6) T. NAGAI, Y. TANOUE, N. KAI, and N. SUZUKI, (2018): Comparison of bread-making quality on *Saccharomyces cerevisiae* strain YTPR1 prepared in different conditions. *Journal of Agricultural Science*, 10, 47-57
- (7) T. NAGAI, Y. TANOUE, N. KAI, and N. SUZUKI, (2017): Anti-oxidative and anti-allergic activities of type I collagen hydrolysates from emu skins as by-product. *SciFed Food & Dairy Technology Journal*, in press

2-② 外部資金の獲得

2-②-(i) 科研費以外の外部資金

- 受託研究 1件、奨学寄附金 1件

木村 直子

2-① 原著論文

- (1) Ren Watanabe, Naoko Kimura* (2018)
Non-suckling starvation of neonatal mice promotes primordial follicle formation with activation of ovarian autophagy. *Journal of Reproduction and Development* 64(1):89-94.
- (2) Shinji Hamashima, Takujiro Homma, Sho Kobayashi, Naoki Ishii, Toshihiro Kurahashi, Ren Watanabe, Naoko Kimura, Hideyo Sato & Junichi Fujii (2017)
Decreased reproductive performance in xCT-knockout male mice. *Free Radical Research* 51(9-10):851-860.

2-② 総説

- (1) 佐藤英明, 眞鍋昇, 木村直子, 細井美彦, 小川宣子, 今井裕, 祝前博明, 柁村恭子, 林良博, 前多敬一郎, 矢野秀雄, 柏崎直巳(2017年) 報告「畜産学の特性に配慮した教育・研究課題—飼育動物の安定的利活用を目指して—」. 日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会. 2017年6月21日.
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h170621.pdf>

2-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 木村直子. 一般社団法人日本卵子学会平成29年度第16回生殖補助医療胚培養士資格認定制度審査の講習会の講師。「受精及び胚発育と着床など」. 2017年4月22日. TFTビル東館(東京都江東区).
- (2) 鈴木瑞穂, 小原太樹, 藤井順逸, 木村直子. PP1の発現動態を指標とする染色体異数性発生機序の解析および異数性低減培養系の検討. 第58回日本卵子学会学術集会, 2017年6月2日. 沖縄コンベンションセンター(沖縄市).
- (3) 石井実佳, 石塚美咲, 藤井順逸, 木村直子. マウス卵の紡錘体形態に及ぼす加齢あるいは酸化ストレスの影響の違いの検証. 第58回日本卵子学会学術集会, 2017年6月3日. 沖縄コンベンションセンター(沖縄市). 学術奨励賞(口演部門)受賞.
- (4) 岡部友香, 高橋素子, 宮田哲, 藤井順逸, 木村直子. 卵初期発生過程におけるグルクロン酸抱合機構の解明と高発生能培地への応用～アルデヒド還元酵素遺伝子欠損マウス卵の解析から～. 第35回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2017年7月20日. 米子コンベンションセンターBiG SHiP(米子市). 世界体外受精会議記念賞候補演題(基礎系)に採択.
- (5) 小原太樹, 鈴木瑞穂, 藤井順逸, 木村直子. SAC因子Mps1の発現動態を指標とした酸化ストレスによる染色体異数性発生機序の解明. 第35回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2017年7月21日. 米子コンベンションセンターBiG SHiP(米子市).
- (6) 渡辺連, 佐藤英世, 木村直子. xCT遺伝子欠損雌マウスの高い備蓄卵胞数の要因解明とそれらを利用した卵胞数制御の試み. 日本畜産学会第124回大会, 2018年3月28日. 東京大学(東京都文京区). 優秀発表賞受賞.

2-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Ren Watanabe, Naoko Kimura. Starvation and exogenous autophagy inducer increases the number of primordial follicles at neonatal period. 50th Annual Meeting of the Society for the Study of Reproduction, 2017年7月15日. Marriott Wardman Park (Washington D.C., USA).
- (2) Ren Watanabe, Naoko Kimura. Starvation and exogenous autophagy inducer increases the number of primordial follicles at neonatal period. 4th World Congress of Reproductive Biology. 2017年9月28日. 沖縄コンベンションセンター(沖縄市).
- (3) Mizuho Suzuki, Taiki Ohara, Junichi Fujii, Naoko Kimura. Effect on N-acetyl-L-cysteine for chromosome aneuploidy of oocytes from SOD1 deficient mice. 4th World Congress of Reproductive Biology, 2017年9月28日. 沖縄コンベンションセンター(沖縄市).
- (4) Yuka Okabe, Motoko Takahashi, Satoshi Miyata, Junichi Fujii, Naoko Kimura. Glucuronidation is involved with early embryonic development in vitro. 4th World Congress of Reproductive Biology, 2017年9月29日. 沖縄コンベンションセンター(沖縄市). Young scientists' programsに採択(口頭発表へのリクルート).
- (5) Mika Ishii, Misaki Ishizuka, Mizuho Suzuki, Naoko Kimura. Effect on NAD⁺ precursor in aged mice oocytes matured in vitro on spindle morphology and developmental ability. 4th World Congress of Reproductive Biology, 2017年9月29日. 沖縄コンベンションセンター(沖縄市).

2-⑤ 外部資金の獲得

2-⑤-(i) 科研費

- (1) 挑戦的研究(萌芽) 1件(うち代表 1件)

2-⑤-(ii) 科研費以外の外部資金

受託研究 1件、奨学寄付金 1件

2-⑥ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 石井実佳(主指導学生の受賞). 第58回日本卵子学会学術集会 学術奨励賞(口演部門). マウス卵の紡錘体形態に及ぼす加齢あるいは酸化ストレスの影響の違いの検証. 2017年6月3日.
- (2) 岡部友香(主指導学生の受賞). 4th World Congress of Reproductive BiologyにてYoung scientists' programsに採択. Glucuronidation is involved with early embryonic development in vitro. 2017年9月29日.
- (3) 佐々木将(主指導学生の受賞). 平成29年度食品応用生命科学コース卒業論文発表会優秀発表賞. 新生仔マウスにおける原始卵胞への分化・形成機構の解明. 2018年2月15日.

- (4) 宮島理央(主指導学生の受賞). 平成29年度食品応用生命科学コース卒業論文発表会優秀発表賞. マウス卵初期発生過程におけるmicroRNAの発現動態と卵培養系への応用. 2018年2月15日.
- (5) 岡部友香(主指導学生の受賞). 山形大学農学部鶴窓会長賞. 優秀な修士論文発表に対して授与. マウス初期胚発生過程でのグルクロン酸抱合の役割とその制御による高い発生培養系の開発. 2018年3月17日.
- (6) 木村直子. 山形大学外部資金獲得による表彰. 2018年3月28日.
- (7) 渡辺連(主指導学生の受賞). 日本畜産学会第124回大会優秀発表賞. xCT遺伝子欠損雌マウスの高い備蓄卵胞数の要因解明とそれらを利用した卵胞数制御の試み. 2018年3月28日.

加来伸夫

2-① 原著論文

- (1) Atsuko Ueki, Kazushi Goto, Yoshimi Ohtaki, Nobuo Kaku and Katsuji Ueki (2017) Description of *Anaerotignum aminivorans* gen. nov., sp. nov., a strictly-anaerobic, amino-acid-decomposing bacterium isolated from a methanogenic reactor, and reclassification of *Clostridium propionicum*, *Clostridium neopropionicum* and *Clostridium lactatifermentans* as *Anaerotignum* species. *Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology*, 67(10), 4146-4153.
- (2) Atsuko Ueki, Toshiaki Takehara, Gen Ishioka, Nobuo Kaku and Katsuji Ueki (2017) Degradation of the fungal cell wall by clostridial strains isolated from soil subjected to biological soil disinfestation and biocontrol of *Fusarium* wilt disease of spinach. *Applied Microbiology and Biotechnology*, 101 (22), 8267-8277.

2-② 特許関係(特許出願、種苗登録等)

- (1) 「脱水汚泥(浄水発生土乾燥物等)を用いた嫌気発酵の安定化・効率化」に関する特許出願

2-③ その他の研究活動

- (1) 山形県自動車販売店リサイクルセンター:資源リサイクルに関する共同研究
- (2) (株)エコハイテックコーポレーションおよび(有)拓芯:浄水発生土乾燥物の有効活用に関する共同研究

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 2件

塩野義人

2-① 原著論文

- (1) M. Ishikawa, Y. Shiono, T. Koseki, (2017). Biochemical characterization of *Aspergillus oryzae* recombinant α -L-rhamnosidase expressed in *Pichia pastoris*. *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 124, 630-634. Doi: 10.1016/j.jbbiosc.2017.07.007.
- (2) Tchoukoua, A., Suzuki, T., Ariefta, N. R., Koseki, T., Okawa, Y., Kimura, K.-I., Shiono, Y*, (2017). A new eremophilane sesquiterpene from the fungus *Xylaria* sp. V-27 and inhibition activity against degranulation in RBL-2H3 cells. *J. Antibiotics*. 70, 1129-1132.
- (3) Tchoukoua, A., Hasegawa, R., Hendrapipta, K. A., Sato, S., Koseki, T., Shiono, Y*, 2018. Structure elucidation of new fusarielins from *Fusarium* sp. and their antimicrobial activity. *Magn. Reson. Chem.*, 56, 32-36. doi: 10.1002/mrc.4662.
- (4) Y. Shiono, N.I. Muslihah, T. Suzuki, N.R. Ariefta, C. Anwar, H.H. Nurjanto, Takako Aboshi, T. Murayama, K. Tawaraya, T. Koseki, J. Yoshida, N. Usukhbayar, Shota Uesugi, K. Kimura (2017). New Eremophilane and Dichlororesorcinol Derivatives Produced by Endophytes Isolated from *Ficus ampelas*. *J. Antibiot.* 70, 1133-1137.
- (5) Lilis Siti Aisyah, Yenny Febriani Yun,1 Tati Herlina, Euis Julaeha, Achmad Zainuddin, Ida Nurfarida, Ace Tatang Hidayat, Unang Supratman, and Yoshihito Shiono. (2017). Flavonoid Compounds from the Leaves of *Kalanchoe prolifera* and Their Cytotoxic Activity against P-388 Murine Leukimia Cells. *Nat Prod Sci.* 23(2):139-145.

- (6) Kindi Farabi, Desi Harneti, Nurlelasari, Rani Maharani, Ace Tatang Hidayat, Khalijah Awang, Unang Supratman, Yoshihito Shiono. 2017. New cytotoxic protolimonoids from the stem bark of *Aglaia argentea* (Meliaceae) *Phytochemistry Letters*, Volume 21, 211–215
- (7) Lannang AM, Sema DK, Tatsimo SJN, Tankeu VFT, Tegha HF, Wansi JD, Shiono Y, Sewald N. (2017). A new depsidone derivative from the leaves of *Garcinia polyanthus*. *Nat Prod Res.* 2017 Sep 20:1–6. doi:10.1080/14786419.2017.1378201.
- (8) Yoshida S, Suzuki T, Furuno H, Aboshi T, Murayama T, Koseki T, Shiono Y*. (2018). Spectroscopic characterisation of two polyketide metabolites from *Cylindrocarpon* sp. from driftwood. *Nat Prod Res.* 2018, 32:60–64. doi: 10.1080/14786419.2017.1332616.
- (9) Fotso GW, Kamga J, Ngameni B, Uesugi S, Ohno M, Kimura KI, Momma H, Kwon E, Furuno H, Shiono Y, Ingrid SK, Yeboah SO, Ngadjui BT. (2017). Secondary metabolites with antiproliferative effects from *Albizia glaberrima* var *glabrescens* Oliv. (Mimosoideae). *Nat Prod Res.* 31, 1981–1987. doi:10.1080/14786419.2016.1269097.
- (10) Quach HT, Tanigaki R, Yokoigawa J, Yamada Y, Niwa M, Hirano S, Shiono Y, Kimura KI, Kataoka T. (2017). Allantopyrone A interferes with multiple components of the TNF receptor 1 complex and blocks RIP1 modifications in the TNF- α -induced signaling pathway. *J. Antibiot (Tokyo)*. 2017 Aug;70(9):929–936. doi: 10.1038/ja.2017.74.
- (11) Tchoukoua A, Tabopda TK, Usukhbayar N, Kimura KI, Kwon E, Momma H, Koseki T, Shiono Y*, Ngadjui BT. New triterpene saponins from the roots of *Acacia macrostachya* (Mimosaceae). *Biosci Biotechnol Biochem.* 81, 2261–2267. doi: 10.1080/09168451.2017.1390393
- (12) N. R. Ariefta, P. Kristiana, H.H. Nurjanto, H. Momma, E. Kwon, T. Ashitani, K. Tawaraya, T. Murayama, T. Koseki, H. Furuno, N. Usukhbayar, K. Kimura, Y. Shiono* (2017). Nectrianolins A, B, and C, new metabolites produced by endophytic fungus *Nectria pseudotrichia* 120–1NP. *Tetrahedron Lett.* 58, 4082–4086.
- (13) Tchoukoua, A., Tabopda, T. K., Uesugi, S., Ohno, M., Kimura, K.-I., Kwon, E., Momma, H., Horo, I., Çalişkan, O. A., Shiono, Y*, Ngadjui, B. T., (2017). Triterpene saponins from the roots of *Acacia albida* Del. (Mimosaceae). *Phytochemistry*, 136, 31–38.
- (14) Tchoukoua, A., Ota, T., Akanuma, R., Ju, Y.-M., Supratman, U., Murayama, T., Koseki, T., Shiono, Y*, (2017). A phytotoxic bicyclic lactone and other compounds from endphyte *Xyalaria curta*. *Nat. Prod. Res.*, 31, 2113–2118.
- (15) Tchoukoua, A., Tabopda, T. K., Simo, I. K., Uesugi, S., Ohno, M., Kimura, K.-I., Kwon, E., Momma, H., Shiono, Y*, Ngadjui, B. T., 2017. Two new triterpene saponins from the barks of *Acacia albida* Del. (Mimosaceae). *Nat. Prod. Res.*, doi.org/10.1080/14786419.2017.1371156.
- (16) Uesugi S, Muroi M, Kondoh Y, Shiono Y, Osada H, Kimura KI. (2017). Allantopyrone A activates Keap1–Nrf2 pathway and protects PC12 cells from oxidative stress-induced cell death. *J Antibiot.* 70, 429–434.
- (17) T. Koseki, M. Otsuka, T. Mizuno, Y. Shiono (2017): Mutational analysis of Kex2 recognition sites and a disulfide bond in tannase from *Aspergillus oryzae*. *Biochemical and Biophysical Research Communications*, 482, 1165–1169. DOI: 10.1016/j.bbrc.2016.12.006.
- (18) Kindi Farabi, Desi Harneti, Nurlelasari, Rani Maharani, Ace Tatang Hidayat, Unang Supratman, Khalijah Awang, Yoshihito Shiono (2017): Cytotoxic Steroids from the Bark of *Aglaia argentea* (Meliaceae). *CMU J. Nat. Sci.* 16. 293–306.
- (19) Takako Aboshi, Shiho Ishiguri, Yoshihito Shiono & Tetsuya Murayama (2018): Flavonoid glycosides in Malabar spinach *Basella alba* inhibit the growth of *Spodoptera litura* larvae. *Biosci Biotechnol Biochem.* 82, 8–14.
- (20) Ace Tatang Hidayat, Kindi Farabi, Desi Harneti, Rani Maharani, Darwati, Nurlelasari, Tri Mayanti, Arlette Suzy Setiawan, Unang Supratman, and Yoshihito Shiono. Cytotoxicity and Structure Activity Relationship of Dammarane-Type Triterpenoids from the Bark of *Aglaia elliptica* against P-388 Murine Leukemia Cells. *Natural Product Sciences.* 23(4) : 291–298 (2017). <https://doi.org/10.20307/nps.2017.23.4.291>
- (21) Kindi Farabi, Desi Harneti, Nurlelasari, Rani Maharani, Ace Tatang Hidayat, Khalijah Awang, Unang Supratman and Yoshihito Shiono. (2017): New Cytotoxic Pregnane-type Steroid from the Stem Bark of *Aglaia elliptica* (Meliaceae). *Rec. Nat. Prod.* (2017), 12:2 ; 121–127

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) New Isocoumarins, Naphthoquinones, and Cleistanthane Diterpene from *Nectria pseudotrichia* 120–1NP
Nanang Rudianto Ariefta Takako Aboshi, Keitaro Tawaraya, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Ken-ichi Kimura, Yoshihito Shiono、日本農芸化学会2018年度大会、名古屋

- (2) マングローブ植物由来糸状菌 *Bionectria ochroleuca* B5-2株が生産するりんごジュース米培地により誘導される二次代謝産物について、鈴木拓馬、網干貴子、小関卓也、村山哲也、塩野義人、日本農芸化学会2018年度大会、名古屋
- (3) ツキヨタケ(*Ompharotus guepiniformis*)子実体に含まれるセスキテルペノイド類について *Sesquiterpenes from fruiting body of Ompharotus guepiniformis*
青木聡樹、網干貴子、塩野義人、村山哲也、日本農芸化学会2018年度大会、名古屋
- (4) メノマンネングサ(*Sedum japonicum*)に含まれる新規フラボノイド糖体について *Novel flavonoid glycosides from Sedum japonicum* 千葉 恒太、網干 貴子、塩野 義人、村山 哲也 (山形大院農)、日本農芸化学会2018年度大会、名古屋
- (5) 海藻より分離した糸状菌 *Paraconiothyrium* sp. SW-B 株が生産する新規 トラクトン類とそれらの生理活性について
鈴木拓馬、小関卓也、大野美紗、木村賢一、塩野義人、第16回新規素材探索研究会、横浜 (6月)
- (6) 海藻より分離した糸状菌 *Paraconiothyrium* sp. SW-B 株が生産する物質について
鈴木拓馬、小関卓也、大野美紗、木村賢一、塩野義人、日本農芸化学会東北支部第152回大会、秋田(11月)
- (7) *Sesquiterpene-epoxycyclohexenone conjugates from Nectria pseudotrachia*
Nanang Rudianto Ariefta, Tatsuya Ashitanib, Keitaro Tawaraya, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Narandulam Usukhbayar, Ken-ichi Kimura, Yoshihito Shiono、日本農芸化学会東北支部第152回大会、秋田(11月)
- (8) 糸状菌 *Pseudocosmospora* sp. Bm-1-1 株が生産する二次代謝産物について
中村智紀、鈴木拓馬、小関卓也、塩野義人)、日本農芸化学会東北支部第152回大会、秋田(11月)

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Y. Shiono (2017): New antimicrobial active metabolites from endophytes, 2nd International Symposium on Innovations in Plant and Food Sciences, University of Saskatchewan (招待講演)
- (2) Tomoki Nakamura, Shiono Yoshihito, 「New Meroterpenoids from *Pseudocosmospora* sp. Bm-1-1」 The International Symposium of YU-COE(C) AFTEC and HECT, Yamagata University (Yonezawa).
- (3) Yoshihito Shiono, and Unang Supratman; Biological Active Compounds from Endophytes in Tropical Plants, 2nd ISEJ 2017, Indonesia. (招待講演)

2-④ その他の研究活動

- (1) Takuma Suzuki, Shiono Yoshihito, 「Biological Active Compounds produced by *Paraconiothyrium* sp. SW-B Isolated from Seaweed」The International Symposium of YU-COE(C) AFTEC and HECT, Yamagata University (Yonezawa).
- (2) Takuma Suzuki, Seiya Yoshida, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono (2016) New Secondary Metabolites Produced by Fungus *Cylindrocarpus* sp. SY-39 Isolated from a Driftwood. First International Symposium on Health-Care Technology 2016, Yamagata
- (3) Nanang Rudianto Ariefta, Shiono Yoshihito, 「New Metabolites Produced by Endophytic Fungus *Nectria pseudotrachia* 120-1NP」, Graduate School of Agricultural Sciences, Yamagata University, Ja
- (4) Kyo-taro Ichikawa, Katsuto Sasaki, Yoshihito Shiono, Takuya Koseki, 「An *Aspergillus oryzae* tannase: cloning and expression of AotanB gene and characterization of the recombinant enzyme」 The International Symposium of YU-COE(C) AFTEC and HECT, Yamagata University (Yonezawa).
- (5) Mayu Kawasaki, Mai Ishikawa, Yoshihito Shiono, Takuya Koseki, 「A novel *Aspergillus oryzae* diglycosidase that hydrolyzes 6-O- α -L-rhamnosyl- β -D-glucoside from flavonoids」, The International Symposium of YU-COE(C) AFTEC and HECT, Yamagata University (Yonezawa).

2-⑤ 外部資金の獲得

2-⑤-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(B) 1件(うち分担 1件)

2-⑤-(ii) 科研費以外の外部資金

- 受託研究 2件、 奨学寄附金 1件

渡辺昌規

2-① 原著論文

- (1) S. Takenaka, J. Yoshinami, A. Kuntiya, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, M. Watanabe, K. Tanaka and K. Yoshida (2018) Characterization and mutation analysis of a halotolerant serine protease from a new isolate of *Bacillus subtilis*. *Biotechnol Lett.*, 40(1), 189–196.
- (2) P. Boonchuay, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, P. Hanmoungjai, M. Watanabe, S. Takenaka and T. Chaiyaso (2018) An integrated process for xylooligosaccharide and bioethanol production from corncob. *Bioresour Technol.*, 256, 399–407
- (3) T. Chaiyaso, W. Srisuwan, C. Techapun, M. Watanabe and S. Takenaka. (2018) Direct bioconversion of rice residue from canteen waste into lipids by new amyolytic oleaginous yeast *Sporidiobolus pararoseus* KX709872. *Prep. Biochem. Biotechnol.*, (in press)

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 竹中 慎治, 吉浪 淳, A. Kuntiya, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, 渡辺 昌規, 吉田 健一 2017年9月12日: タイの塩蔵発酵食品から分離した*Bacillus*属細菌の生産する耐塩性プロテアーゼの特性解析、日本生物工学会大会要旨集、
- (2) 渡辺昌規、山村勇太、牧野将浩、柏村崇、竹中慎治、塩野忠彦、佐々野和雄 2018年3月16日: 非加熱・無殺菌米副産物からの光学活性乳酸の生成とSSF中微生物菌叢構造との関連、日本農芸化学会要旨集、453

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) M. Watanabe, C. Techapun, A. Kuntiya, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso and S. Takenaka (2017): Extracellular protease derived from lactic acid bacteria stimulates the fermentative lactic acid production from the by-products of rice as a biomass refinery function. The 7th International conference on fermentation technology for value added agricultural products (FerVAAP2017) & The 12th Asian biohydrogen & Biorefinery Symposium. 25–28 July 2017. Thailand. (招待講演)
- (2) T. Chaiyaso, P. Boonchuay, A. Kuntiya, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, M. Watanabe and S. Takenaka (2017): Integrated process for xylooligosaccharides (XOs) and bioethanol productions from corncob. International Joint Seminar JSPS–CCP(Core to Core Program A) and e-ASIA JRP kick-off meeting (Part of The Thailand Research EXPO 2017) , 26th August, Thailand.
- (3) K. Yakul., A. Kuntiya., C. Techapun., N. Leksawasdi., P. Seesuriyachan, M. Watanabe, K Nakamura, S. Takenaka and T. Chaiyaso (2017): Optimization production of thermostable alkaline-protease from *Bacillus halodurans* SE5 and its application on bioactive peptides production from sericin. The 29th Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference. 23th–25th November, Thailand
- (4) P. Boonchuay, A. Kuntiya, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, P. Hanmoungjai, M. Watanabe, S. Takenaka and T. Chaiyaso (2017): Optimization of fermentable sugar production from cellulose-rich corncob residue, a solid waste from xylooligosaccharides production process. The 29th Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference. 23th–25th November, Thailand
- (5) S. Srisupa, C. Techapun, P. Hanmoungjai, M. Watanabe and T. Chaiyaso (2017): Bioethanol production from cellulose-rich corncob residue using a thermotolerant yeast *Candida glabrata* KY618710 via the simultaneous saccharification and fermentation process. The 29th Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference. 23th–25th November 2017, Thailand
- (6) T. Keawsalud, C. Techapun., P. Seesuriyachan., S. Takenaka, M. Watanabe and T. Chaiyaso (2017): Screening and isolation of thermostable alkaline keratinase producing bacteria from hot spring. The 29th Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference. 23th–25th November, Thailand
- (7) Y. Nakayama, C. Techapun, A. Kuntiya, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, S. Takenaka and M. Watanabe (2018): Recovery and purification of phytin from defatted rice bran by using ISF-EWT process. The international conference on food and applied bioscience (FAB2018). 1–2 February, Thailand

- (8) Y. Yamamura, C. Techanpun, A. Kuntiya, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, S. Takenaka and M. Watanabe (2018): Characteristics of fermentative L-(+)-lactic acid production from non-sterilized by-product of rice by LAB's and its relationship with formation of microbial consortia in SSF. The international conference on food and applied bioscience (FAB2018). 1-2 February, Thailand

2-④ その他の研究活動

- (1) 渡辺昌規、米由来副産物のバイオリファイナリー技術開発とその事業化への取り組み、2017年度北日本支部シンポジウム“生物プロセスによるモノづくり・資源循環を目指して”、2017年10月23日、日本生物工学会、(招待講演)

2-⑤ 外部資金の獲得

2-⑤-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

2-⑤-(ii) 科研費以外の外部資金

受託研究 1件

井上奈穂

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 井上奈穂(平成29年11月4日):「植物性機能性成分による病態発症改善機能に関する研究」、平成29年度日本農芸化学会東北支部大会、平成29年度農芸化学女性研究者賞 受賞者講演

2-② 学会発表(国際学会)

- (1) Nao Inoue(平成29年5月2日):“Future visions of applied microbiology and food nutrition”, 2017 AOCs Annual Meeting & Expo, Biotechnology division, 招待講演
- (2) Nao Inoue(平成29年9月13日):“Conjugated linoleic acid in metabolic syndrome”, The Asian Conference on Oleo Science 2017 & The 56th Annual Meeting of the Japan Oil Chemists' Society, Food and Feed Nutrition, 招待講演

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(B) 1件(分担 1件)
- (2) 基盤研究(C) 1件(代表 1件)

2-③-(ii) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 2件

植物機能開発学コース

村山哲也

2-① 原著論文

- (1) Authors: Abdou Tchoukoua, Takuma Ota, Rima Akanuma, Yu-Ming Ju, Unang Supratman, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono (2017), A phytotoxic bicyclic lactone and other compounds from endophyte *Xylaria curta*, *Nat Prod Res*, 31(18), 2113–2118.
- (2) Yoshihito Shiono, Niken Istikhari Muslihah, Takuma Suzuki, Nanang Rudianto Ariefta, Chairil Anwar, Handojo Hadi Nurjanto, Takako Aboshi, Tetsuya Murayama, Keitaro Tawaraya, Takuya Koseki, Jun Yoshida, Narandulam Usukhbayar, Shota Uesugi, Ken-Ichi Kimura (2017), *J Antibiot (Tokyo)*, 70(12), 1133–1137.
- (3) Seiya Yoshida, Takuma Suzuki, Hiroshi Furuno, Takako Aboshi, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono (2018), Spectroscopic characterisation of two polyketide metabolites from *Cylindrocarpon* sp. from driftwood, *Natural Product Research*, 32(1),60–64.
- (4) Takako Aboshi, Shiho Ishiguri, Yoshihito Shiono and Tetsuya Murayama (2018), Flavonoid glycosides in Malabar spinach *Basella alba* inhibit the growth of *Spodoptera litura* larvae, *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, 82(1), 9–14.
- (5) Takuma Suzuki, Seiya Yoshida, Takuya Koseki, Takako Aboshi, Tetsuya Murayama, Unang Supratman, Yoshihito Shiono (2018), New Metabolites Produced by *Cylindrocarpon* sp. SY-39 from a Driftwood, *Chem Biodivers*, 15(2), e1700493

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 網干貴子、飯塚千晶、寺石政義、奥本裕、森直樹、村山哲也(2018)、イネにおけるイソペンチルアミンの生合成、日本農芸化学会2018年度大会(平成30年3月15日～18日)
- (2) 青木聡樹、網干貴子、塩野義人、村山哲也(2018)、ツキヨタケ(*Ompharotus guepiniformis*)子実体に含まれるセスキテルペン類について、日本農芸化学会2018年度大会(平成30年3月15日～18日)
- (3) 千葉 恒太、網干 貴子、塩野 義人、村山 哲也(2018)、メノマンネングサ(*Sedum japonicum*)に含まれる新規フラボノイド配糖体について、日本農芸化学会2018年度大会(平成30年3月15日～18日)

俵谷圭太郎

2-① 原著論文

- (1) Deguchi S, Uozumi S, Touno E, Uchino H, Kaneko M & Tawaraya K 2017: White clover living mulch reduces the need for phosphorus fertilizer application to corn. *Eur J Agron* 86, 87–92.
- (2) Dissanayaka DMSB, Maruyama H, Nishida S, Tawaraya K & Wasaki J 2017: Landrace of japonica rice, Akamai exhibits enhanced root growth and efficient leaf phosphorus remobilization in response to limited phosphorus availability. *Plant Soil* 414, 327–338.
- (3) Tang SR, Cheng WG, Hu RG Nakajima, M.Guigue, J.Kimani, S. M.Sato, S.Tawaraya, K.Xu, X. K. 2017: Decomposition of soil organic carbon influenced by soil temperature and moisture in Andisol and Inceptisol paddy soils in a cold temperate region of Japan. *J Soil Sediment* 17, 1843–1851.
- (4) Cheng WG, Padre AT, Shiono H Sato, C.Toan, N. S.Tawaraya, K.Kumagai, K. 2017: Changes in the pH, EC, available P, SOC and TN stocks in a single rice paddy after long-term application of inorganic fertilizers and organic matters in a cold temperate region of Japan. *J Soil Sediment* 17, 1834–1842.
- (5) Ariefta NR, Kristiana P, Nurjanto HH Ashitani, T.Tawaraya, K.Murayama, T.Koseki, T.Furuno, H.Usukhbayar, N.Kimura, K.Shiono, Y.2017: Nectrianolins A, B, and C, new metabolites produced by endophytic fungus *Nectria pseudotrichia* 120-1NP. *Tetrahedron Lett* 58, 4082–4086.
- (6) Shiono Y, Muslihah NI, Suzuki T Ariefta, N. R.Anwar, C.Nurjanto, H. H.Aboshi, T.Murayama, T.Tawaraya, K.Koseki, T.2017: New eremophilane and dichlororesorcinol derivatives produced by endophytes isolated from *Ficus ampelas*. *J Antibiot* 70, 1133–1137.
- (7) Cheng WG, Kimani SM, Kanno T ang, S. R.Oo, A. Z.Tawaraya, K.Sudo, S.Sasaki, Y.Yoshida, N. 2018: Forage rice varieties Fukuhibiki and Tachisuzuka emit larger CH₄ than edible rice Haenuki. *Soil Science and Plant Nutrition* 64, 77–83.

- (8) Kimani SM, Cheng WG, Kanno T Nguyen-Sy, T.Abe, R.Oo, A. Z.Tawaraya, K.Sudo, S. 2018: Azolla cover significantly decreased CH₄ but not N₂O emissions from flooding rice paddy to atmosphere. *Soil Science and Plant Nutrition* 64, 68–76.
- (9) Wagatsuma T, Maejima E, Watanabe T Toyomasu, T.Kuroda, M.Muranaka, T.Ohyama, K.Lshikawa, A.Usui, M.Khan, S. H.Maruyama, H.Tawaraya, K. 2018: Dark conditions enhance aluminum tolerance in several rice cultivars via multiple modulations of membrane sterols. *J Exp Bot* 69, 567–577.

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤 匠、丹羽理恵子、江沢辰広、程 為国、俵谷 圭太郎(2017) 殺菌圃場における接種したアーバスキュラー菌根菌のネギへの定着および生育に与える影響 日本土壤肥料学会2017年度仙台大会
- (2) 蜂矢志保実、稲村希、佐藤匠、江沢辰広、程為国、俵谷圭太郎(2017) アーバスキュラー菌根菌 *Rhizophagus clarus* の外生菌糸から浸出される酸性ホスファターゼ活性の低リン酸応答 日本土壤肥料学会2017年度仙台大会
- (3) Ahdiar Fikri Maulana 程為国、俵谷圭太郎(2017) Nutrient concentration in growth media affect relationship between *Brassica campestris* and *Paraserianthes falcataria* and fungal root endophytes isolated from forest soils in Indonesia 日本土壤肥料学会2017年度仙台大会
- (4) 丹羽理恵子、佐藤修正、平川英樹、吉田重信、佐藤孝、鈴木貴恵、齋藤雅典、佐藤匠、俵谷圭太郎、福永亜矢子、江沢辰広(2017)日本土壤肥料学会2017年度仙台大会
- (5) 岡村 惟史、花城 清俊、丸山 隼人、俵谷 圭太郎、渡部 敏裕、坪田 博美、和崎 淳(2017)クラスタ根を形成するルーピンとヤマモガシ科植物の低リン環境下での生理応答の比較 日本土壤肥料学会2017年度仙台大会

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Hachiya. S, Inamura. N, Sato. T, T. Ezawa, W. Cheng, and K. Tawaraya (2017) Low-phosphorus conditions increase release of acid phosphatase from extraradical hyphae of *Rhizophagus clarus* 9th International conference of mycorrhiza Czeck Republic
- (2) Sato T., Cheng W., Tawaraya K. (2017) Effect of indigenous and introduced AM fungi on growth of *Allium fistulosum* under sterilized field. 9th International conference of mycorrhiza Czeck Republic
- (3) Ahdiar Fikri Maulana, Weiguo Cheng and Keitaro Tawaraya(2017) Growth response of four leguminous trees to native arbuscular mycorrhizal fungi from Indonesian forest soils 9th International conference of mycorrhiza Czeck Republic
- (4) Keitaro Tawaraya, Dewi Wulandari and Weiguo Cheng (2017) Remediation of degraded post-opencast mine land with tree species inoculated with arbuscular mycorrhizal fungi in Indonesia. 9th International conference of mycorrhiza Czeck Republic
- (5) Keitaro Tawaraya, Soichiro Honda, Weiguo Cheng, Masaru Chuba, Yozo Okazaki, Kazuki Saito, Akira Oikawa, Hayato Maruyama, Jun Wasaki, Tadao Wagatsuma (2017)Remodeling of membrane lipids in older and younger leaves of two rice cultivars under phosphorus deficient condition 18th International Plant Nutrition Colloquium Denmark

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(B) 4件(うち代表 1件、分担 3件)
- (2) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)
- (3) 基盤研究(A) 1件(うち代表 分担 1件)

2-④-(ii) 科研費

受託研究 2件

村山秀樹

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 章魯・上高原浩・大迫敬・村山秀樹・板井章浩(2017): ‘ゴールド二十世紀’ と ‘Alexandrine Douillard’ の果実生育期におけるリグニン含量および組成の解析. 園芸学研究、16別2.

2-② 学会発表(国際学会)

- (1) Pamela Ruzigana, Aline Clementine Ingabire, Michiaki Azuma and Hideki Murayama. 2017. Quality changes of three sweet cherry cultivars during ripening on the tree and after harvest. 8th International Cherry Symposium, Yamagata, Japan

2-③ その他の研究活動

- (1) 山形県農林水産部と「西洋なし品種開発・生理研究ユニット」,「世界一えだまめ研究ユニット」連携ユニットで研究活動

2-④ 外部資金の獲得

2-④- (i) 科研費

- (1) 基盤研究(B) 2件(うち代表 1件、分担 1件)
- (2) 挑戦的研究(萌芽) 1件(うち分担 1件)

2-④- (ii) 科研費以外の外部資金

- 共同研究 1件

江頭宏昌

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 江頭宏昌(2017): 在来作物の魅力と活用(招待講演)、日本作物学会紀要、87(1)、91-92
- (2) 江頭宏昌(2017): (招待講演)、農業情報学会、要旨なし
- (3) 江頭宏昌(2017): 「山形の在来作物」、山形大学環境保全センター広報誌「環境保全」No.20:27-52
- (4) 江頭宏昌・鈴木秀明・及川 彰(2017): 山形県米沢市の伝統野菜「雪菜」の雪中における代謝物の変化、園芸学会東北支部

2-② その他の研究活動

- (1) 江頭宏昌(2017): 「伝統野菜は生きた文化財 47都道府県で復活・活用へ」、食べもの通信、8-11ページ
- (2) 江頭宏昌(2017): 「山形発 食文化のすすめ 食文化って何だろう?」、FutureSight7月号(77号)、28ページ
- (3) 江頭宏昌(2017): 「伝統野菜は生きた文化財 47都道府県で復活・活用へ」、食べもの通信、8-10ページ
- (4) 江頭宏昌(2017): 「在来作物が継続することの意義と農業経営上の位置づけ」、日本農業新聞、平成30年1月1日
- (5) 江頭宏昌(2017): 「トコロ」、荘内松柏会機関誌「松柏」6月15日号、6ページ
- (6) 江頭宏昌(2017): 「ソバの最新事情」、荘内松柏会機関誌「松柏」9月15日号、7-8ページ
- (7) 江頭宏昌(2018): 「山形発 食文化のすすめ 干した食べもの」、FutureSight1月号(79号)、28ページ
- (8) 江頭宏昌(2018): コラム微風旋風「経済と文化を両輪に」、河北新報、平成30年1月18日
- (9) 江頭宏昌(2018): コラム微風旋風「自然を尊ぶ文化」、河北新報、平成30年2月15日
- (10) 江頭宏昌(2018): コラム微風旋風「紙の裏側にあるもの」、河北新報、平成30年3月15日

2-③ 外部資金の獲得

2-③- (i) 科研費以外の外部資金

- 受託研究 1件

程 為 国

2-① 原著論文

- (1) Nakajima, M., Cheng, W., Hanayama, S., Okada, M. (2017) Shallow autumn tillage does not reduce CH₄ emission from an Andisol paddy field in Morioka, a cold region in Japan. Journal of Agricultural Meteorology, 73: 91-98.
- (2) Tang, S., *Cheng, W., Hu, R., Nakajima, M., Guigue, J., Kimani, S.M., Sato, S., Tawaraya, K., Xu, X. (2017) Decomposition of soil organic carbon influenced by soil temperature and moisture in Andisol and Inceptisol paddy soils in a cold temperate region of Japan. Journal of Soils and Sediments, 17: 1834-1842.

- (3) Cheng, W., Padre, A.T., Shiono, H., Sato, C., Nguyen-Sy, T., Tawaraya, K., Kumagai, K. (2017) Changes in the pH, EC, available P, SOC and TN stocks in a single rice paddy after long-term application of inorganic fertilizers and organic matters in a cold temperate region of Japan. *Journal of Soils and Sediments*, 17: 1834–1842
- (4) Wu, H., Xu, X., Duan, C., Li, T., Cheng, W. (2017) Effect of carbon and nitrogen addition on nitrous oxide and carbon dioxide fluxes from thawing forest soils. *International Agrophysics*, 31: 339–349.
- (5) Wu, H., Xu, X., Cheng, W., Fu, P., Li, F. (2017) Antecedent soil moisture prior to freezing can affect quantity, composition and stability of soil dissolved organic matter during thaw. *Scientific Reports*, 7: 6380. doi: 10.1038/s41598-017-06563-8.
- (6) Kusumawardani, P.N., *Cheng, W., Purwanto, B.H., and Utami, S.N.H. (2017) Changes in the soil pH, EC, available-P, DOC and inorganic-N after land use change from rice paddy in northeast Japan. *Journal of Wetlands Environmental Management*, 5: 53–61.
- (7) Maulana, A.F., Turjaman, M., Hashimoto, Y., Cheng, W., Tawaraya, K. (2017) Nutrient concentration in growth medium affects relationship between root endophytic fungi and host plant. *Journal of Experimental Agriculture International*, 18(5): 1–11. DOI: 10.9734/JEAI/2017/37487.
- (8) Maulana, A.F., Turjaman, M., Sato, T., Hashimoto, Y., Cheng, W., Tawaraya, K. (2017) Growth response of four leguminous trees to native arbuscular mycorrhizal fungi from tropical forest in Indonesia. *International Journal of Plant & Soil Science* 20(3): 1–13. DOI: 10.9734/IJPSS/2017/37433
- (9) Cheng, W., Kimani, S.M., Kanno, T., Tang, S., Oo, A.Z., Tawaraya, K., Sudo, S., Sasaki, Y., Yoshida, N. (2018) Forage rice varieties Fukuhibiki and Tachisuzuka emit larger CH₄ than edible rice Haenuki. *Soil Science and Plant Nutrition*, 64: 77–83.
- (10) Kimani, S.M., *Cheng, W., Kanno, T., Nguyen-Sy, T., Abe, R., Oo, A.Z., Tawaraya, K., Sudo, S. (2018) Azolla cover significantly decreased CH₄ but not N₂O emissions from flooding rice paddy to atmosphere. *Soil Science and Plant Nutrition*, 64: 68–76.
- (11) Maulana, A.F., Turjaman, M., Sato, T., Hashimoto, Y., Cheng, W., Tawaraya, K. (2018) Isolation of endophytic fungi from tropical forest in Indonesia. *Symbiosis*, (online) <https://doi.org/10.1007/s13199-018-0542-7>
- (12) Tawaraya, K., Honda, S., Cheng, W., Chuba, M., Okazaki, Y., Saito, K., Oikawa, A., Maruyama, H., Wasaki, J., Wagatsuma, T. (2018) Ancient rice cultivar extensively replaces phospholipids with non-phosphorus glycolipid under phosphorus deficiency. *Physiologia plantarum*, (online) <https://doi.org/10.1111/ppl.12699>.
- (13) 小野剛志・玉井鉄宗・奈良吉主・土屋一成・程 為国・陽 捷行(2018)賢者が語る土壌の心髄、日本土壌肥学雑誌 89: 73–79.

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) Nguyen Sy Toan・程 為国・Julien Guigue・塩野宏之・俵谷圭太郎・渡部徹・熊谷勝巳: Hot water extracted carbon and nitrogen affected by long-term application of rice straw and compost from a Japanese rice paddy、日本土壌肥料学会2017年大会、仙台、講演要旨集 第63集、p.174、(2017年9月)
- (2) Samuel M. Kimani・程 為国・菅野 孝盛・Nguyen Sy Toan・阿部 涼子・Oo Aung Zaw・俵谷 圭太郎・須藤 重人: Azolla cover significantly decreased CH₄ but not N₂O emissions from flooding rice paddy to atmosphere、日本土壌肥料学会2017年大会、仙台、講演要旨集 第63集、p.174、(2017年9月)
- (3) 程 為国: 十年間の長期湛水栽培により蓄積した土壌中の植物由来炭素量の推定、日本土壌肥料学会2017年大会、仙台、講演要旨集 第63集、p.177、(2017年9月)
- (4) 程 為国: 賢者が語る土壌の心髄、板野新夫一戦争とともに研究人生を送った日本人の土壌学者、日本土壌肥料学会2017年大会、仙台、講演要旨集 第63集、p.223、(2017年9月)

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Toan Nguyen-Sy, Weiguo Cheng, Julien Guigue, Hiroyuki Shiono, Keitaro Tawaraya, Wantanabe Toru, Katsumi Kumagai (2017) Hot water extracted organic carbon and nitrogen and their natural stable isotopes from rice paddy. 23rd International Symposium on Environmental Biogeochemistry (ISEB23). Palm Cove, QLD, Australia, 25–29 September 2017. Abstract Book p.12.
- (2) Weiguo Cheng, Tian Liu, Mitsuhiro Hayashida, Keitaro Tawaraya, Ronggui Hu, Qiaoyun Huang, Xingkai Xu, Yao Huang (2017) Changes in soil organic matter and its decomposition potential after rice paddy abandoned to wetland. 23rd International Symposium on Environmental Biogeochemistry (ISEB23). Palm Cove, QLD, Australia, 25–29 September 2017. Abstract Book p.38.

- (3) Samuel Kimani, Takamori Kanno, Keitaro Tawaraya, Weiguo Cheng (2017) Influence of phosphorous and flooding water depth on Azolla and its significance in mitigating evapotranspiration. 23rd International Symposium on Environmental Biogeochemistry (ISEB23). Palm Cove, QLD, Australia, 25-29 September 2017. Abstract Book p.47.

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(B) 1件(うち分担 1件)

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 1件

2-⑤ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 23rd International Symposium on Environmental Biogeochemistry (ISEB23) Best poster award: Influence of phosphorous and flooding water depth on Azolla and its significance in mitigating evapotranspiration by Samuel Kimani, Takamori Kanno, Keitaro Tawaraya, Weiguo Cheng (29 September 2017)

笹沼恒男

2-① 原著論文

- (1) A. Kakizaki, T. Kawahara, M.A. Zhuk, T.N. Smekalova, K. Sato, T. Abe, T. Sasanuma* (2017): Genetic characterization of genetic resources of *Aegilops tauschii*, wheat D genome donor, newly collected in North Caucasia. *American Journal of Plant Sciences*, 8, 2769-1784

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 笹沼恒男、齋藤美帆、田中裕之、佐藤和広、朱明婧、龍春林 (2017年10月8日): 中国青海省チベット高原で採集した野生コムギ連遺伝資源の遺伝学的特徴付け、日本育種学会第132回講演会要旨集、145.
- (2) 鶴巻啓一、笹沼恒男 (2017年10月8日): 未知遺伝子座の変異による辛味の欠失が示唆された甘味トウガラシ系統の遺伝学的解析II、日本育種学会第132回講演会要旨集、159.
- (3) 鶴巻啓一、笹沼恒男 (2017年11月25日): 未知遺伝子座の変異による辛味の欠失が示唆された甘味トウガラシ系統の遺伝学的解析3、第12回東北育種研究集会講演要旨集、25.
- (4) 澤田小春、平山可奈、西田英隆、Z. Asanidze, T. Bragvadze, I. Gabrielyan, G. Melyan, A. Avagyan, A. Sahakyan, T.N. Smekalova, O.N. Kovaleva, 田中裕之、佐藤和広、朱明婧、龍春林、笹沼恒男 (2017年11月25日): コーカサス地方及び中国青海省コムギ遺伝資源の基本農業形質に関する多様性評価、第12回東北育種研究集会講演要旨集、28.
- (5) 西田悠希、村上弘子、高橋里奈、松田淳一、笹沼恒男 (2018年3月25日): DNAマーカーを用いた山形県大江町の伝統工芸作物「青苧」の遺伝的多様性の解明、日本育種学会第133回講演会要旨集、54.
- (6) 笹沼恒男、澤田小春、田中裕之、佐藤和広、高田兼則、朱明婧、龍春林 (2018年3月25日): 中国青海省で収集したパンコムギ遺伝資源の基本農業形質及び製パン性関連形質に関する多様性評価、日本育種学会第133回講演会要旨集、57.
- (7) 鶴巻啓一、笹沼恒男 (2018年3月25日): 甘味トウガラシ系統の遺伝学的解析から示唆されたアミノトランスフェラーゼ遺伝子の発現量と辛味の有無の関係について、日本育種学会第133回講演会要旨集、152.

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) T. Sasanuma (2018年9月10日): Genetic characterization and evaluation of bread making quality related-traits in wheat genetics resources including its ancestral wild species. In 2nd International Symposium on Innovations in Plant and Food Sciences, Saskatoon, Canada. (招待講演)

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 2件

服部 聡

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 塙月寧, 玉田祐里佳, 新井大輔, 飯塚禎明, 村上匠, 本郷裕一, 服部聡 (2017年8月): 庄内朝日山地に自生する各種野生植物に内生する放線菌の探索、環境微生物系学会合同大会2017, P-238
- (2) 小林ほなみ, 堀翔太, 羽田来瑠美, 村上匠, 本郷裕一, 服部聡 (2017年8月): 山形県飛鳥沿岸の海藻に由来する放線菌の探索、環境微生物系学会合同大会2017, P-239

2-② 外部資金の獲得

2-②-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

2-②-(ii) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 1件

及川 彰

2-① 著書

- (1) 及川彰(2017)メタボローム解析-CE-MS-, “機能性食品開発のための初期評価試験プロトコール集”, 山本(前田)万里監修, pp. 334-339. シーエムシー出版

2-② 原著論文

- (1) Honoki R, Ono S, Oikawa A, Saito K, Masuda S. Significance of accumulation of the alarmone (p)ppGpp in chloroplasts for controlling photosynthesis and metabolite balance during nitrogen starvation in Arabidopsis. *Photosynth Res*, 135, 299-308, 2018. doi: 10.1007/s11120-017-0402-y.
- (2) Islam J, Koseki T, Watanabe K; Ardiansyah, Budijanto S, Oikawa A, Alauddin M, Goto T, Aso H, Komai M, Shirakawa H. Dietary Supplementation of Fermented Rice Bran Effectively Alleviates Dextran Sodium Sulfate-Induced Colitis in Mice. *Nutrients*, 9, E747, 2017. doi: 10.3390/nu9070747.
- (3) Tawarayama K, Honda S, Cheng W, Chuba M, Okazaki Y, Saito K, Oikawa A, Maruyama H, Wasaki J, Wagatsuma T. Ancient rice cultivar extensively replaces phospholipids with non-phosphorus glycolipid under phosphorus deficiency. *Physiol Plant*. 2018 Feb 7. doi: 10.1111/ppl.12699., in printing.

2-③ 総説

- (1) 及川彰, 松田史生, 三枝大輔(2017)“メタボロミクスの応用研究”65, 220-222. 質量分析
- (2) 及川彰(2017)“メタボロミクス”69, 420-426. 臨床免疫・アレルギー科

2-④ 学会発表(国内学会)

- (1) 及川彰, 2017年11月18日, メタボロミクスの農業・食品分野への応用, 農業情報学会(招待講演)
- (2) 及川彰, 2018年2月3日, Metabolomics for Agriculture and Food Chemistry, 京都生体質量分析研究会(招待講演)

2-⑤ 学会発表(国際学会)

- (1) Akira Oikawa, Kanako Suzuki, Ryosuke Sasaki, Makoto Ishiguro, Kazuki Saito, 2017年6月5-9日, Differences in metabolite contents among cherry varieties, 7th International Cherry Symposium

2-⑥ 外部資金の獲得

2-⑥-(i) 科研費

- (1) 新学術領域研究 2件(うち分担1件, 研究協力者1件)
- (2) 基盤研究(B) 2件(うち分担2件)
- (3) 農水農食事業 1件(うち分担1件)
- (4) 農水知の集積 1件(うち分担1件)
- (5) 基盤研究(S) 1件(うち分担1件)

2-⑥-(ii) 科研費以外の外部資金

共同研究1件, 奨学寄付金1件

星野友紀

2-① 原著論文

- (1) Mizuno Y, Yamanouchi U, Hoshino T, Nonoue Y, Nagata K, Fukuoka S, Ando T, Yano M, Sugimoto K (2018): Genetic dissection of pre-harvest sprouting resistance in an upland rice cultivar. *Breed. Sci.* in press.

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 川上珠恵、後藤元、阿部洋平、本間猛俊、中場勝、星野友紀*(2017): 極良食味水稻品種「つや姫」を遺伝背景にもつ突然変異集団の構築と澱粉代謝突然変異体の単離、日本育種学会第132回講演会
- (2) 飯島信繁、栗野莉奈、上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、星野友紀*(2017): 良食味エダマメ系統「ダダチャマメ」の高シヨ糖蓄積能に関する遺伝子座解析に向けた試み、日本育種学会第132回講演会
- (3) 高橋弘紀、畑昌和、飯島信繁、川上珠恵、太田千恵、五十嵐徹、星野友紀*(2017): エダマメ品種「秘伝」突然変異集団の作出と開花期突然変異体の単離、日本育種学会第132回講演会
- (4) 栗野莉奈、飯島信繁、上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、星野友紀*(2017): 鶴岡産エダマメ系統「ダダチャマメ」の良食味を支配する遺伝子座解析に向けた試み、第7回植物生理化学会シンポジウム
- (5) 飯島信繁、杉本和彦、星野友紀*(2017): イネ穂発芽耐性遺伝子座qSdr6のファインマッピング、第7回植物生理化学会シンポジウム
- (6) 川上珠恵、後藤元、阿部洋平、本間猛俊、中場勝、星野友紀*(2017): 2種類の変異原を利用した水稻品種「つや姫」突然変異集団の作出と低アミロース突然変異体の単離、第12回東北育種研究集会
- (7) 栗野莉奈、飯島信繁、上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、星野友紀*(2017): 鶴岡産エダマメ系統「ダダチャマメ」の良食味を支配する遺伝子座解析に向けた試み、第12回東北育種研究集会
- (8) 飯島信繁、栗野莉奈、上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、星野友紀*(2017): 良食味エダマメ系統「ダダチャマメ」の高シヨ糖蓄積能に関する遺伝子座解析に向けた試み、東北植物学会第7回大会
- (9) 高橋弘紀、畑昌和、飯島信繁、川上珠恵、太田千恵、五十嵐徹、星野友紀*(2017): 良食味エダマメの生産力強化に向けた突然変異による「秘伝」開花期の改良、東北植物学会第7回大会

2-③ その他の研究活動

- (1) 上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、畑昌和、飯島信繁、星野友紀*(平成29年6月): エダマメ品種ダダチャマメの良食味を司る遺伝子座の探索、大豆たん白質研究19:30-34
- (2) 星野友紀*(平成29年8月): メタボローム解析を用いたエダマメの香りを制御する分子メカニズムの解明、(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団 平成28年度年報 32:109-114
- (3) 星野友紀*(平成29年10月): 非遺伝子組換え法を用いたダイズ開花期の改良によるエダマメ生産力強化、(公財)タカノ農芸化学研究助成財団 平成28年度助成研究報告書 91-97
- (4) 星野友紀*(平成29年12月): 非遺伝子組換えによる山形ブランド米「つや姫」の良食味強化、(公財)戸部眞紀財団 平成28年度研究成果報告書 60-64
- (5) 星野友紀*(平成29年12月): 日本人の嗜好に最適化した水稻品種「つや姫」の良食味ファインチューニング、(公財)浦上財団研究報告書 20:84-89

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 外部資金の獲得

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

奨学寄付金 5件

2-⑤ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 東北植物学会奨励賞 「順・逆遺伝学的手法による作物の品質向上に関する研究」(平成29年12月9日)
- (2) 飯島信繁(指導学生) 最優秀奨励賞 「イネ穂発芽耐性遺伝子座qSdr6のファインマッピング」、第7回植物生理化学会シンポジウム(平成29年10月14日)
- (3) 川上珠恵(指導学生) 優秀ポスター賞 「2種類の変異原を利用した水稻品種つや姫突然変異集団の作出と低アミロース突然変異体の単離」、第12回東北育種研究集会(平成29年11月25日)

網干貴子

2-① 原著論文

- (1) Suzuki T, Yoshida S, Koseki T, Aboshi T, Murayama T, Supratman U, Shiono Y. (2018) New Metabolites Produced by *Cylindrocarpon* sp. SY-39 from a Driftwood. *Chemistry & Biodiversity*. 15, e1700493.
- (2) Aboshi T*, Ishiguri S, Shiono Y, Murayama T. (2017) Flavonoid glycosides in Malabar spinach *Basella alba* inhibit the growth of *Spodoptera litura* larvae. *Bioscience Biotechnology & Biochemistry*. 82, 9-14.
- (3) Shiono Y, Muslihah NI, Suzuki T, Ariefita NR, Anwar C, Nurjanto HH, Aboshi T, Murayama T, Tawaraya K, Koseki T, Yoshida J, Usukhbayar N, Uesugi S, Kimura KI. (2017) New eremophilane and dichlororesorcinol derivatives produced by endophytes isolated from *Ficus ampelas*. *The Journal of Antibiotics (Tokyo)*. 70, 1133-1137.
- (4) Yoshida S, Suzuki T, Furuno H, Aboshi T, Murayama T, Koseki T, Shiono Y. (2018) Spectroscopic characterisation of two polyketide metabolites from *Cylindrocarpon* sp. from driftwood. *Natural Product Research*. 32, 60-64.

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 網干貴子(2017): イネ傷害葉におけるイソペンチルアミンの蓄積、日本農芸化学会東北支部第152回大会要旨集、B08、p25.
- (2) 網干貴子、飯塚千晶、寺石政義、奥本裕、森直樹、村山哲也(2018): イネにおけるイソペンチルアミンの生合成、日本農芸化学会2018年度大会プログラム集、2A17a11、p58.
- (3) 鈴木拓馬、網干貴子、村山哲也、小関卓也、塩野義人(2018): マングローブ植物由来糸状菌 *Bionectria ochroleuca* B5-2株が生産するリンゴジュース米培地により誘導される二次代謝産物について、日本農芸化学会2018年度大会プログラム集、3A18a02、p94.
- (4) NR Ariefita, T Aboshi, T Murayama, T Koseki, N Kurisawa, K Kimura, Y Shiono. New isocoumarins, naphthoquinones, and cleistanthane diterpene from *Nectria pseudotrichia* 120-INP, 日本農芸化学会2018年度大会プログラム集、3A18p01、p94.
- (5) 青木聡樹、網干貴子、塩野義人、村山哲也(2018): ツキヨタケ(*Omphalotus guepiniformis*)子実体に含まれるセスキテルペン類について、日本農芸化学会2018年度大会プログラム集、3A19a06、p95.
- (6) 千葉恒太、網干貴子、塩野義人、村山哲也(2018): メノマンネングサ(*Sedum japonicum*)に含まれる新規フラボノイド配糖体について、日本農芸化学会2018年度大会プログラム集、3A19a07、p95.

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) T Aboshi (2017): Pea peptides metabolism in the gut of *Spodoptera litura* larvae. S11-P-114. 2017 ISCE/APAGE, Kyoto.

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 2件

森林科学コース

森 茂太

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) Citra Gilang QURANI, Shigeta Mori, Yoshimura Kennichi (2018.03.16) Whole-plant respiration of *Fagus crenata* seedlings in open and shaded sites. P2-093 (Poster presentation) 第65回日本生態学会
- (2) Mofei WANG, 森茂太, 芳士戸啓, 相澤拓, 黒澤陽子, 齊磊, 吉村謙一, 山路恵子, 春間俊克 (2018.03.16) 樹木と草本で収斂する個体呼吸スケーリング. P2-094 (Poster presentation) 第65回日本生態学会
- (3) 黒澤陽子, 森茂太, 吉村謙一 (2018.03.16) コストを抑制した根系表面積の急速拡大 -ブナ実生個体の器官別呼吸-一般講演(ポスター発表) P2-098 (Poster presentation) 第65回日本生態学会
- (4) 森茂太, 王莫非, 相澤拓, 芳賀由晃, CITRA, QUR'ANI GILANG, 黒澤陽子, 吉村謙一, 山路恵子(筑波大学), 石田厚(京都大学)(2018.03.17)一般講演(ポスター発表) P3-100 (Poster presentation) 個体呼吸スケーリングの収斂なぜ生じるか -樹木、草本、タケ、沈水植物、藻類、菌類-一般講演(ポスター発表) P3-100 (Poster presentation) 第65回日本生態学会
- (5) 土山紘平, 山路恵子(筑波大・生命環境系), 石田厚(京都大学), 森茂太, 春間俊克, 中本幸弘(筑波大院・生命環境)(2018.03.17) 鉦山跡地に自生する陰生植物アオキ(*Aucuba japonica* Thunb.)の重金属耐性と内生菌の関与. P2-096 (Poster presentation) 第65回日本生態学会

2-② 外部資金の獲得

2-②-① 科研費

- (1) 挑戦的研究(萌芽) 1件(うち代表 1件)
- (2) 基盤研究(B) 1件(分担 1件)

林田光祐

2-① 原著論文

- (1) 小林峻大・伊藤咲音・林田光祐*(2017): イヌワシ保全を目的とした列状間伐地の伐採幅と再刈り払いがノウサギ誘因効果に及ぼす影響. 保全生態学研究, 22, 229-240

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 林田光祐・北澤未玖(2017): 津波被害を受けたクロマツ海岸林における植生回復に対する倒木除去作業の効果. 日本海岸林学会平成29年度大会講演要旨集、29、10-11.

2-③ その他の研究活動

- (1) Bird, Winifred (2017): For Japan's Eagles, Hope Lies in 'Rewilding' Long-Tamed Forests. *Yale Environment* 360, 12 June において、鳥海山におけるイヌワシの保全活動と研究内容を紹介。
- (2) 林田光祐ほか(2018): 大山上池・下池、都沢湿地における植生に関する研究報告書(平成29年度). 26pp. 2018年3月、庄内自然博物館構想推進協議会。

2-④ 外部資金の獲得

2-④-① 科研費以外の外部資金

- 受託研究 2件、奨学寄附金 1件

芦谷竜矢

2-① 原著論文

- (1) Akisato Mukai, Koetsu Takahashi, Tatsuya Ashitani*(2017): Natural autoxidation of longifolene and anti-termite activities of the products. *Journal of Wood Science*, 63(4), 360-368

- (2) Rudianto Ariefta, Priska Kristiana, Handoyo Hadi Nurjanto, Hiroyuki Momma, Eunsang Kwon, Tatsuya Ashitani, Keitaro Tawarayama, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Hiroshi Furuno, Narandulam Usukhbayar, Ken-ichi Kimura, Yoshihito Shiono (2017): Nectrianolins A, B, and C, new metabolites produced by endophytic fungus *Nectria pseudotrichia* 120-1NP. *Tetrahedron Letters*, 58(43), 4082-4086
- (3) Masendra, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi, Ganis Lukmandaru (2017): Lipophilic extractives of the inner and outer barks from six different *Pinus* species grown in Indonesia. *Journal of Forestry Research*, doi.org/10.1007/s11676-017-0545-x
- (4) Akisato Mukai, Koetsu Takahashi, Tatsuya Ashitani* (2017): Antifungal activity of longifolene and its autoxidation products. *European Journal of Wood and Wood Products*, doi.org/10.1007/s00107-017-1281-9
- (5) Risa Inoue, Koetsu Takahashi, Yoshiaki Iiduka, Daisuke Arai, Tatsuya Ashitani* (2018): Enantiomeric analysis of monoterpenes in *Oba-kurumozu* (*Lindera umbellata* var. *membranacea*). *Journal of Wood Science*, 64(2), 164-168

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤愛美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2017): クロマツ針葉の新たな抽出方法について, 東北森林科学会第22回大会講演要旨集, p.7
- (2) 平塚悠騎, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2017): オオバクロモジの低極性成分分析, 東北森林科学会第22回大会講演要旨集, p.8
- (3) 千木良一道, 鈴木佑梨, 西條裕美, 城内智行, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2017): ヒノキ樹皮逐次抽出物の藍藻 *Microcystis aeruginosa* に対する増殖抑制効果, 東北森林科学会第22回大会講演要旨集, p.9
- (4) 古澤優佳, 千葉翔, 芦谷竜矢 (2017): モウソウチク継続伐採による再生竹の3年間の変化, 東北森林科学会第22回大会講演要旨集, p.9
- (5) 平塚悠騎, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2018): オオバクロモジ (*Lindera umbellata* Thunb. var. *membranacea* (Maxim.) Momiyama) の低極性成分の部位ごとの変化と季節変動, 第68回日本木材学会大会, M14-09-1430
- (6) 古澤優佳, 久保智裕, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2018): モウソウチクタケノコの伸長初期過程における成分変化, 第68回日本木材学会大会, A15-P-43
- (7) 向井堯徳, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2018): Thujopseneの過熱による自動酸化生成物の抗菌活性, 第68回日本木材学会大会, M15-P-06
- (8) 千木良一道, 鈴木佑梨, 高橋孝悦, 芦谷竜矢, 西條裕美, 城内智行, (2018): ヒノキ樹皮およびその逐次抽出物の藍藻 *Microcystis aeruginosa* に対する増殖抑制効果, 第68回日本木材学会大会, M15-P-07
- (9) 渡部大寛, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2018): スギ針葉のテルペノイド成分の変動について-抽出方法による相違-第68回日本木材学会大会, M15-P-08
- (10) 佐藤愛美, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2018): 新たな抽出方法を用いたマツ属針葉の抽出物の分析, 第68回日本木材学会大会, M15-P-09

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Tatsuhiko Yokosuka, Shunya Tanaka, Koetsu Takahashi, Tatsuya Ashitani: Inhibition activity of components in Japanese conifer against invasive plant species, The joint meeting of 33rd annual meeting of the ISCE and the 9th meeting of APACE, 23-27 August, 2017, Kyoto

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(C) 1件(うち代表 1件)

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

奨学寄附金 1件

2-⑤ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 第68回日本木材学会優秀ポスター賞, 渡部大寛, 高橋孝悦, 芦谷竜矢, スギ針葉のテルペノイド成分の変動について-抽出方法による相違-第68回日本木材学会大会, 平成30年3月16日

菊池俊一

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 田中元久・菊池俊一・平山修二・松本史也(2018):朝日山地の登山道周辺の植生回復のための新たな技術の検討、平成29年度森林・林業技術交流発表集(林野庁東北森林管理局主催)
- (2) 小野美乃里・菊池俊一(2018):5年毎の定期調査からみえた知床国有林1987年択伐林分の30年間の推移、平成29年度森林・林業技術交流発表集(林野庁東北森林管理局主催)
- (3) 菊池俊一(2018)、第129回日本森林学会大会学術講演集、264.

2-② その他の研究活動

- (1) 菊池俊一(2017):飯豊町小白川地区自然災害分析調査報告書、77pp.
- (2) 菊池俊一(2017):森の正直さー知床の30年から見えてきたことー、連載「森の時間」の第117回、荘内日報平成29年10月18日.
- (3) 菊池俊一(2018):シマフクロウの生息環境としてのバイカモ、シマフクロウプロジェクトの方向性(前編)ー北のフロンティアから未来を拓くー、環境保全機構地球環境基金助成事業報告書、早稲田大学環境学研究所編集、25-28.

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費以外の外部資金

受託研究 3件

2-④ 学会賞の研究活動による受賞

- (1) 東北森林管理局長賞(奨励賞(森林保全部門))、朝日山地の登山道周辺の植生回復のための新たな技術の検討、平成30年1月31日

林 雅秀

2-① 学会発表(国際学会)

- (1) 林雅秀・金澤悠介(2017):入会権調査資料のアーカイブ化とその歴史計量分析、日本法社会学会2017年度学術大会
- (2) 林雅秀(2017):過少利用状況にあるコモンズ管理の成功条件、地域社会学会第42回大会
- (3) 林雅秀(2017):過少利用状況の共有林における部外者入山制、森林所有権制度研究会

2-② 外部資金の獲得

2-②-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(B) 2件(うち代表 1件、分担 1件)
- (2) 基盤研究(C) 2件(うち分担 2件)

2-②-(ii) 科研費以外の外部資金

受託研究 1件

江成広斗

2-① 著書

- (1) 江成広斗(2017)共存をめぐる現実と未来。「日本のサル:哺乳類学としてのニホンザル研究(辻大和、中川尚史、編)」東京大学出版会、pp265-286

2-② 原著論文

- (1) Enari H, Enari H, Okuda K, Yoshita M, Kuno T, Okuda K (2017) Feasibility assessment of active and passive acoustic monitoring of sika deer populations. Ecological Indicators 79:155-162.

2-③ 総説

- (1) 江成広斗・角田裕志(2017)人口減少時代における野生生物問題ー序論ー. 野生生物と社会 5(1) 1-3

2-④ 学会発表(国内学会)

- (1) 斎藤昌幸, 江成広斗(2018)山形県におけるツキノワグマ目撃地点の特徴. 日本生態学会

- (2) 中村大輔・滝口正明・光岡佳納子・川本朋慶・鈴木克哉・江成広斗・竹内正彦(2017)市町村アンケートを用いた全国的なサル対策の現状把握。「野生生物と社会」学会
- (3) 江成 広斗(2017)人口減少を踏まえた大型獣管理の展望。「野生生物と社会」学会 テーマセッション: 東北地方における大型獣管理の現状, 課題, 展望(企画者: 梶光一・江成広斗)
- (4) 江成広斗・辻 大和・大谷洋介・滝口正明・鈴木克哉(2017)サル部会企画: 現場と科学をつなぐ新たな視点と試み. 日本哺乳類学会
- (5) 江成 広斗(2017)東北地方のイノシシ・シカの分布拡大 (2)現場の課題と新たな挑戦: 東北日本海側・豪雪地の事例から. 日本哺乳類学会 公開シンポジウム(招待講演)

2-⑤ 学会発表(国際学会)

- (1) Haruka ENARI, Hiroto ENARI (2017) Effects of beechnut productions on spatio-temporal variations in mammal assemblages in cool-temperate forests of eastern Japan. 12th International Mammalogical Congress オーストラリア
- (2) Hiroto ENARI, Haruka ENARI, Kei OKUDA, Miho YOSHITA, Takuya KUNO, Kana OKUDA (2017) Verifying the efficacy of passive acoustic monitoring for sika deer populations. 12th International Mammalogical Congress オーストラリア

2-⑥ 外部資金の獲得

2-⑥-(i) 科研費

- (1) 若手研究(A) 1件(うち代表 1件)

2-⑥-(ii) 科研費以外の外部資金

受託研究 1件、財団研究助成 1件

2-⑦ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 山形県科学技術奨励賞 野生動物の低コスト・モニタリング技術の開発(2017年10月)

吉村 謙一

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 吉村謙一・山形航大・木村英久・矢崎健一・才木真太郎・丸山温・石田厚 乾燥後の樹木水分生理機能にみられる履歴効果~強度乾燥から1年経過した父島乾性低木林樹木において 日本生態学会
- (2) 吉村謙一・小南裕志・安宅未央子 全天空写真の高密度撮影による林冠構造の把握とその季節変動 日本森林学会

斎藤 昌幸

2-① 原著論文

- (1) Saito, M. U.* and Sonoda, Y. (2017) Symptomatic raccoon dogs and sarcoptic mange along an urban gradient. *EcoHealth* 14: 318-328
- (2) Kishimoto-Yamada, K., Yamasako, J., Kato, T., Saito, M. U. and Ito, M. (2017) Fauna of Cerambycidae (Insecta: Coleoptera) in Komaba Campus of the University of Tokyo, a highly urbanised area in Japan. *Biodiversity Data Journal* 5: e22296.
- (3) 斎藤昌幸*・土屋一彬・倉島 治・伊藤元己(2018)景観生態学的アプローチにおいて都市化の指標として用いられる人口密度と都市的土地利用の関係とその地域差. *応用生態工学* 20: 205-212.
- (4) Mitsuhashi, I., Sako, T., Teduka, M., Koizumi, R., Saito, M. U. and Kaneko, Y. (2018) Home range of raccoon dogs in an urban green area of Tokyo, Japan. *Journal of Mammalogy*. in press
- (5) 竹内正彦・斎藤昌幸(2018)イノシシの生息地利用が示唆する獣害対策としての環境管理. *農業農村工学会誌*. 印刷中

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 斎藤昌幸・劉 萌・吉川正人・金子弥生 東京都練馬区の都市公園におけるタヌキの食性と行動追跡事例(自由集会「都市における食肉目動物研究2」). 日本哺乳類学会2017年度大会, 富山大学五福キャンパス, 2017年9月.
- (2) 榎本孝晃・斎藤昌幸・吉川正人・金子弥生 東京都心部の公園緑地におけるタヌキの冬期の食性. 日本哺乳類学会2017年度大会, 富山大学五福キャンパス, 2017年9月.

- (3) 齋藤昌幸・倉島 治・伊藤元己 それって温暖化と関係あるの？クマゼミの分布北上を生息適地解析から検討する. ELR2017名古屋, 名古屋大学, 2017年9月.
- (4) 齋藤昌幸・江成広斗 山形県におけるツキノワグマ目撃地点の特徴. 第65回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター, 2018年3月.

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Takeuchi, M., Saito, M. U. and Ueda, H. Wild boars prefer permanently abandoned farmland in satoyama. 12th International Mammalogical Congress, Perth, Australia, July 2017.
- (2) Kaneko, Y., Newman, C., Raichev, E., Kosuga, S., Yachimori, S., Saito, M. U., Kuramoto, Y., Macdonald, D. W., Peeva, S. and Buesching, C. D. Olfactory speciation in Eurasian badgers *Meles spp.*: diversity among Japanese and European badgers. 12th International Mammalogical Congress, Perth, Australia, July 2017.
- (3) Kaneko, Y., Newman, C., Raichev, E., Kosuga, S., Yachimori, S., Saito, M., Kuramoto, Y., Macdonald, D. W., Peeva, S. and Buesching, C. D. Olfactory speciation in Eurasian badgers *Meles spp.*: diversity of subcaudal chemicals and behavioural experiments. 14th Triannual Meeting of the Chemical Signals in Vertebrates (CSiV) group, Cardiff, UK, August/September 2017.
- (4) Tsunoda, M., Kaneko, Y., Sako, T., Koizumi, R., Iwasaki, K., Mitsuhashi, I., Saito, M. U., Newman, C., Macdonald, D. W. and Buesching, C. D. Latrineusepatternsofraccoondogs(*Nyctereutes procyonoides*)inanurban areaofTokyo. 14th Triannual Meeting of the Chemical Signals in Vertebrates (CSiV) group, Cardiff, UK, August/September 2017.

2-④ その他の研究活動

- (1) 齋藤昌幸・倉島 治・伊藤元己(2017)気候変動はクマゼミの分布を北上させるか？生息適地解析からの検討. *Cicada* 23: 41-47.
- (2) 齋藤昌幸・金子弥生・増田隆一・園田陽一・保坂哲朗(2017)都市における食肉目動物研究(2016年度大会自由集会記録). *哺乳類科学* 57: 157-158.
- (3) 齋藤昌幸・石川 忠(2017)タヌキの糞に含まれる未消化種子を吸汁するオオモンシロナガカメムシ. *Rostria* (61): 64-66.
- (4) 齋藤昌幸(2017)ブックス「ウサギ学—隠れることと逃げることの生物学」. *森林科学* (81): 55-56.
- (5) 齋藤昌幸(2018)都市でも暮らせる哺乳類、都市では暮らせない哺乳類. *山の自然学クラブ会報* (15): 121-122.

2-⑤ 外部資金の獲得

2-⑤-(i) 科研費

- (1) 若手研究(B) 1件(うち代表 1件)

2-⑤-(ii) 科研費以外の外部資金

- 奨学寄附金 1件

水土環境科学コース

藤井秀人

2-① 原著論文

- (1) Nguyen Van Khanh Triet, Nguyen Viet Dung, Hideto Fujii, Matti Kummu, Bruno Merz¹, and Heiko Apel (2017): Has dyke development in the Vietnamese Mekong Delta shifted flood hazard downstream? Hydrological Earth System Science, 21, 3991-4010.【査読有】

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 砂川卓哉・藤井秀人(2017):リモートセンシングを用いた荒沢ダム流域の積雪面積および積雪水量の推定, H29年度農業農村工学会大会講演会, 藤沢市

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Fujihara Y, Tanaka K, Hoshikawa K, Fujii H. (2017) Water level estimation in flood plain area using MODIS, RADARSAT, and SRTM: Application of the estimation method to the Tonle Sap Lake area. Proceedings Of The 2nd International Symposium on Conservation and Management of Tropical Lakes, pp.46-58.
- (2) Yang H, Siev S, Yoshimura C, Fujii H. (2017) Identification of phase propagation of water level between the Tonle Sap Lake and River based on time series analysis. Proceedings Of The 2nd International Symposium on Conservation and Management of Tropical Lakes, 16-22.

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費以外の外部資金

受託研究 1件、JST/JICA SATREPSトンレサップ湖における環境保全基盤の構築

奥山武彦

2-① 原著論文

- (1) 奥山武彦、土原健雄、石田聡、白旗克志、(2017)、水質を指標とする地すべり対策地下水排除工の効果モニタリング、地盤工学会誌、65(8)、18-21
- (2) 土原健雄、奥山武彦、石田聡、白旗克志、(2018)、採水方法が地下水の六フッ化硫黄濃度・地下水年代推定に及ぼす影響、地下水学会誌、60(1)、41-52

2-② 外部資金の獲得

2-②-(i) 科研費以外の外部資金

受託研究 1件、共同研究 2件

安中武幸

2-① 原著論文

- (1) 花山 奨・金谷祐里・安中武幸(2017):水田土壤中の窒素形態が付着藻類の光合成による田面水のpH変化におよぼす影響、農業農村工学会論文集 No.305(85-2), I_209-I_214.

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 花山 奨・安中武幸(2017):ペルチエ素子を使った田面水の対流にともなう水温変動の測定、H29農業農村工学会大会講演会講演要旨集、4-26(P), 318-319.

2-③ 外部資金の獲得

2-③-(i) 科研費以外の外部資金

奨学寄付金 1件

2-④ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 日本砂丘学会論文賞:メロンがトンネル栽培された砂丘畑における土壌水分・溶質量変動の5TEセンサーを用いた測定(平成29年8月22日)

渡部 徹

2-① 原著論文

- (1) Lee, Y. P., Fujii, M., Kikuchi, T., Natsuike, M., Ito, H., Watanabe, T., Yoshimura, C. Importance of allochthonous and autochthonous dissolved organic matter in Fe(II) oxidation: A case study in Shizugawa Bay watershed, Japan. *Chemosphere*, 180, 221–228, 2017
- (2) Dong Duy Pham*, Sumiko Kurashima, Nobuo Kaku, Atsushi Sasaki, Jian Pu, Toru Watanabe. Bottom-to-top continuous irrigation of treated municipal wastewater for effective nitrogen removal and high quality rice for animal feeding. *Water Science and Technology: Water Supply*, accepted
- (3) Gia Thanh Nguyen*, Kevin Phan, Ian Teng, Jian Pu, Toru Watanabe. A systematic review and meta-analysis of the prevalence of norovirus in cases of gastroenteritis in developing countries. *Medicine*, 96(40), e8139. doi: 10.1097/MD.0000000000008139
- (4) 金谷祐里, Prayoga Windra, 浦剣, 渡部徹*, 水中の病原菌による皮膚感染症のリスクと薬剤耐性を考慮したその健康影響の評価, *土木学会論文集G(環境)*, 73(7), III_125–III_137, 2017
- (5) Gia Thanh Nguyen*, Jian Pu, Takayuki Miura, Hiroaki Ito, Shinobu Kazama, Yoshimitsu Konta, An Van Le, Toru Watanabe. Oyster contamination with human noroviruses impacted by urban drainage and seasonal flooding in Vietnam. *Food and Environmental Virology*, 10, 61–71, 2018
- (6) Nutta Sangnarin Hamjinda, Wilai Chiemchaisri*, Toru Watanabe, Ryo Honda, Chart Chiemchaisri. Toxicological assessment of hospital wastewater in different treatment processes. *Environmental Science and Pollution Research*, 25, 7271–7279, 2018
- (7) Sulfikar, Ryo Honda*, Mana Noguchi, Ryoko Yamamoto-Ikemoto, Toru Watanabe. Effects of sedimentation and aeration on antibiotic resistance induction in an activated sludge process. *Journal of Water and Environment Technology*, accepted
- (8) Susan Praise*, Hiroaki Ito, Ying An, Kazuya Watanabe, Toru Watanabe. Dissolved organic matter characteristics along sabo dammed streams based on ultra-violet visible and fluorescence spectral properties. *Environmental Monitoring and Assessment*, accepted

2-② 総説

- (1) 渡部徹, 下水処理水再利用による飼料用米栽培—日本有数の穀倉地帯での挑戦—, 再生と利用, 42(156), 70–76, 2017
- (2) 渡部徹, 都市・農村間、生産者・消費者間での資源循環に貢献する飼料用米作りへの処理水利用, 月刊下水道, 41(5), 35–40, 2018

2-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 渡部徹, 下水処理水を活用した飼料用米栽培, そして次の一手へ—鶴岡モデルの提案—, BISTRO 下水道in霧島・鹿児島高専, 平成29年5月10日, 鹿児島県霧島市【招待講演】
- (2) Nguyen Sy-Toan, 程為国, Julien Guigue, 塩野宏之, 俵谷圭太郎, 渡部徹, 熊谷勝巳, Hot water extracted carbon and nitrogen affected by long-term application of rice straw and compost from a Japanese rice paddy, 日本土壌肥料学会2017年度大会(仙台大会), 平成29年9月5～7日, 仙台市
- (3) 渡部徹, 金谷祐里, 水系感染症のリスク評価とモデリング, 第30回日本リスク研究学会年次大会(滋賀大会), 平成29年10月27～29日, 滋賀県彦根市【招待講演】
- (4) 三浦逸実, 西山正晃, 浦剣, Prayoga Windra, Chart Chiemchaisri, Wilai Chiemchaisri, 渡部徹, 活性汚泥に存在する抗菌薬に耐性を示す細菌叢の検索, 第54回環境工学研究フォーラム, 平成29年11月17～19日, 岐阜市
- (5) 本多了, Sorn Sovannlaksmy, 周藤真裕, 林夢雨, 野口愛, 松浦哲久, 池本良子, 渡部徹, 湖沼環境における薬剤耐性菌の耐性強化の可能性とその要因, 第54回環境工学研究フォーラム, 平成29年11月17～19日, 岐阜市
- (6) 小山一稀, Praise Susan, Pham Viet Dung, 伊藤紘晃, 西山正晃, 渡部徹, 森林と農地から抽出した土壌有機物の沿岸域における量的・質的变化, 第23回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成30年1月25日, 酒田市
- (7) 寺島佑哉, 西山正晃, 渡部徹, マイクロバブルを用いた畜産排水の迅速な固液分離への挑戦, 第23回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成30年1月25日, 酒田市
- (8) 木村香月, 伊藤絵里香, 西山正晃, 渡部徹, 下水処理水の放流先に生息する二枚貝のノロウイルス汚染, 第23回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成30年1月25日, 酒田市
- (9) 伊藤雛奈, 菅原彩水, 仲澤朝夏, 本間咲来, 森明日香, Pham Duy Dong, 伊藤絵里香, 木村香月, 渡部徹, 下水処理水連続灌漑による飼料用米栽培におけるMAPの利用可能性, 第23回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成30年1月25日, 酒田市

- (10) 小山一稀, 西山正晃, 伊藤紘晃, Pham Viet Dung, Praise Susan, 渡部徹, 森林と農地の土壌から抽出した有機物の塩分濃度上昇による量的・質的変化, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (11) 寺島佑哉, 西山正晃, 渡部徹, マイクロバブルを用いた畜産排水の迅速な固液分離技術の開発, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (12) 渡部徹, Pham Duy Dong, Suhono Agnes Hoki Briliana, Pham Viet Dung, 増田周平, 西山正晃, 加来伸夫, 下水処理水の連続灌漑で飼料用米を栽培する水田でのMAPの利用と温室効果ガスの排出, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (13) 西山正晃, Prayoga Windra, 本多了, Chiemchaisri Chart, Chiemchaisri Wilai, 渡部徹, MLSTを用いたチャオプラヤ川流域における薬剤耐性大腸菌の遺伝学的特徴の解析, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (14) 三浦逸実, 西山正晃, 浦剣, Chiemchaisri Chart, Chiemchaisri Wilai, 渡部徹, 抗菌薬に耐性を示す活性汚泥細菌の群集解析, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (15) 伊藤絵里香, 伊藤紘晃, 浦剣, 西山正晃, 渡部徹, ヒト腸管系ウイルス数種の養殖牡蠣への蓄積の季節的変動, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (16) 木村香月, 西山正晃, 伊藤絵里香, 渡部徹, 下水処理水放流先に自生する二枚貝からのノロウイルスの検出, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (17) 竹田壮太, 増田周平, Pham Duy Dong, 渡部徹, 岡野邦宏, 下水処理水を利用した酒米栽培システムにおける玄米品質の評価, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (18) 細谷純平, 増田周平, Pham Duy Dong, 渡部徹, 高階史章, 岡野邦宏, 下水処理水を利用した酒米栽培システムにおける温室効果ガス発生特性, 平成29年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成30年3月3日, 郡山市
- (19) 増田周平, Pham Duy Dong, 高階史章, 岡野邦宏, 宮田直幸, 渡部徹, 下水処理水を用いた酒造好適米栽培システムの構築に向けた基礎的検討, 第52回日本水環境学会年会, 平成30年3月15~17日, 札幌市
- (20) 伊掛賢人, 楊森, 本多了, 池本良子, 渡部徹, 下水処理プロセスにおける薬剤耐性遺伝子の消長, 第52回日本水環境学会年会, 平成30年3月15~17日, 札幌市

2-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Pu Jian, Kazama Shinobu, Miura Takayuki, Ito Erika, Konta Yoshimitsu, Watanabe Toru. Temporal variation of Norovirus genogroup II in Japanese oysters by applying pyrosequencing analysis. 2017 Water Microbiology Conference, Chapel Hill, NC, USA, May 15-19, 2017
- (2) Fuminari Miura, Toru Watanabe, Kozo Watanabe, Kensuke Fukushi. Time series analysis of seasonal correlation between concentration of norovirus in sewage and clinical cases of acute gastroenteritis. 19th International Symposium on Health-Related Water Microbiology, Chapel Hill, NC, USA, May 15-19, 2017
- (3) Sulfikar, Ryo Honda, Mana Noguchi, Ryoko Yamamoto-Ikemoto, Toru Watanabe. Effects of sedimentation and aeration on antibiotic resistance induction in an activated sludge process. Water and Environment Technology Conference (WET2017), Sapporo, Japan, July 22-23, 2017
- (4) Dong Duy Pham, Sumiko Kurashima, Kennich Horiguchi, Atsushi Sasaki, Jian Pu, Toru Watanabe. Impact of treated municipal wastewater irrigation on growth of rice crop for animal feeding and heavy metals in paddy soil. 11th IWA International Conference on Water Reclamation and Reuse, Long Beach, CA, USA, July 23-27, 2017
- (5) Toru Watanabe, Dong Duy Pham, Sumiko Kurashima, Nobuo Kaku, Jian Pu. Nitrogen removal, electricity generation and greenhouse gas emissions in paddy fields irrigated with treated municipal wastewater 11th IWA International Conference on Water Reclamation and Reuse, Long Beach, CA, USA, July 23-27, 2017
- (6) Toru Watanabe, Eikichi Ichihashi, Jian Pu, Hiroaki Ito. Quantitative and qualitative changes of forest soil organic matters expected in estuaries. 7th IWA-ASPIRE Conference 2017, Kuala Lumpur, Malaysia, September 11-14, 2017
- (7) Itsumi Miura, Jian Pu, Toru Watanabe. Species identification of antibiotic resistant bacteria in activated sludge using pyrosequencing. 7th IWA-ASPIRE Conference 2017, Kuala Lumpur, Malaysia, September 11-14, 2017
- (8) Gia Thanh Nguyen, Jian Pu, Hiroaki Ito, An Van Le, Toru Watanabe. Oyster contamination with human norovirus impacted by urban drainage and flood in central Vietnam. 7th IWA-ASPIRE Conference 2017, Kuala Lumpur, Malaysia, September 11-14, 2017

2-⑤ その他の研究活動

- (1) 下水再生水を活用した飼料用米栽培に関する勉強会 メンバー(2016年5月～現在)
- (2) 寄附講座「アジアの水・食・健康リスク講座」主宰(2017年～現在)
- (3) Hue University Journal of Science: Earth Science and EnvironmentのInternational Board of Advisors(2017年7月～現在)

2-⑥ 外部資金の獲得

2-⑥-(i) 科研費

- (1) 基盤研究(A) 2件(うち分担 2件)
- (2) 基盤研究(B) 3件(うち代表 2件、分担 1件)

2-⑥-(ii) 科研費以外の外部資金

受託研究 3件、奨学寄附金 4件

石川 雅也

2-① 外部資金の獲得

2-①-(i) 科研費

- (1) 挑戦的研究(萌芽) 1件(うち代表 1件)

花山 奨

2-① 原著論文

- (1) M. Nakajima, W. Cheng, S. Hanayama, and M. Okada (2017): Shallow autumn tillage does not reduce CH₄ emission from an Andisol paddy field in Morioka, a cold region in Japan. Journal of Agricultural Meteorology, 73(3), 92-99
- (2) 花山奨, 金谷祐里, 安中武幸(2017): 水田土壌中の窒素形態が付着藻類の光合成による田面水のpH変化におよぼす影響. 農業農村工学会論文集, 305, 1209-1214

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 花山奨・安中武幸(2017): ペルチエ素子を使った田面水の対流にともなう水温変動の測定、農業農村工学会大会講演会講演要旨集、318-319

2-③ 学会賞等の研究活動による受賞

- (1) 日本砂丘学会論文賞: メロンがトンネル栽培された砂丘畑における土壌水分・溶質量変動の5TEセンサーを用いた測定(平成29年8月22日)

渡邊 一哉

2-① 原著論文

- (1) Nipaporn Ratchatapattanakul, Watanabe Kazuya*, Okamoto Yuki, Kono Yasuyuki(2017) Living under the State and Storms: The History of Blood Cockle Aquaculture in Bandon Bay, Southeast Asian Studies Vol.6, No.1, 3-30.
- (2) Takashi Yoshikawa, Kosuke Tomizawa, Yuki Okamoto, Kazuya Watanabe, Jintana Salaenoi, Kenichi Hayashizaki, Hisashi Kurokura, Satoshi Ishikawa(2017) Nutrients, light, and phytoplankton production in the shallow, tropical coastal waters of Bandon Bay, Southern Thailand, Marine Ecology Volume 38, Issue 6, 1-12.
- (3) Susan Praise, Hiroaki Ito, Ying An, Kazuya Watanabe, Toru Watanabe(2018) Dissolved organic matter characteristics along sabo dammed streams based on ultraviolet visible and fluorescence spectral properties, Environmental Monitoring and Assessment 190: 146, 1-14.

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 渡邊一哉・大場梢(2017) サクラマスを選好性に着目した河川環境の変動把握, 応用生態工学会全国大会, ESE60
- (2) 古川豊・渡邊一哉(2017) 農業用水路におけるイシガイ類の繁殖空間の把握, 農業農村工学会 東北支部会

2-③ その他研究活動

- (1) 渡邊一哉(2017)ストリームセラピー～川を使いまわすための技術の確立をめざして～, 山形大学環境保全センター広報誌「環境保全」No.20号, 63-76.

2-④ 外部資金の獲得

2-④-(i) 科研費

- (1) 科研基盤(c)復元生態史に基づく持続性生態資源利用プログラムの解明 H29～H31

2-④-(ii) 科研費以外の外部資金

- 奨学寄附金 1件 (東北地域づくり協会)

学科所属

中坪あゆみ

2-① 原著論文

- (1) T.Onitsuka, H.Takami, D.Muraoka, Y.Matsumoto, A.Nakatsubo, R.Kimura, T.Oon and Y.Nojiri (2018): Effects of ocean acidification with pCO₂ diurnal fluctuations on survival and larval shell formation of Ezo abalone, *Haliotis discus hannai*. *Marine Environmental Research*, 134, 28-36
- (2) 松本有記雄・中坪あゆみ・高見秀輝・河村知彦(2018):エゾアワビの採苗における緑藻アワビモ *Ulvella lens* の利用可能性と針型珪藻 *Cylindrotheca closterium* との兼用, 日本水産学会誌84(2) 291-293
- (3) 松本有記雄・伯耆匠二・中坪あゆみ・西洞孝広・野呂忠勝・貴志大樹・高見秀輝・河村知彦(2018):アワビ類の初期餌料としての好適な針型珪藻 *Cylindrotheca closterium* の大量培養法と採苗板への展開法に関する研究, 日本水産学会誌84(2) 233-240
- (4) 田邊大・中坪あゆみ・片平光彦・小林隆・嶋田浩(2017):UAV(無人航空機)を利用した農作物の生育診断(第2報), 農業食料工学会支部報, 64, 17-20

2-② 学会発表(国内学会)

- (1) 田邊大・中坪あゆみ・富樫均仁・片平光彦・嶋田浩(2017):UAV(無人航空機)を利用した農作物の生育診断(第2報)ーバレイショ畑のモニタリングー, 農業食料工学会東北支部大会研究発表会講演要旨集, 33-34
- (2) 中坪あゆみ・田邊大・富樫均仁・片平光彦(2017):UAV(無人航空機)を利用した作物畑のモニタリングーダイズ畑における収穫適期の判定と品質把握ー, 農業食料工学会年次大会講演要旨76, 243
- (3) 田邊大・中坪あゆみ・富樫均仁・片平光彦・嶋田浩(2017):UAV(無人航空機)を利用した農作物の生育診断(第1報)ーバレイショ畑のモニタリングー, 農業食料工学会講演要旨, 76, 24

2-③ 学会発表(国際学会)

- (1) D.Tanabe, A.Nakatsubo, N.Togashi, M.Katahira and H.Shimada(2017): Growth monitoring of horticulture crops using unmanned aerial vehicle (Part1) – field monitoring of potatoes –, 7th Asian-Australasian Conference on Precision Agriculture, New Zealand
- (2) A.Nakatsubo, K.Tanaka, and T.Sugiura(2017): Estimating SPAD value, chlorophyll and mineral components using hyperspectral data of maize leaves, 7th Asian-Australasian Conference on Precision Agriculture, New Zealand

プロジェクト教員

栞原 良樹

2-① 学会発表(国内学会)

- (1) 栞原良樹、辰己賢一: 地形による光環境の差異が水稻の生長・収量に及ぼす影響、日本農業気象学会全国大会(発表番号 J-58)、福岡(九州大学)、2018年3月。
- (2) 栞原良樹、辰己賢一: 地形による日射特性の差異がイネ個葉の光合成特性に与える影響、日本作物学会講演会(講演番号 107)、栃木(宇都宮大学)、2018年3月。

③学会・社会活動

安全農産物生産学コース

西澤 隆

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会(代議員 平成29年4月～現在)
- (2) 国際園芸学会
- (3) 米国園芸学会
- (4) 植物環境工学会(評議員 平成29年4月～現在)

3-①-(ii) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会東北支部平成29年度大会・大会実行委員長:山形県鶴岡市(平成29年8月17日～平成29年8月18日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Advances in Research (Open Access) 1件, 園芸学研究(日本) 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県農林水産技術会議委員(平成29年7月1日～平成31年6月30日)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 鶴南ゼミ・鶴岡南高等学校(平成29年4月～平成30年2月)

藤井弘志

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会
- (2) 日本作物学会
- (3) 日本土壌肥料学会東北支部長(2016年4月1日～2018年3月31日)

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 地域戦略プロ:専門PO(東北農研)
- (2) 経営体評価プロ:専門PO(東京農工大)
- (3) エコやまがた推進協議会会長(山形県)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 山形大学農学部公開講座講演(2017年6月17日)
- (2) 山形県民シンポジウム:講演、コーディネーター(2017年11月17日)
- (3) 知の拠点シンポジウム:コーディネーター(2017年12月10日)
- (4) 庄内水田フォーラム:講演、コーディネーター(2018年2月21日)

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 山形県立農林大学校特別講義「土壌肥料」「植物生理」:6回6月2日、7月13日、10月5日
- (2) 村山市講演会「先進農業」(村山市役所)8月30日
- (3) 酒田南高校模擬講義:6月16日
- (4) 長井高校大学説明:9月26日
- (5) 夢ナビ講演(仙台市):10月7日

- (6) 寒河江高校模擬講義:10月9日
- (7) 山形北高校大学説明:11月24日
- (8) 土づくり講演会(名古屋市):12月8日
- (9) 荘内松柏会講演(先進農業):12月9日
- (10) 土づくり講演会(高知市):2月17日
- (11) 土づくり講演会(JA長岡):3月7日
- (12) 土づくり講演会(新潟県山田錦研究会):3月8日
- (13) 多収栽培法講演(全農本部)3月12日
- (14) 土づくり講演会(東京:ケイカル協会)3月15日
- (15) 提言の広場(山形テレビ):3月31日

平 智

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会(代議員、2015～現在)
- (2) 日本食品保蔵科学会(理事、学会賞選考委員、2011～現在)
- (3) 人間・植物関係学会(理事、2005～現在)

3-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所所長(2012～現在)
- (2) 鶴岡致道大学学長(2012～現在)
- (3) 鶴岡市森林文化都市研究会会長(2011～現在)
- (4) 鶴岡市総合計画審議会委員、同企画専門委員会委員長(2017～現在)
- (5) 山形在来作物研究会副会長(2009～現在)

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「カキ果実の加工適性」について講演:かぶちゃん農園・飯田市(平成29年8月25日)
- (2) 「食文化創造都市鶴岡」について講演:名寄市(平成29年12月5日)

浦川修司

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本草地学会(編集委員～現在)
- (2) 東北畜産学会(評議員2015～現在)

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本草地学会1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業評価分科会評価委員(平成27年～平成30年)
- (2) 農業機械等緊急開発事業推進プロジェクトチーム委員(平成27年～平成30年)
- (3) 稲麦二毛作体系安定化・普及促進調査推進委員(平成27年～平成30年)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 寄附講座「スマート・テロワール」形成講座 収穫感謝祭「山形大学が取り組む実証プロジェクトの概要」:シンポジウム、平成29年11月28日、場所:グランドエルサン
- (2) 食と農のビジネス塾「畜産の実態」、平成29年12月1日、場所:山形大学農学部

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「稲発酵粗飼料の生産・収穫・加工調製技術」について講演, 農林水産省,福島県,2017年12月5日
- (2) 「飼料用米の生産・収穫・加工調製技術」について講演, 農林水産省,福島県,2017年12月5日
- (3) 「飼料作物の収穫調製」について講演, 日本草地畜産種子協会,福島県,2017年12月8日
- (4) 「WCS用イネの現状と新たな展開」について講演, 福岡市畜産環境整備協議会,福岡県,2018年2月8日
- (5) 「飼料用米の生産・利用の現状と今後」について講演, 農林水産省九州農政局,宮崎県,2017年11月7日
- (6) 「WCS用イネの利用動向」について講演, 農研機構,埼玉県,2017年11月1日
- (7) 「WCS用イネの現状と新たな展開」について講演, 農林水産省農林水産技術会議,広島県,2017年10月19日
- (8) 「飼料用米を巡る情勢と新たな利用動向」について講演, 山形県,天童市,2017年8月29日

堀口健一

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会
- (2) 日本草地学会(国際情報担当委員2011年度～現在、和文誌編集委員2015年度～現在)
- (3) 東北畜産学会(評議員2010年度～現在)
- (4) 日本家畜管理学会
- (5) 肉用牛研究会
- (6) ルーメン研究会(評議員2013年度～現在)

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本畜産学会報 1件
- (2) Animal Science Journal 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県試験研究機関アドバイザー・ボードメンバー(2016年4月1日～2020年3月31日)
- (2) 山形県公害審査会委員(2017年1月1日～2019年12月31日)

小笠原宣好

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

角田憲一

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会(副部門長2015～)
- (2) 根の学会
- (3) サゴヤシ学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition(日本) 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 鶴岡市農産物認定認証事業判定委員会委員(平成25年～平成30年)
- (2) 鶴岡市水田農業推進機構委員(平成25年～平成30年)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 出張講義、平成29年7月25日、場所：新潟県立長岡向陵高校

長谷 修

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会 (東北部会幹事2008～現在)
- (2) アメリカ植物病理学会 会員
- (3) 日本植物生理学会 会員
- (4) 北日本病害虫研究会 会員(評議員2013.4～現在)
- (5) 日本菌学会 会員

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 北日本病害虫研究会報(日本1件)
- (2) Physiological and Molecular Plant Pathology(Elsevier 1件)
- (3) Journal of Phytopathology (ドイツ Wiley 1件)

3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 公開講座「環境保全型農業の新時代～少ない資源で栽培する次世代農業～」、内容「持続的な農業のための病害防除研究」平成29年6月24日、場所：山形大学農学部

小林 隆

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会
- (2) The American Phytopathological Society
- (3) 北日本病害虫研究会(編集委員2009～)

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 北日本病害虫研究会報 4件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県毒物劇物取扱者試験

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 平成29年度教員免許状更新講習、平成29年8月8日、場所：山形大学農学部

片平光彦

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業食料工学会東北支部会, 常任幹事, 2009年04月～継続中
- (2) 農業食料工学会, 評議員, 2016年04月～継続中
- (3) 農業施設学会
- (4) 農作業学会

- (5) American Society of Agricultural and Biological Engineers

森 静香

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会
- (2) 日本作物学会
- (3) 日本土壤肥料学会東北支部役員(2016年4月1日～2018年3月31日)

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本土壤肥料学会 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県科学技術奨励賞審査委員会委員(2016年6月1日～2018年5月31日)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 山形大学農学部公開講座講演(2017年6月17日)

佐藤 智

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本応用動物昆虫学会
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本昆虫学会

3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 出張講義、平成29年12月8日、場所: 酒田南高校
- (2) 公開講座「ひらめき☆ときめきサイエンス: 生物の多様性を考える」、平成29年9月16日、場所: 山形大学農学部
- (3) UMY and YU Joint Seminar: New Approach in Implementing Sustainable Agricultureにおける講演「Function of Organisms and Its Use for Sustainable Agriculture」場所: 山形大学農学部(平成29年4月5日)
- (4) 平成29年度山形大学農学部公開講座 環境保全型農業の新時代～少ない資源で栽培する次世代農業～「第三回: 生態系サービスと農業」 場所: 山形大学農学部102講義室

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「水稻栽培と生態系サービス」について講演: 庄内産直ネットワーク主催・三川町 なの花ホール(平成30年2月10日)
- (2) 「水稻栽培と生態系サービス」について講演: パルシステム生産者・消費者協議会主催・有楽町 朝日ホール(平成30年1月17日)
- (3) 「水田の生き物の発生状況とその役割について」講演、依頼先: 庄内産直ネットワーク、場所: 田田、平成29年9月2日
- (4) 「水田の生き物の発生状況とその役割について」講演、依頼先: 庄内産直ネットワーク、場所: 田田、平成29年7月7日
- (5) 「マルタニシの機能」についての記事掲載: 日本農業新聞(平成29年7月15日)

松山裕城

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会

- (2) 日本草地学会
- (3) 東北畜産学会
- 3-①-(ii) 論文審査の依頼等**
 - (1) 日本草地学会 1件
 - (2) Animal Science Journal(日本) 1件
 - (3) 東北畜産学会報 1件
- 3-② 社会貢献としての委員会等の兼業**
 - (1) 飼料稲給与畜産物認証基準作成委員会委員(平成28年～平成30年)
- 3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター**
 - (1) 農場フェスティバル「山形大学発ハム・ソーセージのご紹介」、平成29年10月7日、場所:やまがたフィールド科学センター
 - (2) 庄内スマート・テロワール収穫感謝祭「耕畜連携と農工一体で取り組んだ食肉加工品の紹介」、平成29年11月28日、場所:グランドエル・サン(鶴岡市)
 - (3) スキルアップ研修会「寄附講座で創出された食肉・食肉加工品の紹介」、平成29年12月6日、場所:山形大学農学部
- 3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等**
 - (1) 「飼料設計の基本について」の講演:農林水産省主催・独立行政法人家畜改良センター(平成29年8月30日)
 - (2) 「飼料用米利用拡大の現状と課題」の講演:最上総合支庁産業経済部農業振興課主催・最上総合支庁農業技術普及課産地研究室(平成30年1月25日)

佐々木由佳

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会・土壌教育委員会委員(2016年4月1日～2018年3月31日)・土壌肥料学会誌編集委員会委員(2017年4月1日～2019年3月31日)
- (2) 日本作物学会
- (3) 農業農村工学会
- (4) 日本熱帯農業学会
- (5) サゴヤシ学会
- (6) 山形在来作物研究会
- (7) 東北地区自然災害科学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 土壌肥料学雑誌(日本) 9件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 庄内水田農業推進機構主催 附属農場開放事業「わんぱく農業クラブ」の運営(2005年～現在)
- (2) 庄内水田農業推進機構委員(2009年4月～現在)
- (3) 山形大学農学部鶴窓会代議員(2011年4月～現在)
- (4) 山形大学東北創生研究所 研究員(食糧生産研究部門) 兼任(2014年6月～2017年5月)
- (5) 山形県科学技術会議 委員(2015年6月1日～2017年5月31日)
- (6) 山形県リサイクル製品認定・リサイクルシステム認証審査会審査員(2016年7月7日～2018年3月31日)
- (7) 山形県農業普及活動外部評価委員会委員(2017年1月16日～2018年3月31日)
- (8) JICA短期研修「アフリカ地域稲作収穫後処理」企画運営及び講師(2012年4月～2019年3月)

池田和生

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会
- (2) 日本植物細胞分子生物学会
- (3) 山形在来作物研究会(幹事)
- (4) 日本食品保蔵科学会
- (5) 国際アウトウシンポジウム実行委員会
- (6) 国際園芸学会

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 8th International Cherry Symposium・実行委員(会場):山形県山形市(平成29年6月5日～9日)
- (2) 園芸学会東北支部大会・実行委員(会計):山形県鶴岡市(平成29年8月17日～18日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Plant Biotechnology Reports 1件

3-② 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「在来作物のおはなし」:熱中小学校 農業コース(平成29年5月13日)
- (2) 園芸学会東北支部大会公開シンポジウム:「やまがたの在来ナスの特性-漬物用小ナスと新たに発見された波渡なす-」:(平成29年8月17日)
- (3) 「山形県の特産果樹のヒミツ」:熱中小学校 農業コース(平成29年10月14日)

松本大生

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 教員免許状更新講習、平成29年8月7日、場所:山形大学農学部

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 歴史地理学会(評議員1990～現在)
- (2) 史学研究会(評議員2004～現在)
- (3) 日本山岳修験学会(理事1990～現在)
- (4) 村山民俗学会(会長2016～現在)
- (5) 山形県民俗研究協議会(副会長2016～現在)

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 大江町文化的景観委員会委員(2008～現在)

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 月山ジオパーク構想ガイド養成講座「出羽三山の歴史と山岳信仰」:10月31日、山大農学部
- (2) 日本遺産シンポジウム出羽三山「生まれかわりの旅」パネリスト:1月28日、山形市ビッグウイング
- (3) 日本遺産地域プロデューサー育成研修会講演「出羽三山「生まれかわりの旅」の魅力」:3月6日、鶴岡市勤労者会館

小沢 亙

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 東北農業経済学会(会長、2016～2018)
- (4) 農村計画学会(評議員、2013～2018)
- (5) 日本フードシステム学会
- (6) 地域活性学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業経済研究 2件
- (2) フードシステム研究 1件
- (3) 地域活性研究 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県農業・農村政策審議会委員(山形県、会長代理、2006年4月～)
- (2) 山形県米政策推進会議委員(山形県、会長、2007年9月～)
- (3) 専門家派遣事業にかかる専門家(山形県農業会議、2008年5月～)
- (4) 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員(鶴岡市、2009年11月～)
- (5) 公益財団法人やまがた農業支援センター評議員選定委員会委員(やまがた農業支援センター、2011年2月～)
- (6) 山形県農村環境保全推進委員会委員(山形県、座長、2012年2月～2021年3月)
- (7) 豊かなむらづくり審査会委員(東北農政局、2014年5月～)
- (8) 米政策等の見直しに係る検討会アドバイザー(川西町農業再生協議会、2014年5月～)
- (9) 農地中間管理事業評価委員会委員(やまがた農業支援センター、委員長、2015年1月～)

- (10) 公設庄内青果物地方卸売市場取引委員会委員(庄内広域行政組合. 2015年3月～)
- (11) 東北農政局事前評価技術検討会委員(東北農政局. 2015年6月～)
- (12) 果樹王国ひがしね6次産業化推進協議会委員兼アドバイザー(東根市. 2015年9月～)
- (13) 山形市農業戦略本部委員(山形市. 2016年5月～)
- (14) 出羽商工会経営発達支援計画・事業評価委員会委員(出羽商工会. 2016年8月～)
- (15) 知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業におけるコーディネーター(公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会. 2017年5月～)
- (16) 鶴岡市総合計画審議会産業専門委員会委員(鶴岡市. 委員長. 2018年2月～)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 出張講義、平成29年6月21日、場所：酒田西高校定時制
- (2) 高校教員を対象とした山形大学説明会、平成29年6月30日、場所：山形大学農学部
- (3) 高校教員を対象とした山形大学説明会、平成29年7月3日、場所：東北大学片平さくらホール
- (4) 出張説明会、平成29年7月20日、場所：庄内農業高校
- (5) 夢ナビ説明会、平成29年7月22日、場所：東京ビッグサイト
- (6) 高校教員を対象とした山形大学説明会、平成29年8月31日、場所：新潟テルサ
- (7) 夢ナビ説明会、平成29年10月7日、場所：夢メッセみやぎ
- (8) 出張説明会、平成29年11月8日、場所：福島西高校
- (9) 出張講義、平成29年12月7日、場所：鶴岡中央高校
- (10) 入試直前相談会、平成30年1月21日、場所：東北大学片平さくらホール

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 地域農業と日本の食料を守り、持続可能な社会と地域を発展させる共同宣言事業定期総会講演会(遊佐町. 2017年4月5日)
- (2) 朝日新聞 減反廃止と農村2コメント(2017年6月15日)
- (3) 日本学校農業クラブ山形県大会審査員(2017年12月8日)

角田 毅

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経営学会
- (2) 日本農業経済学会
- (3) 東北農業経済学会・副会長
- (4) 地域農林経済学会
- (5) 日本農業普及学会

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第53回東北農業経済学会・大会実行委員長：山形県鶴岡市(平成29年8月25日～平成29年8月26日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業経営研究(日本)3本
- (2) 農業経済研究(日本)2本
- (3) 農村経済研究(日本)2本
- (4) 農業経済研究報告(日本)1本

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 東北農政局国営事業事後評価技術検討会委員(2017.4～2018.3)
- (2) やまがた6次産業ビジネススクール講師
- (3) やまがた農業経営塾運営委員
- (4) JA営農指導実践山形県大会審査委員
- (5) 金山町農業振興計画策定委員会委員長
- (6) 山形県創意工夫プロジェクト支援事業(最上総合支庁)計画審査委員
- (7) 東北農政局中山間地域所得向上支援事業評価委員
- (8) 山形県農業経営発展支援協議会委員
- (9) 食と農のビジネス塾 講師

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「第21回全国農業担い手サミットinやまがたプレ大会」コーディネーター(2018年1月31日)
- (2) JAみやぎ登米稲作部会連絡協議会研修会・講師(2018年2月8日)
- (3) 鶴岡市農業委員会農業振興担い手専門委員会・山形大学農学部交流事業(2017年10月12日)
- (4) 「農業分野における労働力の確保」についての記事掲載:日本農業新聞(2018年1月3日)

家串哲生

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経営学会
- (2) 日本農業経済学会
- (3) 地域農林経済学会
- (4) 日本社会関連会計学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本農業経営学会、論文審査レフリー、2件
- (2) 山形大学紀要、論文審査レフリー、1件

3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 食と農のビジネス塾講師:山形大学農学部(2017年10月6日)
- (2) 夏期セミナー:山形大学農学部(2017年7月31日)

藤科智海

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 日本フードシステム学会
- (4) 東北農業経済学会
- (5) 地域活性学会
- (6) 農村計画学会
- (7) システム農学会

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第53回東北農業経済学会山形大会・大会実行委員会事務局長：山形県鶴岡市(2017年8月24日～2017年8月26日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 東北農業経済学会 2件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県研究評価委員会委員(2012年6月～継続中)
- (2) やまがた6次産業ビジネススクール講師(2011年08月～継続中)
- (3) 地域定住農業者育成コンソーシアム事務局(2016年04月～継続中)
- (4) 地域定住農業者育成コンソーシアム 食と農のビジネス塾 講師, 2016年8月～継続中
- (5) 山形県立農林大学校「農産加工マーケティング」講師, 2017年10月～12月
- (6) 山形県立農林大学校「6次産業化」講師, 2017年11月～12月
- (7) 山形市農業戦略本部プロジェクトチーム委員, 2017年4月～継続中
- (8) 廃校再生プロジェクトNPO法人はじまりの学校「熱中小学校」講師, 2017年4月～2017年8月
- (9) 山形県卸売市場審議会委員, 2016年9月～継続中
- (10) 庄内地域農林水産業若手賞審査委員, 2018年3月14日

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 宮城県気仙沼高等学校出張講義：フードシステムと6次産業化, 2017年10月17日

渡辺理絵

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本地理学会
- (2) 人文地理学会代議員(2016～2018年)
- (3) 歴史地理学会
- (4) 日本国際地図学会
- (5) 東北地理学会

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県環境審議会委員(平成29年6月12日～31年4月30日)
- (2) 山形県総合政策審議会特別委員(平成30年2月5日～平成31年4月29日)
- (3) 山形県立山形北高等学校学校評議員(平成27年5月11日～平成30年3月31日)
- (4) 山形県立山形北高等学校学校関係評価委員(平成27年5月11日～平成30年3月31日)
- (5) 「未来に伝える山形の宝」登録審査委員(平成28年2月17日～平成30年2月16日)
- (6) 山形県都市計画審議会委員(平成29年11月15日～平成31年11月14日)
- (7) 米沢市文化財審議員(平成27年7月1日～平成29年6月30日)
- (8) 山形県景観審議会委員(平成28年2月8日～平成30年2月7日)

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 招待講演：渡辺理絵「山林景観を絵図・産物帳から読み解く(講演)」G空間エキスポ2017—時空間を旅する歴史の見方・地理の見方—Historical Viewpoint and Geographical Viewpoint; those Originality and Characteristics(東京科学未来館)」

食品・応用生命科学コース

三橋 涉

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生化学会(東北支部幹事 2000年～)
- (2) 日本農芸化学会(東北支部参与2013年～)
- (3) 日本植物生理学会
- (4) 日本植物学会
- (5) アメリカ植物科学会、日本分子生物学会

小関卓也

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(JABEE対応委員会委員2015.3～2017.2、東北支部山形県代表参与2013.7～)
- (2) 日本生物工学会(北日本支部代議員2011.5～2017.3、北日本支部編集委員2013.5～)
- (3) 日本応用糖質科学会(東北支部理事2010.5～)
- (4) 日本醸造学会
- (5) 日本栄養・食糧学会(東北支部参与2014.2～)
- (6) 糸状菌分子生物学研究会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) International Journal of Food Science and Technology(英国), 1件
- (2) Biocatalysis and Biotransformation(英国), 1件
- (3) 3 Biotech(スイス), 1件
- (4) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本), 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形セレクション会議加工食品分野専門委員会・GI山形認定審査会委員(2017.4～2018.3)
- (2) 山形県農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト成果評価審査会委員(2017.4～2018.3)
- (3) 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究課題評価分科会評価委員(2017.10～2020.3)
- (4) 鶴岡南高校スーパーサイエンスハイスクール「鶴南ゼミ」講師(2017.4～2018.3)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 出張講義、平成29年11月10日、場所：新潟県立村上高校

豊増知伸

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(和文誌編集委員2015～現在)
- (2) 植物化学調節学会(代議員2016年10月29日～現在、学会賞選考委員2016年10月29日～現在)
- (3) 日本植物生理学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Plant Journal (英国) 2件
- (2) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本) 1件
- (3) Journal of Antibiotics (日本) 1件

永井 毅

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本水産学会
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本食品科学工学会
- (4) 日本食品化学学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Advances in Research 1件, Journal of Scientific Research and Reports 1件,
- (2) LWT-Food Science and Technology 3件, Biotechnology Journal International 1件
- (3) Asian Journal of Advances in Agricultural Research 5件, Journal of Advances in Microbiology 1件,
- (4) Current Journal of Applied Science and Technology 2件, Current Nutrition & Food Science 4件,
- (5) Journal of Advances in Biology & Biotechnology 2件, Journal of Applied Life Sciences International 1件,
- (6) Asian Journal of Biotechnology and Bioresource Technology 2件
- (7) Journal of Advances in Food Science & Technology 1件, Microbiology Research Journal International 1件,
- (8) Annual Research & Review in Biology 1件, European Journal of Nutrition & Food Safety 5件,

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 加茂水産高等学校SPH運営指導委員(平成27～平成29年)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 出張講義、平成29年10月12日、場所:福島県立福島南高校
- (2) 出張講義、平成29年12月7日、場所:福島県立須賀川桐陽高校

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「七窪思恩園への出前講義実習」についての記事掲載:荘内日報(平成29年8月11日)
- (2) 「七窪思恩園への出前講義実習」についての記事掲載:山形新聞(平成29年8月14日)
- (3) 「七窪思恩園への出前講義実習」についての記事掲載:荘内日報(平成29年11月5日)
- (4) 「七窪思恩園への出前講義実習」についての記事掲載:山形新聞(平成29年11月7日)
- (5) 「七窪思恩園への出前講義実習」についての記事掲載:コミュニティしんぶん(平成29年11月10日)
- (6) 「七窪思恩園への出前講義実習」についての記事掲載:コミュニティしんぶん(平成30年1月26日)

木村 直子

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 第23・24期日本学術会議連携会員(2014年10月～食料科学委員会畜産学学科会幹事)
- (2) 日本繁殖生物学会会員(2012年～理事、2010年～男女共同参画推進委員およびJRD編集委員、2017年～プログラム委員)

- (3) 日本受精着床学会会員(2012年～理事)
- (4) 日本卵子学会会員(2015年～常任理事、生殖補助医療胚培養士資格認定委員会副委員長、生命倫理委員会委員)
- (5) 日本畜産学会会員(2015年～若手奨励・男女共同参画推進委員会委員長)
- (6) 日本生殖免疫学会会員(2017年～理事)
- (7) 東北畜産学会(2011年～評議員)

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Reproduction and Development(日本):4件
- (2) Biology of Reproduction(米国):4件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 第23・24期日本学術会議連携会員(2014年10月～食料科学委員会畜産学分科会幹事)
- (2) 山形県農林水産技術会議委員(2015年～)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 胚培養士認定委員会副委員長の立場で、一般社団法人日本卵子学会平成29年度第16回生殖補助医療胚培養士資格認定制度審査会および講習会の運営。2017年4月15～16日。TFTビル東館(東京都江東区)。約200名の参加者。
- (2) 胚培養士認定委員会副委員長の立場で、日本卵子学会第9回生殖補助胚培養士セミナー「ゲノム編集技術の最前線と応用ほか」の企画・運営。2017年9月17日 9:00～15:10。TFTビル(東京都江東区)。約300名の参加者。
- (3) 若手奨励・男女共同参画推進委員会委員長の立場で、日本畜産学会第123回大会若手奨励・男女共同参画推進委員会主催ランチョンセミナー「ジビエ ～自然の恵みと畜産学からみた課題～」の企画・運営。2017年9月7日12:00～13:00。信州大学農学部(長野県)。約100名の参加者。
- (4) 若手奨励・男女共同参画推進委員会委員長の立場で、日本畜産学会第124回大会若手奨励・男女共同参画推進委員会主催ランチョンセミナー「動物園ではたらく～あなたの知らない動物園の世界～」の企画・運営。2017年3月29日12:00～13:00。東京大学農学部(東京都文京区)、約100名の参加者。

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 国際ロータリー第2800地区鶴岡ロータリークラブでの講演「卵子の研究と私たちの暮らし」(2017年8月1日、鶴岡第一ホテル)。
- (2) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)3機関合同シンポジウム「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」での研究報告。Induction of autophagy in neonatal mice increases the number of primordial follicles.(2017年12月4日、山形大学米沢キャンパス)

加来伸夫

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会
- (2) 日本土壤微生物学会
- (3) 日本農芸化学会(東北支部参与)
- (4) 日本土壤肥料学会
- (5) 日本水環境学会
- (6) 土木学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Nutritional Science and Vitaminology(日本) 1件
- (2) Microbes and Environments(日本) 1件

3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 出張講義、平成29年5月23日、場所：山形県立鶴岡北高等学校
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校 鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探求活動)講師

塩野義人

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 日本薬学会
- (3) マイコトキシン学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Phytochemistry Letters (英国) 3件
- (2) Bioscience, Biotechnol, Biochem. 4件

渡辺昌規

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生物工学会
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本食品工学会
- (4) 日本生物工学会 本部代議員
- (5) 日本生物工学会 北日本支部委員
- (6) 日本生物工学会 サステナブル工学研究会委員
- (7) Journal of Bioscience and Bioengineering (Elsevier publisher) 英文誌編集委員

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) The International Conference of Food and Applied Bioscience (FAB2018). Scientific Committee member, co-host organaizer.

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Bioscience and Bioengineering (Netherland) 2件
- (2) Journal of the science of food and agriculture (USA) 1件
- (3) LWT-Food Science and technology (USA) 1件
- (4) Chiang Mai Journal of Science (Thailand) 2件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県サイエンスナビゲーター事業 講師

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) FROMPAGE主催”夢ナビLIVE2017”公開授業(2017年10月7日、仙台(夢めっせ宮城))
- (2) JSPS-CCP公開セミナーの開催”Experiences of Chiang Mai university in High value-added oligosaccharides productions using enzymatic process and dye containing wastewater treatment using photosynthetic bacterial consortium(2017年10月25日、本学)
- (3) 農学部公開講座「農学の夕べ」講師：(2016年11月16日、本学)
- (4) 地域定住農業者育成コンソーシアム「食と農のビジネス塾」講師：(2018年1月12日、本学)

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「山形大学PR特集」農学部についての記事執筆・掲載：山形新聞(平成30年4月3日)

井上奈穂

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 日本栄養・食糧学会
- (3) 日本肥満学会
- (4) 日本油化学会
- (5) 日本過酸化脂質・抗酸化物質学会
- (6) American Oil Chemists' Society
- (7) 油脂・コレステロール研究会(庶務幹事 2012年～現在)

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第50回油脂・コレステロール研究会 シンポジウム・総会 運営: 沖縄県宜野湾市(平成29年5月21日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) J Nutr Sci Vitaminol(日本): 3件
- (2) J Oleo Sci(日本): 2件
- (3) Biosci Biotechnol Biochem(日本): 2件

3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 女性研究者裾野拡大セミナー 講演、平成29年7月30日、山形県鶴岡市(山形大学農学部 オープンキャンパス)
- (2) 夏期セミナー 担当、平成29年7月31日、山形県鶴岡市(山形大学農学部)
- (3) 農学のタベ「油脂の科学」講演、平成29年10月12日、山形県鶴岡市(山形大学農学部)
- (4) 模擬授業、平成30年3月7日、学校法人石川高校

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 第7回 知の拠点庄内シンポジウム 「からだに良い油のお話 ～庄内の食品で健康長寿をめざそう～」講演 平成29年12月10日、鶴岡市先端研究産業支援センター

植物機能開発学コース

村山哲也

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(支部参与)
- (2) 日本薬学会
- (3) 有機合成化学協会
- (4) 日本生薬学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県公害審査会委員(平成28年12月～)

俵谷圭太郎

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会(東北支部評議員)
- (2) 日本土壌微生物学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition
- (2) Plant and Soil
- (3) New Phytologist
- (4) International Journal of Phytoremediation
- (5) Journal of Plant Nutrition

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 鶴岡市環境審議会委員

村山秀樹

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会(代議員2015～現在)
- (2) 日本食品保蔵科学会(評議員2009～現在)
- (3) 国際園芸学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) The Horticulture Journal 2件
- (2) Journal of Food Quality 1件
- (3) Scientia Horticulturae 1件
- (4) Journal of Food Quality 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県「ラ・フランス」振興協議会アドバイザー(2017)

- (2) 山形県立鶴岡南高等学校「鶴南ゼミでの講師」(2017)
- (3) 山形県立鶴岡北高等学校学校評議員・学校関係者評価委員(2017)
- (4) ひらめきときめきサイエンスプログラム「生物の多様性を考える」の開催、2017年9月、場所：農学部
- (5) 庄内産ワインプロジェクト会議委員(2017)
- (6) 上山市園芸作物産地化研究会委員(2017)

江頭宏昌

3-① 学会活動

3-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会
- (2) 園芸学会
- (3) 山形在来作物研究会(代表)
- (4) 和食文化学会(設立発起人&理事)
- (5) 人間・植物関係学会
- (6) 日本DNA多型学会
- (7) 生き物文化誌学会
- (8) 雑穀研究会

3-①-① (ii) 学会の主催等

- (1) 山形在来作物研究会、代表：山形県鶴岡市(平成29年10月29日)

3-①-① (iii) 論文審査の依頼等

- (1) The Horticulture Journal 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員(平成20年～)
- (2) 焼畑かぶブランド力向上プロジェクト協議会アドバイザー(平成29年)
- (3) 山形県農林水産技術会議委員(平成29年)
- (4) 山形おきたま伝統野菜振興協議会アドバイザー(平成29年)
- (5) 山形県「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」PR大使(平成29年)
- (6) 沖縄県「うちなー島野菜商品化支援技術開発事業」推進会議外部アドバイザー委員(平成26年～平成29年)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 食文化論基盤整備研究会にて講義、京都府立大学、平成29年9月1日、場所：京都府立大学和食文化研究センター
- (2) 食と農のビジネス塾にて講義、平成29年11月2日、場所：山形大学農学部
- (3) 山形大学先進的研究拠点形成支援事業(YU-COE)シンポジウム「これからの時代に必要なフードリテラシーとは？～山形の地域性を活かした食育の可能性～」にて講演、平成30年3月21日、場所：山形大学小白川キャンパス
- (4) 和食文化学会設立記念シンポジウムにおいて日本人の主食コメについて解説、平成30年2月19日、場所：ANAクラウンプラザ京都
- (5) シンポジウム「北の焼畑、南の焼畑：日本列島とその周辺部から考える」にて「北の焼畑ーカブと焼畑」と題して講演：人間文化研究機構・東北アジア地域研究推進事業・国立民族学博物館拠点・国内シンポジウム、場所：国立民族学博物館

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「在来作物の魅力」について説明：エフエム山形に出演(平成29年5月2日放送)
- (2) 「庄内の孟宗について」と題して講演：東北振興研修所主催(平成29年5月17日)

- (3) 「在来種を守ることの意義と今日的課題」と題して講演: 生物多様性と味わい教育推進協議会主催・学習院女子大学(平成29年6月24日)
- (4) 「かてものについて」と題して講演: GEN Japan主催・鶴岡FOODEVER(平成29年8月2日)
- (5) 「山形県の在来作物」と題して講演: 安徽省農業科学アカデミー主催・中国安徽省農業科学院土壤肥料研究所(平成29年8月13日)
- (6) 「鶴岡の在来作物」と題して講演: 日本家政学会食文化部会主催・鶴岡市農村センター(平成29年8月24日)
- (7) 「山形県庄内地方の在来作物～その歴史と特徴」と題して講演: 北庄内勉強会主催・山形大学農学部(平成29年8月30日)
- (8) 「はとなすはどこからきたの」と題して講演: 小堅保育園(鶴岡市)主催(平成29年9月16日)
- (9) 「在来作物と鶴岡の魅力」と題して講演: 首都圏鶴岡会主催・タワーホール船堀@東京都江戸川区(平成29年9月24日)
- (10) 「在来作物とガストロノミー」と題して講演: 鶴岡市食文化創造都市推進協議会主催・FOODEVER(平成29年9月25日)
- (11) 「高山在来作物と有機農業」と題して講演: 高山市有機農業推進協議会主催・国府公民館(平成29年10月15日)
- (12) 「在来作物は生きた文化財」と題して講演: にいがた在来作物研究会主催・新潟市アグリパーク(平成29年10月21日)
- (13) 「在来野菜の生かし方」と題して講演: 庄内幼葉研究会主催のリーフビジネス研究会にて・余目第一公民館(平成29年11月7日)
- (14) 「在来作物の魅力と今後」と題して講演: オイシックスドット大地株式会社主催の東北地区生産者会議にて・観松館@最上町瀬見温泉(平成29年11月9日)
- (15) 「いもとかぶのはなし」と題して講演: 熱中小学校主催@高畠町(平成29年11月11日)
- (16) 「温海かぶと焼畑」について解説: NHK番組「うまいっ!」に出演(平成29年11月26日放映)
- (17) 「山形在来作物研究会設立15周年記念公開国際フォーラム」についての記事掲載: 全国農業新聞(平成29年12月2日)
- (18) 「在来作物の魅力と活用」と題して講演: 山形おきたま伝統野菜推進協議会主催・置賜総合支庁(平成29年12月8日)
- (19) 「北庄内の在来作物」と題して講演: 東部中学校主催・山形大学農学部(平成29年12月15日)
- (20) 「山形在来作物研究会設立15周年記念公開国際フォーラム」についての記事掲載: 農耕と園芸1月号(平成30年12月20日)
- (21) 鶴岡ガストロノミーイベントにて「鶴岡の在来作物ここ10年間の変化と新規追加品目」と題して講演: 鶴岡市主催・グランドエルサン(平成30年2月2日)
- (22) 「『伝える』意味を改めて考える」と題して講演: いわき昔野菜研究会主催・いわき中央台公民館(平成30年2月4日)
- (23) 「なぜ在来作物や野生植物が私たちに大切なのか」と題して講演: 辻調理師専門学校主催・FOODEVER(平成30年2月5日)
- (24) 「在来作物の魅力」と題して講演: 種継ぎ人の会主催@茨城県常陸太田市・café+1(平成30年2月17日)
- (25) 「山形県庄内地方における在来作物の掘り起こしと地域活性化」と題して講演: 霧島ガストロノミー推進協議会主催・霧島市国分シビック多目的ホール(平成30年2月25日)

程 為国

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会
- (2) 日本土壤微生物学会
- (3) 日本作物学会

- (4) 日本気象学会
- (5) Soil Science Society of America

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 2017年度日本農業気象学会東北支部大会:山形県鶴岡市(平成29年8月24日～平成29年8月25日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition 3件
- (2) Biology and Fertility of Soils 7件
- (3) Journal of Wetlands Environmental Management 3件
- (4) Organic Agriculture 1件
- (5) Agronomy for Sustainable Development 1件
- (6) Catena 2件
- (7) Plant and Soil 1件
- (8) 土肥誌 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) Editor, Journal of Wetlands Environmental Management

笹沼恒男

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会(幹事2012年4月～2015年12月、代議員2016年1月～3月、2018年3月～)
- (2) 日本遺伝学会
- (3) 日本作物学会
- (4) 文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)コムギ小委員会委員(2003～現在)
- (5) 研究情報電子ジャーナル Wheat Information Service (eWIS) 編集委員(2005～現在)

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Breeding Science (日本) 2件
- (2) Genetica (ドイツ) 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県農業総合研究センター園芸試験場 遺伝子組換え実験安全委員会委員
- (2) 庄内バイオ研修センター育種専門指導員

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 庄内バイオテクノロジー学習会にて「学会とはどのようなものか—学会での研究発表の様子—」を講演:庄内バイオ研修センター(平成29年6月3日)
- (2) 青芋復活夢見隊10周年記念展「蘇りの青芋ものがたり」にて特別講演「DNA解析から見た大江町の青芋」を講演(演者:笹沼恒男、西田悠希):大江町歴史民俗資料館(平成30年2月25日)
- (3) ホームメイドクッキングホームページにてコラム「コムギ博士の1分ママ知識」掲載(2018年2月)

服部 聡

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会
- (2) 極限環境生物学会

- (3) バイオインダストリー協会
- (4) 日本農芸化学会
- 3-①-(ii) 論文審査の依頼等**
 - (1) Microbes and Environments (日本) 2件
 - (2) The Journal of General and Applied Microbiology (日本) 1件
 - (3) Applied Energy (オランダ) 1件
- 3-② 社会貢献としての委員会等の兼業**
 - (1) 環境微生物系学会合同大会2017実行委員会委員(平成28年～平成29年)
 - (2) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 事務局(平成28年～平成29年)

及川 彰

- 3-① 学会活動**
- 3-①-(i) 所属学協会及びその役職**
 - (1) 日本農芸化学会
 - (2) 日本食品分析学会
 - (3) 植物生理学会
- 3-①-(ii) 論文審査の依頼等**
 - (1) PLOsOne(米国) 1件
 - (2) Forests(スイス) 1件
 - (3) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry(日本) 1件
 - (4) Molecules(スイス) 1件
 - (5) Environmental Pollution(オランダ) 1件
 - (6) International Journal of Molecular Science(スイス) 1件
- 3-② 社会貢献としての委員会等の兼業**
 - (1) 山形県 やまがたフードセンシング活用アドバイザー(平成29年～平成30年)
- 3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等**
 - (1) 「食のメタボローム解析」市民フォーラム(平成29年11月5日)
 - (2) 「農産物と食品のメタボローム解析」研究交流会(平成29年11月15日)
 - (3) 「メタボロミクスの農業・食品分野への応用」三機関連携情報交換会(平成29年12月1日)
 - (4) 「メタボロミクスの農業・食品分野への応用」ただちや豆生産者組織連絡協議会(平成30年1月30日)

星野友紀

- 3-① 学会活動**
- 3-①-(i) 所属学協会及びその役職**
 - (1) 日本育種学会
 - (2) 日本植物生理学会
 - (3) 東北植物学会
- 3-①-(ii) 論文審査の依頼等**
 - (1) Genetic Resources and Crop Evolution (ドイツ)(1件)
- 3-② 社会貢献としての委員会等の兼業**
 - (1) 山形県革新的技術開発・緊急展開事業「えだまめ地域戦略プロジェクト」技術指導

- (2) 山形県立鶴岡南高等学校 SSH鶴南ゼミ 研究指導

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 講演(平成29年7月11日)
- (2) 出張講義:福島県立会津高等学校 会津大学講座 講師(平成29年10月21日)

網干貴子

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 日本農薬学会

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience Biotechnology & Biochemistry 3件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県科学技術会議委員(平成28～30年)
- (2) 山形県科学技術奨励賞審査委員(平成28～30年)

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「化学物質を介した植物と昆虫の相互作用」について講演:2017年度農芸化学会東北支部市民フォーラム・山形大学農学部(平成29年11月5日)

森林科学コース

森 茂太

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) Ecological Processes (Springer), Editorial Board
- (2) Eurasian journal of forest reseach, Referee Board
- (3) 根研究学会評議員
- (4) 根研究学会「根の研究」編集委員
- (5) 日本森林学会 所属
- (6) 日本生態学会 所属
- (7) 東北植物学会 所属
- (8) 熱帯生態学会 所属
- (9) 東北森林学会 所属
- (10) 亜熱帯森林林業研究会 所属

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Regional Studies in Marine Science 1件
- (2) Royal Society open sciece 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形市森林整備推進協議会委員
- (2) 東北森林管理局国有林野管理審議委員長
- (3) 山形県環境審議委員会委員
- (4) 鶴岡市森林審議委員会委員長

林田光祐

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会(代議員 2016～現在)
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本海岸林学会(副会長 2008～現在)
- (4) 東北森林科学会
- (5) 植生学会
- (6) 日本鳥学会

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第4回東北野生動物管理研究交流会inつるおか、山形大学農学部、平成29年11月11日

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌(1件)
- (2) 日本緑化工学会誌(1件)

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 鶴岡工業高等専門学校運営協議会委員(2016～)
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校評議員(2016～)

- (3) 山形県立鶴岡南高等学校SSH運営指導委員(2016～)
- (4) 鶴岡市総合計画審議会委員(2016～)
- (5) 鶴岡市農業発展奨励賞表彰審査委員会委員(2016～)
- (6) 庄内水田農業推進機構会長(2016～)
- (7) 公益財団法人庄内地域産業振興センター評議員(2016～)
- (8) 公益財団法人マエタテクノロジーリサーチファンド理事(2016～)

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 里地里山講座「時の流れに移りゆく都沢湿地とその再生」について講演:庄内自然博物館構想推進協議会主催・鶴岡市自然学習交流館(平成29年6月11日)
- (2) 市指定天然記念物「熊野長峰湿原群」の保安全管理に関する助言指導:鶴岡市教育委員会社会教育課(平成29年6月21日～9月8日)
- (3) 三陸復興国立公園の公園計画の一部変更(オランダ島の植生)にかかる指導助言:環境省東北地方環境事務所(平成29年6月27日)
- (4) 「イヌワシに見る庄内のみらい」観察会における「イヌワシの保全と林業の両立をめざした森づくり」についての解説:猛禽類保護センター活用協議会主催・鳥海イヌワシみらい館(平成29年10月7日)
- (5) UAE大学の日本研修会において「庄内海岸林の歴史と生態系サービス」に関する現地説明:東京農工大学主催・鶴岡市農政課(平成29年12月22日)
- (6) 「農と林の新たな連携による地域振興に向けて」の講演:山形県立農林大学校創立記念特別講義・山形県立農林大学校(平成30年1月12日)

芦谷竜矢

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会
- (2) 日本化学会
- (3) 日本木材加工技術協会
- (4) 東北森林科学会, 財務理事
- (5) 国際化学生態学会

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第68回日本木材学会大会・口頭発表座長(抽出成分部門3件):京都市

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Holzforschung(独国) 2件
- (2) Trends in Phytochemical Research (イラン) 1件
- (3) 東北森林科学会誌(日本) 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県森林研究研修センター アドバイザリーボード 平成29年度
- (2) 東北森林管理局 技術開発委員会委員 平成29年度
- (3) 東北森林管理局 平成28年度森林・林業技術交流発表会 審査副委員長 平成30年1月
- (4) 山形県林工連携コンソーシアム 委員 平成29年度

菊池俊一

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会

- (2) 日本生態学会
- (3) 日本地形学連合
- (4) 日本地すべり学会
- (5) 日本緑化工学会
- (6) 森林立地学会
- (7) 日本海岸林学会
- (8) 東北森林科学会(常任理事(総務)2016～2018、学会誌編集委員2011～現在)
- (9) 北方森林学会

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第22回東北森林科学会大会・常任理事(総務):青森県青森市(平成29年8月24日～平成29年8月25日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 東北森林科学会誌 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 東北森林管理局朝日山地森林生態系保護地域管理委員会委員長(2013年5月～2018年3月)
- (2) 東北森林管理局事業評価技術検討会委員(2016年5月～2018年3月)
- (3) 国土交通省東北地方整備局月山ダム事務所月山ダム水源地域ビジョン推進会委員長(2014年12月～現在)
- (4) 山形県県土整備部山形県公共事業評価監視委員会委員(2016年4月～2018年3月)
- (5) 鶴岡市環境つるおか推進協議会監事(2015年5月～2018年3月)
- (6) 鶴岡市森林文化都市研究会委員(2017年4月～現在)
- (7) 特定非営利活動法人公益のふるさと創り鶴岡理事(2017年6月～現在)
- (8) 出羽庄内公益の森づくりを考える会委員(2010年4月～現在)
- (9) 飯豊連峰保全連絡会アドバイザー(2010年9月～現在)
- (10) 朝日連峰保全協議会アドバイザー(2010年9月～現在)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 山形県内高校を会場とした受験相談会、平成29年5月15日、場所:新庄北高校
- (2) 山形県内高校を会場とした受験相談会、平成29年6月29日、場所:山形南高校
- (3) 高校教員を対象とした山形大学説明会、平成29年7月19日、場所:小白川キャンパス
- (4) 平成30年度入試直前相談会、平成30年1月20日、場所:ゆうキャンパスステーション
- (5) 出前講義、平成29年12月13日、場所:山形中央高校
- (6) 公開シンポジウム 山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム「人が動く、森が動く。一市民参加による森づくり」、コーディネーター、平成30年2月2日、場所:山形大学農学部

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 「水源の森づくり」について講演:東北ダム事業促進連絡協議会管理研究部会主催(第8回みちのくダム湖サミット in 月山)・鶴岡市東京第一ホテル鶴岡(平成28年10月13日)
- (2) 「広葉樹の森づくり」について講演:鶴岡市農林水産部主催・鶴岡市熊野長峰(平成28年11月3日)
- (3) 公開シンポジウム「震災6年目のボランティア」を開催:平成28年11月6日、場所:山形大学農学部3号館301講義室、参加人数30人
- (4) 「汀線近くの地表攪乱についての海岸林保全上の懸念」について講演:特定非営利活動法人庄内海岸のクロマツ林をたたえる会主催(第12回クロマツシンポジウム)・酒田市出羽遊心館、(平成28年12月25日)
- (5) 「冬芽観察ー冬のケヤキの森を楽しもうー」について講演:NPO法人公益のふるさと創り鶴岡主催・鶴岡市森林公園ケヤキの森(平成29年2月19日)

- (6) 「市民ボランティアによる「みどり」環境の保全」について講演:公益財団法人山形県みどり推進機構主催・山形県高度技術研究開発センター(山形市)(平成29年2月27日)
- (7) 公開イベント「6年目のCandle Night」を開催:平成29年3月10~11日、場所:鶴岡アートフォーラム、参加人数:350人
- (8) 「鶴岡市立上郷小学校の野外学習」についての記事掲載:朝日新聞(平成29年6月28日)
- (9) 「ミズバショウ園 夏の保全作業」の現地指導:松ヶ岡のミズバショウ美化保全プロジェクト主催、鶴岡市松ヶ岡ミズバショウ園(平成29年7月16日)
- (10) 「環境フェアつるおか2017」において環境保全に関するブース開設:鶴岡市環境つるおか推進協議会主催、鶴岡市小真木原体育館(平成29年9月24日)
- (11) 「三瀬地区の森と川」について現地講演:鶴岡市環境課主催「つるおか森の時間H29年第2回」、鶴岡市三瀬笠取峠・藤倉山(平成29年9月30日)
- (12) 「水源の森づくり」について講演・現地指導:鶴岡市立あさひ小学校・月山ダム水源地域ビジョン推進會主催、鶴岡市湯殿山スキー場・月山ダム(平成29年10月2日)
- (13) 「ドングリの森づくり」について講演・現地観察会:NPO法人公益のふるさと創り鶴岡主催、鶴岡市森林公園ケヤキの森(平成29年10月8日)
- (14) 「「みどり」環境の保全は当たり前」について講演:手ノ子区協議会主催、第2回森づくりと里山を考える集い、飯豊町西部地区公民館(平成29年10月14日)
- (15) 「市民参加による水源の森づくり」について講演・現地指導:月山ダム水源地域ビジョン推進會主催、鶴岡市湯殿山スキー場・月山ダム(平成29年10月15日)
- (16) 「酒田市十里塚の風力発電建設と海岸林保全の現地視察」について記事掲載、荘内日報、平成29年11月1日
- (17) 「広葉樹の森づくり」について講演・現地指導:熊野長峰広葉樹の森づくり委員会・鶴岡市農林水産部主催・鶴岡市熊野長峰(平成29年11月3日)
- (18) 「上名川演習林における研究課題」について現地講演:鶴岡市環境課主催「つるおか森の時間H29年第3回」、上名川演習林(平成29年11月5日)
- (19) 「2017年天狗ノ庭合同保全作業地の現状」について講演:飯豊連峰保全連絡會主催「第20回会合」、福島県喜多方市(平成29年11月7日)
- (20) 「鶴岡市立上郷小学校の秋の野外学習」について現地講演・技術指導:鶴岡市立上郷小学校・熊野長峰広葉樹の森づくり委員会主催、鶴岡市熊野長峰(平成29年11月9日)
- (21) 「ミズバショウ園 秋の保全作業」の現地指導:松ヶ岡のミズバショウ美化保全プロジェクト主催、鶴岡市松ヶ岡ミズバショウ園(平成29年11月11日)
- (22) 「津波からの避難路の整備」について現地技術指導:三瀬地区自治会・鶴岡市立豊浦小学校主催、鶴岡市三瀬(平成29年11月20日)
- (23) 「津波避難道 児童ら整備」に関して記事掲載、朝日新聞、平成29年11月21日
- (24) TUY(テレビユー山形)の番組「えこいろ」に出演し「庄内海岸林」について説明、平成29年10月30日
- (25) コマーシャル「日本財団 海と日本Project in Yamagata」の「海岸林と海のつながり」に出演、TUY(テレビユー山形)、平成29年12月~
- (26) 「避難路への土嚢積み階段の適用」について現地技術指導:三瀬地区自治会主催、鶴岡市三瀬(平成29年12月2日)
- (27) 「今年度の登山道保全活動の成果」について説明:飯豊連峰保全連絡會・朝日連峰保全協議會主催「H29年度技術部会会合」、福島県喜多方市(平成30年1月27日)
- (28) 「冬の森林の楽しみ方」について講演:鶴岡市環境課主催「森のソムリエ講習会」、鶴岡市森林公園ケヤキの森(平成30年2月3日)
- (29) 「冬芽と野生動物足跡の観察」について現地講演・現地観察会:NPO法人公益のふるさと創り鶴岡主催、鶴岡市森林公園ケヤキの森(平成30年2月17日)
- (30) 「7年目のCandle Night開催」についての記事掲載:朝日新聞(平成30年3月12日)
- (31) 「7年目のCandle Night開催」についての記事掲載:読売新聞(平成30年3月12日)
- (32) 「7年目のCandle Night開催」についての記事掲載:山形新聞(平成30年3月12日)
- (33) 「7年目のCandle Night開催」についての記事掲載:荘内日報(平成30年3月13日)

林 雅秀

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 林業経済学会(評議員・表彰委員 平成29年～現在)
- (3) 東北森林科学会(総務主事 平成28年～平成29年)
- (4) 日本社会学会

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県緑県民会議委員(平成29年度)
- (2) 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員(平成29年度)
- (3) 東北森林管理局森林計画等に関する検討委員(平成29年度)

江成広斗

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生態学会(英文誌編集委員 平成26年～現在)
- (2) 「野生生物と社会」学会(理事 平成29年～現在、学術誌編集委員 平成26年～現在)
- (3) 日本霊長類学会(保全福祉担当幹事 平成27年～現在)
- (4) 日本哺乳類学会(ニホンザル保護管理作業部会部会長 平成28年～現在)
- (5) 東北森林科学会(財務担当主事 平成28年～平成29年)

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第4回東北野生動物管理研究交流会 山形県鶴岡市(平成29年11月11日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Ecosystems(北米) 1件
- (2) Mammal study(日本) 1件
- (3) 霊長類研究 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 環境省 ニホンザル保護管理検討会 委員(平成24年～平成29年)
- (2) 宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会 ニホンザル部会委員(平成29年)
- (3) 山形県 特定鳥獣保護管理検討委員会委員(平成25年～平成29年)
- (4) 山形県自然環境モニタリング総合検討委員会 委員(平成29年)
- (5) 環境省 自然環境保全基礎調査(中大型哺乳類分布調査)検討会委員(平成29年)

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 境省モニタリングサイト1000里地調査「里山の長期モニタリングからみえた生態系の変化と市民調査の可能性」会場:山形大学理学部 主催:自然保護協会(平成29年7月22日)
- (2) 「シカの新たなモニタリング手法について」山形新聞、朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞、河北新報、読売新聞、YBC山形放送、NHKによる報道

吉村 謙一

3-① 学会活動

3-①-(i) 論文審査の依頼等

- (1) Science of the Total Environment 1件

- (2) Scientific Reports 2件
- (3) Ecological Research 1件 他2件
- 3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター**
 - (1) 農学のタベ「芽生えから朽ち果てるまで～炭素の流れから樹木の一生を考える」平成29年11月30日
 - (2) 農場フェスタ「樹形のふしぎ」平成29年10月7日

齋藤 昌幸

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生態学会
- (2) 日本哺乳類学会
- (3) 日本景観生態学会
- (4) 東北森林科学会

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第4回東北野生動物管理研究交流会inつるおか・大会実行委員：山形県鶴岡市(平成29年11月11日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Crop Protection(英国) 1件
- (2) 保全生態学研究(日本) 1件
- (3) Journal of Ethology(日本) 1件
- (4) Mammal Study(日本) 1件
- (5) Ecological Research(日本) 1件
- (6) Mammal Research(ポーランド) 1件

3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 齋藤昌幸 里山の隣人、タヌキとノウサギの生態. 平成29年度山形大学農学部農学紹介講座「農学のタベ」, 山形大学鶴岡キャンパス, 2017年10月.

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 齋藤昌幸 都市化と野生生物の関係を調べる：ノウサギ、タヌキ、その他いろいろ. 武蔵高等学校・中学校生徒野外研究奨励基金講演会, 武蔵高等学校中学校, 2017年7月.

水土環境科学コース

藤井秀人

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本雨水資源化システム学会 評議員(2007～現在)
- (2) 農業農村工学会(1983～現在)
- (3) 水文水資源学会(1994～現在)
- (4) 日本熱帯農業学会(1987～現在)
- (5) 日本雨水資源化システム学会(1988～現在)

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 平成29年度海外技術協力検討事業(ライフサイクルコスト低減型整備検討調査)委員:日本水土総合研究所(2017年5月～2018年3月)
- (2) 平成29年度 流通加工連携農業農村開発調査業務(アジア地域)国内検討委員会委員:日本水土総合研究所(2017年5月～2018年3月)
- (3) 平成29年度 流通加工連携農業農村開発調査業務(アフリカ地域)国内検討委員会委員:日本水土総合研究所(2017年5月～2018年3月)
- (4) 平成29年度 農地整備海外展開促進調査検討委員会委員:日本水土総合研究所(2017年5月～2018年4月)

奥山武彦

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) (公社)日本地すべり学会(理事H16～, 副会長H28～)
- (2) (公社)農業農村工学会(代議員H29～)
- (3) (公社)土木学会
- (4) (公社)地盤工学会(災害連絡会議地方連絡委員)

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本地すべり学会 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 東日本高速道路株式会社東北支社山形地域技術懇談会委員(28.6.30～30.3.31)
- (2) 平成29年度東北支社地すべり等のり面対策技術検討会委員(28.10.7～30.3.31)
- (3) 財団法人日本水土総合研究所客員研究員(29.5.15～30.3.31)
- (4) 農林水産省農村振興局 官民連携新技術研究開発事業審査委員会委員(29.9.20～)
- (5) 平成29年度地すべり調査意見聴取会委員(29.9.20～30.3.31)
- (6) 平成29年度庄内あさひ地区地すべり対策技術検討委員会委員長(29.9.5～30.3.31)

安中武幸

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会
- (2) 土壌物理学学会(評議員2017～現在)

- (3) 日本砂丘学会
- (4) 日本土壌肥料学会
- (5) 地盤工学会
- (6) アメリカ土壌科学会

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第23回庄内社会基盤技術フォーラム主催(平成30年1月25日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業農村工学会論文集 1件
- (2) 土壌の物理性 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

- (1) 山形県総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者(2017年度)
- (2) 庄内社会基盤技術フォーラム運営委員長

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 「一日総合大学」講義、平成29年7月13日、場所:谷地高校

渡部 徹

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会(1998～現在, 東北支部幹事2010～現在)
- (2) 日本水環境学会(1998～現在, 東北支部幹事2015～現在)
- (3) Society for Risk Analysis(2009～現在)
- (4) International Water Association(2000～現在)
- (5) 農業農村工学会(2011～現在)
- (6) 日本エコヘルス研究会(2013～現在, 事務局担当2013～現在)

3-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 水環境工学に関するセミナー:山形県鶴岡市(平成29年6月9日)

3-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Water Research(オランダ) 2件
- (2) Archives of Applied Science Research(ニュージーランド) 2件
- (3) International Journal of Environmental Research and Public Health(スイス) 2件
- (4) Journal of Environmental Chemical Engineering(オランダ) 2件
- (5) Microbes and Environments(日本) 2件
- (6) Microbial Risk Analysis(オランダ) 1件
- (7) Science for the Total Environment(オランダ) 1件
- (8) Applied Ecology and Environmental Research(ハンガリー) 1件
- (9) Risk Analysis(米国) 1件
- (10) Journal of Water and Health(英国) 1件
- (11) International Journal of Environment and Pollution(英国) 2件
- (12) Water(スイス) 1件
- (13) Letter in Applied Microbiology(米国) 1件
- (14) Journal of Water Environment Technology(日本) 2件
- (15) Journal of Advanced Research in Biotechnology(ニュージーランド) 1件

(16) 土木学会論文集(日本) 2件

(17) 水環境学会誌(日本) 1件

3-② 社会貢献としての委員会等の兼業

(1) 寒河江市水道事業経営問題審議会・会長(2017年8~10月)

(2) 鶴岡市ごみ焼却施設整備運営事業者選定委員会・委員(2017年2~12月)

(3) 平成29年度水浴場水質判定基準検討会・委員(2017年10月~2018年3月)

3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

(1) サマースクール, 平成29年9月24~30日, 場所:ベトナム・フエ大学

(2) 農学紹介講座「農学のタベ」, 「私たちの生活を農業・水産業のかかわり」, 平成29年10月5日, 場所:山形大学農学部

(3) 夏期セミナー「水が結ぶ生活環境と農・畜・水産業」, 平成29年7月31日, 場所:山形大学農

3-④ 外部での講演活動・新聞の掲載等

(1) 技術教養講座「下水道に期待される新しい役割ービストロ下水道, ほかー」:日本技術士会東北本部山形県支部主催・山形県高度技術研究開発センター(2017年11月10日)

(2) 非常勤講師, 東京大学工学部都市工学科, Risk Management of Urban Flood Disaster(2017年10月27日)

(3) 山形県立鶴岡南高等学校 スーパーサイエンスハイスクール事業への協力(2013年4月~現在)

(4) JICA課題研修「アフリカ地域稲作処理後コース」における講師:2017年9月7日, 山形大学農学部

(5) BISTRO下水道in霧島・鹿児島高専における講演:2017年5月10日, 鹿児島工業高等専門学校

(6) JST-CRDS平成29年度環境分野俯瞰ワークショップ「環境や社会の変化に伴う水利用リスクの低減と管理」における講演:2018年3月9日, TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

(7) 「研究開発の最前線」(日本下水道新聞, 2017年4月5日)

(8) 「耐性菌下水で監視」(日本経済新聞, 2017年6月20日)

石川 雅也

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

(1) ICID(国際灌漑排水協会、国内推進委員会委員 2003年4月1日~現在)

(2) 農業農村工学会(資源循環研究部会幹事 2003年4月1日~現在)

(3) 農業農村工学会(水田農業地域の農業用水における有効利用に関する分析調査検討委員会委員 2005年7月1日~現在)

(4) PAWEES(国際研究集会国内実行委員会委員 2005年2月1日~現在)

(5) (財)日本水土総合研究所(客員研究員 2006年11月27日~現在)

3-①-(ii) 論文審査の依頼等

(1) Paddy and Water Environment(ドイツ) 4件

(2) 農業農村工学会資源循環研究部会研究発表会論文(日本) 2件

(3) 農業農村工学論文集(日本) 1件

(4) 農村計画論文集(日本) 1件

花山 奨

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

(1) 農業農村工学会

- (2) 土壌物理学会
- (3) 日本土壌肥料科学会
- 3-② 社会貢献としての委員会等の兼業**
 - (1) 国営最上川下流左岸土地改良事業計画(農業用排水)専門技術者(平成29年)
- 3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター**
 - (1) 出張講義、平成29年12月15日、場所:村上桜ヶ丘高校

渡邊 一哉

- 3-① 学会活動**
- 3-①-(i) 所属学協会及びその役職**
 - (1) 農業農村工学会 正会員
 - (2) 応用生態工学会 正会員
 - (3) 日本生態学会 正会員
 - (4) 環境情報科学センター 正会員
 - (5) 自然復元学会 正会員
 - (6) 土木学会 正会員
- 3-② 社会活動・地域貢献活動**
 - (1) 最上川流域委員会 委員(2012年～継続)
 - (2) 最上川流域小委員会 委員(2012年～継続)
 - (3) 赤川水系河川整備学識者懇談会 委員(2014年～継続)
 - (4) 山形県総合評価委員会 委員(2014年～継続)
 - (5) 国土交通省 東北整備局 東北リバーカウンセラー(最上川) 委員(2015年～継続)
 - (6) 庄内社会基盤フォーラム 運営委員 (2010年～継続)
 - (7) 鶴岡市かわまちづくり協議会 会長(2017年～継続)
- 3-③ 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター**
 - (1) 校友会山形大学卒業生講演会、シンポジウム「活躍する山形大学卒業生」 座長 2017年11月25日 小白川キャンパス

学科所属

中坪あゆみ

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本草地学会
- (2) 農業食料工学会
- (3) 農業食料工学会東北支部

3-② 大学主催の出張講義・公開講座などの講演やシンポジウムのコーディネーター

- (1) 平成29年度庄内スマートテロワール収穫感謝祭「畑輪作体系における実証展示圃のこれまでの成果」、平成29年11月28日、場所：鶴岡市(グランドエル・サン)

3-③ 外部での講演活動・新聞の掲載等

- (1) 地域自給圏勉強会「庄内地域における食料自給圏スマート・テロワール」形成に向けて—山形大学での取り組み—、平成29年12月9日、場所：長野大学

プロジェクト教員

栗原良樹

3-① 学会活動

3-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農村計画学会(第18期 事業企画委員会委員 2016～2017年度)
- (2) 農業農村工学会
- (3) 日本作物学会

④海外研究者との研究活動

安全農産物生産学コース

西澤 隆

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年6月 トルコ:イチゴに関する調査
- (2) 平成29年6月 スロベニア:VII South-Eastern Europe Symposium on Vegetables & Potatoes参加
- (3) 平成30年1月 タイ:イチゴに関する調査

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 平成29年6月 イチゴに関する共同研究(トルコ:ククロバ大学 Nesibe Ebru Kafkas)
- (2) 平成30年1月 イチゴに関する共同研究(タイ:チェンマイ大学 Wilawan Kumpoun, ラジャマンガラ工科大学タワンオク校 Tanidchaya Puthmee)

平 智

4-① 国際研究集会の開催

- (1) 平成29年6月 国際アウトウシンポジウムの開催(会場:山形テルサ、参加国数:27、参加人数:245)、コンビナー

佐藤 智

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) インドネシアパジャジャラン大学学内公開シンポジウム“Can Eco Farming substitute The Conventional Farming for Our Food Security?”で講演:パジャジャラン大学主催、パジャジャラン大学(バンドウン)(平成30年3月28日)
- (2) インドネシアモハメディアン大学特別講義“Current situation of rice production in Japan”を実施:モハメディアン大学(ジョグジャカルタ)(平成29年11月20日)
- (3) 模擬講義の実施、インドネシア・モハメディアン大学、平成30年3月23日
- (4) 平成29年11月 インドネシア:水田生物の調査
- (5) 平成30年3月 インドネシア:ウィンタースクールの実施

佐々木由佳

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年10月31日～11月8日、パラオ・コロール環境保護区:ガリキル川流域における異なる現地土壌の透水性の評価
- (2) 2018年3月13日～3月19日、ケニア・ケニア農畜産業研究機構ムエア支所:SATREPS(テーラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)で採取した試料の確認と処理、現地研究打ち合わせ

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ケニア農畜産業研究機構ムエア支所(Dr. John Kimani):SATREPS(テーラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)

池田和生

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 平成29年6月 国際アウトウシンポジウムの開催(会場:山形テルサ、参加国数:30、参加人数:250人)

松本大生

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年10月～平成30年1月 イタリア: リンゴ栽培品種および野生種のフェノール生合成に関する比較解析(私費留学、受入れ先: Fondazione Edmund Mach財団, 果実生理遺伝学分野, Fabrizio Costa博士)

4-② 国際研究集会の開催

- (1) 第8回国際アウトウシンポジウム・実行委員および編集委員: 山形県山形市(平成29年6月5日～平成29年6月9日)(会場:山形テルサ、参加国数:28、参加人数:245)

食農環境マネジメント学コース

岩鼻通明

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年4/5月 韓国・全羅道においてパブリックアートを通じた地域活性化に関する調査
- (2) 2017年9月 韓国・ソウル周辺においてパブリックアートを通じた地域活性化に関する調査

角田 毅

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年6月 インドネシア: 農業の組織化に関する調査及びガジャマダ大学での講義
- (2) 平成29年9月 ベトナム: 日本の農業法人の海外進出に関する調査
- (3) 平成30年3月 ベトナム: 日本の農業法人の海外進出に関する調査

食品・応用生命科学コース

塩野義人

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年8月 インドネシア: 熱帯植物から分離した菌類の生理活性物質の探索源の可能性について

渡辺昌規

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年7月25-28日 タイ・チェンマイ大学: 農産廃棄物の再資源化に関する研究打ち合わせ(日本学術振興会(JSPS-CCP)派遣研究員として, Khon Kaen, Thailand)
- (2) 2017年9月1-9日 タイ・チェンマイ大学: ショートステイプログラムの実施
- (3) 2017年11月27-12月1日 タイ・チェンマイ大学: 農産廃棄物の再資源化に関する研究打ち合わせ(日本学術振興会(JSPS-CCP)派遣研究員として, Chiang Mai, Thailand)
- (4) 2018年2月1-3日 タイ・チェンマイ大学: 農産廃棄物の再資源化に関する研究打ち合わせ(日本学術振興会(JSPS-CCP)派遣研究員として, Chiang Mai, Thailand)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 亜熱帯性微生物を用いた新規発酵技術の開発とその事業化に関する共同研究(JSPS研究拠点形成事業Core to core (CCP) Program, チェンマイ大学副学長Charin Techapun氏、神戸大学農学部教授竹中慎治氏との共同研究)(2014~2018)(平成26年3月採択)
- (2) 新規フィターゼ産生乳酸菌の工業的利用に関する共同研究(山形大農学部・チェンマイ大学農産業学部との国際共同研究(2017~))

4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 平成30年2月 The International Conference of Food and Applied Bioscience (FAB2018)の開催(会場:Empress Hotel and Faculty of Agroindustry, Chiang Mai University, Chiang Mai, Thailand、参加国数:8、参加人数:452)

植物機能開発学コース

俵谷圭太郎

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2017年11月 インドネシアの熱帯林の修復に関する共同研究(インドネシア環境林業省Turjaman博士との共同研究)

村山秀樹

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年4月 ドイツ・ライプニッツ・ハノーヴァー大学とダブルディグリーに関する打ち合わせ
- (2) 2017年5月 インドネシア・ガジャマダ大学と大学間交流
- (3) 2017年11月 インドネシア・ガジャマダ大学と大学間交流

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) スペイン・リエイダ大学とセイヨウナシの共同研究

4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 平成29年6月 国際アウトウシンポジウムの開催(会場:山形市、参加国数:27、参加人数:245)

江頭宏昌

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年8月13日 中国:「山形県の在来作物」と題して講演 安徽省農業科学院土壤肥料研究所にて

程 為国

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年8月 中国・安徽省農業科学院を訪問交流
- (2) 平成29年9月 アーストラリア:23rd International Symposium on Environmental Biogeochemistryで発表
- (3) 平成29年11月 中国・福建農林大学を訪問交流

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年01月から、中国科学院大気物理研究所XU Xingkai教授と一緒に「森林生態系における炭素・窒素の動態に及ぼす土壌凍結の影響」共同研究を行なっている
- (2) 2011年09月から中国・華中農業大学と共同研究を行なっている

笹沼恒男

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年8月 中国:野生ムギ類遺伝資源の調査
- (2) 平成29年9月 カナダ:サスカチュワン大学と岩手連大の共催の国際シンポジウムで講演

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ロシア・旧ソ連圏のムギ類を中心とする植物遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究(ロシア・バビロフ研究所T.N.Smekalova博士、O.N. Kovaleva博士との共同研究):2010年6月～現在
- (2) 中国青海省チベット高原のムギ類遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究(中国・中央民族大学 龍春林教授との共同研究):2015年8月～現在

網干貴子

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ストレスにより誘導されるイネの防御代謝物の研究(コーネル大学教授ジェンダー氏との共同研究)

森林科学コース

森 茂太

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) Llida大学 JP Ferrio氏との根の呼吸と樹木個体の吸水に関する研究。

林田光祐

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 日本のイヌワシの保全に関する研究について、Ojoba Collective(オランダ)のJohan Wulfers氏らと鳥海山調査地での情報交換(平成29年11月18日)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 平成30年5月～ ヤマボウシのDNA解析による系統学的共同研究(テネシー大学Trigiano教授らとの共同研究)

芦谷竜矢

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 南洋樹木成分の分析(インドネシア, ガジャマダ大学講師Ganis Lukmandaru氏と共同研究) 継続中
- (2) テルペノイドの分析と生物活性(スウェーデン, 王立工科大学元教授Borg-Karlson氏との共同研究) 継続中

菊池俊一

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年7月～8月 モンゴル:モンゴルステップ地帯の樹木立地環境と水資源利用に関する現地調査

吉村謙一

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年10月 タイ調査

- (2) 平成30年2月 タイ調査

水土環境科学コース

藤井秀人

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年8月 カンボジア: SATREPS「トンレサップ湖における環境保全基盤の構築」国際シンポジウム
(2) 2018年3月 カンボジア: SATREPS「トンレサップ湖における環境保全基盤の構築」プロジェクト会議及び現地調査

渡部 徹

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年8月, 2018年3月 カンボジア: トンレサップ湖における環境保全基盤の構築に関する研究打合せ
(2) 2017年8月, 12月, 2018年3月 タイ: 遺伝子解析にもとづく熱帯アジアの下廃水処理施設における薬剤耐性菌の挙動解明に関する研究打合せ及び現地調査
(3) 2017年9月, 2018年3月 ベトナム: フエ大学とのサマースクール, 現地調査, 研究打合せ
(4) 2017年5月 米国: 19th International Symposium on Health-Related Water Microbiologyで研究発表
(5) 2017年9月 マレーシア: 7th IWA-ASPIRE2017で研究発表

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2008年4月～現在 病原微生物による感染症リスクの定量評価に関する共同研究(米国ドレクセル大学Charles Haas教授との共同研究)
(2) 2009年4月～現在 熱帯地域における水環境汚染に関する研究(タイ王国カセサート大学Wilai Chiemchaisri准教授, Chart Chiemchaisri准教授, カンボジア工科大学In Sokneang講師との共同研究)
(3) 2011年4月～現在 途上国都市における洪水起因の健康リスクに関する研究(ベトナム・フエ大学Pham Khac Lieu講師, インドネシア・パジャジャラン大学との共同研究)

石川雅也

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年12月 台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院(中華民国)・張煜權准教授との研究調査
(2) 2018年2月 ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との研究調査

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2017年7月 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究(台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院(中華民国)・張煜權准教授・ポゴール農科大学(インドネシア)・Budi 副学部長、ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との共同研究)

渡邊 一哉

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 平成29年8月 タイ国バンコク 沿岸資源利用に関する協働調査
(2) 平成30年1月 タイ国スラーターニ県およびバンコクにおける沿岸資源利用に関する協働調査

⑤ 研究員等の受け入れ状況

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

- (1) 関口健、岩手連大研究員、2016年10月～2017年9月

角田 毅

- (1) 山形県最上総合支庁 平田ありさ：専門技術研修による研究員の受け入れ、「露地野菜経営の大規模化における課題と対応策の解明」(平成29年5月1日～平成29年10月31日)
- (2) セネガル・セネガル川デルタ地帯開発機構 DIEDHIOU, Mbaye: JICA 集団研修事業「アフリカ地域稲作振興のための中核的農学研究者の育成」(平成29年7月18日～7月28日)

食品・応用生命科学コース

塩野義人

- (1) カメルーン・ヤウンデ第一大学理学部・助教, アブドウ チョウコウア: 日本学術振興会「論文博士号取得希望者に対する支援事業」カメルーン産薬用植物からの有用物質の探索」平成30年1月11日から3月22日
- (2) サミール アブデラジム モハメッド アデルガレイル、エジプト、アレキサンドリア大学、「植物や微生物からの生理活性物質の単離や化学構造解析の研究」日本学術振興会外国人再招へい研究者。平成29年9月2日から～平成29年10月16日
- (3) アラウィヤ ヌルハビバ、インドネシア共和国・ジェンデラル アチマド ヤニ 大学 (Jenderal Achmad Yani University)・数学・自然科学部、学生、「インドネシアにおける薬用植物 (Kalanchoe millotii) からの生理活性物質の探索研究」平成29年4月3日から～平成29年6月30日
- (4) イエニー フェブリアニ ユン、インドネシア共和国・ジェンデラル アチマド ヤニ 大学 (Jenderal Achmad Yani University)・数学・自然科学部、講師、平成29年4月3日から～平成29年4月10日
- (5) ラニ マハラニ、インドネシア共和国・パジャジャラン大学・数学・自然科学部・講師、「インドネシアにおける薬用植物資源からの生理活性物質の探索研究」平成30年3月1日から～平成30年3月16日

渡辺昌規

- (1) タイ・チェンマイ大学農産学部 P. Seesuriyachan 博士: JSPS 研究拠点形成事業 Core to core (CCP) Program 派遣研究員受け入れ、「亜熱帯性微生物を用いた新規発酵技術の開発とその事業化に関する共同研究」(平成29年10月1日～平成29年10月30日)

植物機能開発学コース

村山秀樹

- (1) Imaddudin Yusuf Hanif: 2017年度大使館推薦による国費外国人留学生(研究留学生)の受け入れ」(平成29年4月3日～平成30年3月31日)
- (2) Debby Ratnasari, Mila Fikri Desintamaya: Student Exchange Support Program でガジャマダ大学より学生2名受け入れ(平成29年9月11日～平成30年8月)

程 為国

- (1) 中国安徽省農業科学院土肥所所長張其安研究員をはじめ、6名研究者を受入、「園芸作物栽培における土肥管理について」(平成29年6月24日～6月28日)
- (2) 中国農業部環境保護科学監測所(天津市)から丁永禎博士と蔡彦明博士を受入、「農村環境整備と土壌管理について」(平成30年1月29日～2月1日)

森林科学コース

森 茂太

- (1) ガジヤマダ大学からの留学生(10か月間)の受け入れ

水土環境科学コース

藤井秀人

- (1) カンボジア工科大学講師 Dr.Heng Sokchhyay: JICA研修生の受け入れ, トンレサップ湖への水理モデルの適用 (H29.7.25-H29.8.10)

渡部 徹

- (1) インドネシア・ガジヤマダ大学学生 Windra Prayoga, Agnes Hoki Briliana Suhono: JASSOによる短期留学生の受け入れ(2016年11月～2017年8月)
- (2) インドネシア・ガジヤマダ大学学生 Shinta Dhewi Afriani, Lumer Satriani Daeli: JASSOによる短期留学生の受け入れ(2017年9月～現在)
- (3) カンボジア工科大学 Soeng Molin博士: JICA研修「水・食品サンプルの重金属分析」(2017年12月4～17日)
- (4) ブラジル・サンパウロ大学 Andre Rodrigues dos Rei教授: 講演「Agronomic biofortification of crops with micronutrients lacking in human and animal health」(2018年2月14日)
- (5) 福島工業高等専門学校 学生1名: インターンシップ(2017年9月4～8日)

⑥その他

安全農産物生産学コース

平 智

- (1) 総合学習「庄内柿」への協力: 鶴岡市立朝暘第三小学校(平成29年5月～12月)
- (2) 農水省「革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)」専門プログラムオフィサー(2016～現在)

角田憲一

- (1) JICA課題別研修「稲作収穫後処理研修」の実施: 平成29年8月21日～9月29日

片平光彦

- (1) JICAアフリカ地域 稲作収穫後処理研修, 2011年08月～継続中
- (2) 福島イノベーションコースト構想推進企業協議会農林水産部会, 2018年02月～継続中

佐藤 智

- (1) YU-COE「山形大学先進的研究拠点」(C)形成支援 平成29年度～30年度、環境変化に対する迅速な生物進化の国際共同研究拠点(分担者)

食農環境マネジメント学コース

小沢 亙

- (1) 副学部長(2016年4月～2018年3月)
- (2) 入学試験実施会議(2016年4月～2018年3月)
- (3) 山形大学高大接続改革検討部会(2017年4月～2018年3月)
- (4) 障がい学生支援センター運営会議(2015年10月～2017年9月)
- (5) 次世代形成・評価開発機構運営会議(2016年4月～2018年3月)
- (6) 次世代形成・評価開発機構FD部門会議(2017年2月～2018年3月)
- (7) 山形大学COC推進委員会(2016年4月～)
- (8) IR会議(2016年5月～2018年3月)

食品・応用生命科学コース

木村直子

- (1) 山形大学内委員等: キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員(兼相談員)、第3年次編入学入試英語査読・校正、推薦入試面接代表、センター試験主任監督、一般入試理科・生物採点担当、大学院入試第1回専門科目問題作成・採点、口頭試問担当、大学院入試第2回口頭試問担当。

- (2) 岩手連合大の委員:代議員、教員資格審査委員会専門委員、入試実施委員、指導学生等:主指導1名(渡辺連)、副指導2名(川越雄太、中村啓哉)、学位審査委員会委員(平成29年度主査:渡辺連、副査:漆畑拓弥)

加来伸夫

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校科学部アドバイザー

渡辺昌規

- (1) (全学委員)
山形大学国際交流コーディネーター(タイ国担当)
- (2) (学部内委員)
入試実施委員会(H28-29)
オープンキャンパス実行委員会(H28-29)
食-農-環境連携を担うグローバル人材育成事業担当委員(H28-)
- (3) (オープンキャンパス)
模擬講義の実施(平成29年7月30日)
- (4) (企業見学会)
三和油脂株式会社(天童市)施設見学・研修会の実施(平成29年10月30日、食応コース3年4名、4年2名)
JA庄内みどり精米センター、阿部ベイコク(酒田市)、鯉川酒造(余目町)施設見学・研修会の実施(平成29年10月26日、食応コース3年4名)
- (5) (技術指導)
三菱ガス化学(受諾研究契約締結)、サタケ(秘密保持契約締結継続中)、三和油脂(実施許諾契約締結継続中)、Universal Materials Incubator(UMI)株式会社、大日本インキ(DIC)、イカリ消毒
- (6) (外部資金)
三菱ガス化学株式会社「高純度米由来タンパク質・リン連続回収プロセスの当社開発品への適用可否検討」(受諾研究、研究開発費117千円(平成28-29年度分))
- (7) (山形県ベンチャー育成事業)
山形県 ものづくりイノベーション塾 受講者 内定(7/11)
ビジネスプラン策定プログラム選抜受講者 内定(10/11)
- (8) (その他)
チェンマイ大学大学院学際領域プログラム専攻博士課程(後期)副指導教員
"Astaxanthin and β -carotene productions from starch by Xanthophyllomyces dendrorhous co-cultured with amylolytic Sporidiobolus pararoseus using cassava starch as the carbon source."
Mr. Kamon Yakul

井上奈穂

- (1) 山形大学 大学案内2018 P.53
- (2) 山形大学 研究紹介動画(<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/education/poster/y2017/agriculture/>)

植物機能開発学コース

網干貴子

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携研究ユニット「すいか瓜臭発生メカニズム機構研究ユニット」
- (2) 平成29年度「地(知)の拠点整備事業」地域志向教育研究「スイカの瓜臭制御技術開発のための瓜臭発生及び抑制機構の解明」

森林科学コース

芦谷竜矢

- (1) 学生優秀発表賞:千木良一道, 鈴木佑梨, 西條裕美, 城内智行, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017):ヒノキ樹皮逐次抽出物の藍藻*Microcystis aeruginosa*に対する増殖抑制効果, 東北森林科学会第22回大会, 2017年8月25日

菊池俊一

- (1) 公開イベント「7年目のCandle Night」(東日本大震災の記憶と教訓の風化防止目的)を開催:7年目のCandle Night実行委員会(委員長:菊池俊一)主催、平成30年3月10～11日、場所:鶴岡アートフォーラム、参加人数:300人

3. 国際交流状況について

(1) 学部間国際交流協定締結大学一覧

国名	機関名	締結年月日
インドネシア	ガジャマダ大学農学部	2002年 3月 11日
インドネシア	ガジャマダ大学林学部	2002年12月 19日
中華人民共和国	浙江省農業科学院	2003年 8月 1日
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2004年 5月 5日
バングラデシュ	シエレ・バングラ農業大学	2005年 8月 31日
ラオス	ラオス国立大学工学部	2006年 3月 9日
スリランカ	ペラデニア大学農学部	2006年 7月 5日
中華人民共和国	中国農業大学食品科学栄養工学部	2006年11月 22日
中華人民共和国	瀋陽農業大学	2006年12月 26日
中華人民共和国	延辺大学農学院	2006年12月 27日
バングラデシュ	ハジエ・モハマト・ダグネ科学技術大学	2007年 3月 7日
タイ	キング・モンクット工科大学トブリ校	2008年 6月 24日
フィリピン	ビサヤ大学	2008年 7月 24日
インドネシア	インドネシア林業省森林研究開発庁森林自然保護研究開発センター	2008年 7月 25日
インドネシア	ムラワルマン大学林学部	2008年11月 25日
インドネシア	ガジャマダ大学農業工学部	2010年 7月 7日
インドネシア	ランブンマンクラート大学林学部	2010年 7月 7日
中華人民共和国	南京農業大学	2011年 3月 24日
インドネシア	パジャジャラン大学	2011年 3月 31日
中華人民共和国	華中農業大学	2011年 9月 16日
ドイツ	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2012年 3月 26日
中華人民共和国	東北林業大学	2012年 7月 27日
インドネシア	ボルネオ大学	2012年10月 12日
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	2013年 2月 4日
タイ	カセサート大学	2014年 4月 9日
インドネシア	ジェンデルアルアチマドヤニ大学数学・自然科学部	2014年 9月 5日
インドネシア	ガジャマダ大学数学・自然科学部	2014年11月 11日
インドネシア	東南アジア熱帯生物学センター	2015年 3月 16日
インドネシア	ボゴール農科大学	2015年 5月 20日

(2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）

国名	機関名	締結年月日
チリ	タルカ大学	2005年 8月26日
ベトナム	ハノイ農業大学	2008年 4月21日
大韓民国	忠北大学校農業生命環境大学	2008年 6月 5日
中華人民共和国	北京林業大学	2009年 2月25日
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	延辺大学	2012年 3月26日
ペルー	ラモリナ国立農業大学	2012年12月 3日
ペルー	カトリカ大学	2012年12月 4日
タイ	チェンマイ大学	2013年 1月30日
インドネシア	ガジャマダ大学	2013年 2月 6日
中華人民共和国	黒竜江八一農墾大学	2014年 3月12日
ドイツ連邦共和国	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2014年 5月 8日
スペイン	リエイダ大学	2015年11月 5日

(3) 外国出張一覧

氏 名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
村山 秀樹	ドイツ	H29. 4. 14～H29. 4. 20	調査・打合せ
俵谷 圭太郎	インドネシア	H29. 5. 6～H29. 5. 19	技術開発
村山 秀樹	インドネシア	H29. 5. 10～H29. 5. 15	大学間学術交流
渡部 徹	アメリカ	H29. 5. 15～H29. 5. 19	学会出席
PHAM VIET DUNG	ベトナム	H29. 5. 18～H29. 5. 23	大学案内・研究説明
角田 毅	インドネシア	H29. 5. 28～H29. 6. 3	研究打ち合わせ・現地調査
西澤 隆	トルコ・スロベニア	H29. 6. 14～H29. 6. 28	学会出席・発表
江成 広斗	オーストラリア	H29. 7. 8～H29. 7. 17	国学会出席
俵谷 圭太郎	インドネシア	H29. 7. 15～H29. 7. 19	学会出席・発表
俵谷 圭太郎	チェコ	H29. 7. 29～H29. 8. 5	学会出席・発表
菊池 俊一	モンゴル	H29. 7. 30～H29. 8. 9	現地調査
村上 秀樹	スペイン	H29. 7. 31～H29. 8. 9	共同研究
笹沼 恒男	中国	H29. 8. 4～H29. 8. 10	学術調査
渡邊 一哉	タイ	H29. 8. 9～H29. 8. 16	現地調査
江頭 宏昌	中国	H29. 8. 11～H29. 8. 15	学術交流
程 為国	中国	H29. 8. 11～H29. 8. 17	学術交流

藤井 秀人	カンボジア	H29. 8. 18～H29. 8. 27	シンポジウム・現地調査
PHAM VIET DUNG	ベトナム・タイ	H29. 8. 19～H29. 8. 30	研究打ち合わせ・現地調査
俵谷 圭太郎	デンマーク	H29. 8. 20～H29. 8. 26	会議出席・発表
塩野 義人	インドネシア	H29. 8. 20～H29. 9. 1	研究打ち合わせ・サンプル採取
渡部 徹	カンボジア・タイ	H29. 8. 23～H29. 8. 30	シンポジウム・研究・調査
西山 正晃	カンボジア	H29. 8. 23～H29. 8. 31	シンポジウム・調査
角田 毅	ベトナム	H29. 9. 3～H29. 9. 8	現地調査
塩野 義人	カナダ	H29. 9. 8～H29. 9. 13	シンポジウム
笹沼 恒男	カナダ	H29. 9. 8～H29. 9. 13	シンポジウム
渡部 徹	マレーシア	H29. 9. 10～H29. 9. 14	会議出席
ロペス・ラリー	ドイツ	H29. 9. 11～H29. 9. 24	学生交流・打ち合わせ
林田 光祐	ドイツ	H29. 9. 14～H29. 9. 18	締結交渉
俵谷 圭太郎	インドネシア	H29. 9. 17～H29. 9. 24	技術開発
塩野 義人	インドネシア	H29. 9. 23～H29. 10. 1	会議出席
渡部 徹	ベトナム	H29. 9. 23～H29. 9. 29	学生交流・研究打ち合わせ
PHAM VIET DUNG	ベトナム	H29. 9. 23～H29. 10. 8	セミナー・学生交流
程 為国	オーストラリア	H29. 9. 24～H29. 10. 1	会議出席
松本 大生	イタリア	H29. 10. 4～H30. 1. 27	研究プログラム参加
俵谷 圭太郎	インドネシア	H29. 10. 6～H29. 10. 10	技術開発
中坪 あゆみ	ニュージーランド	H29. 10. 13～H29. 10. 19	学会出席
片平 光彦	スペイン・ドイツ・オーストリア	H29. 10. 16～H29. 10. 28	学会出席・発表・情報収集
佐々木 由佳	パラオ	H29. 10. 31～H29. 11. 8	現地土壌評価
村山 秀樹	インドネシア	H29. 11. 12～H29. 11. 16	大学間交流
俵谷 圭太郎	インドネシア	H29. 11. 12～H29. 11. 22	技術開発
佐藤 智	インドネシア	H29. 11. 12～H29. 11. 26	調査
塩野 義人	カメルーン	H29. 11. 24～H29. 12. 4	研究指導
PHAM VIET DUNG	ベトナム	H29. 11. 25～H29. 12. 2	研究打ち合わせ
程 為国	中国	H29. 11. 29～H29. 12. 2	学術交流
吉村 謙一	タイ	H29. 12. 1～H29. 12. 8	現地調査
渡部 徹	タイ	H29. 12. 7～H29. 12. 11	研究打ち合わせ・調査
俵谷 圭太郎	タイ	H29. 12. 11～H29. 12. 16	会議出席・発表
西澤 隆	タイ	H30. 1. 4～H30. 1. 10	研究打ち合わせ・視察
渡邊 一哉	タイ	H30. 1. 27～H30. 2. 5	現地調査
西山 正晃	ベトナム	H30. 1. 28～H30. 2. 3	研究打ち合わせ・現地調査
PHAM VIET DUN	ベトナム	H30. 1. 28～H30. 2. 3	研究打ち合わせ・現地調査
俵谷 圭太郎	インドネシア	H30. 2. 22～H30. 2. 25	研究指導

渡部 徹	カンボジア	H30. 3. 4～H30. 3. 5	会議出席
西山 正晃	カンボジア	H30. 3. 4～H30. 3. 10	会議出席・現地調査
俵谷 圭太郎	インドネシア	H30. 3. 5～H30. 3. 15	技術開発
渡部 徹	タイ	H30. 3. 10～H30. 3. 13	調査・研究打ち合わせ
PHAM VIET DUNG	タイ	H30. 3. 10～H30. 3. 15	調査・研究打ち合わせ
佐々木 由佳	ケニア	H30. 3. 13～H30. 3. 19	研究打ち合わせ
角田 毅	ベトナム	H30. 3. 18～H30. 3. 23	現地調査
渡部 徹	ベトナム	H30. 3. 18～H30. 3. 23	研究打ち合わせ・現地調査
PHAM VIET DUNG	ベトナム	H30. 3. 18～H30. 4. 3	研究打ち合わせ・現地調査
西山 正晃	ベトナム	H30. 3. 19～H30. 3. 26	研究打ち合わせ・現地調査
塩野 義人	インドネシア	H30. 3. 20～H30. 3. 31	ウィンタースクール
佐藤 智	インドネシア	H30. 3. 20～H30. 3. 31	ウィンタースクール
ロペス・ラリー	イタリア	H30. 3. 24～H30. 3. 31	大学紹介

(4) その他の国際交流の実施

○留学生の受入

西澤隆教授、森茂太教授、俵谷圭太郎教授、村山秀樹教授、程為国教授、堀口健一教授、角田毅教授、塩野義人教授、芦谷竜矢教授、渡部徹教授、柳原敦准教授、角田憲一准教授、家串哲生准教授、佐藤智准教授、藤科智海准教授、佐々木由佳准教授

○研究者の受入

- ・カンボジア王国・カンボジア工科大学・工学部

研究者の受入

藤井秀人教授 (H29. 7. 25～H29. 8. 10)

- ・中国・安徽省農業科学院・土壤肥料研究所

程為国准教授 (H29. 6. 24～H29. 6. 28)

(H29. 10. 21～H29. 10. 30)

- ・セネガル・セネガル川デルタ地帯開発機構・地方自治開発・支援部

研究者の受入

角田毅教授 (H29. 7. 18～H29. 7. 28)

- ・カンボジア王国・カンボジア工科大学・工学部

研究者の受入

渡部徹教授 (H29. 12. 4～H29. 12. 16)

・カメルーン ヤウンデ第一大学理学部
研究者の受入
塩野義人教授 (H30. 1. 11～H30. 3. 22)

・インドネシア共和国・バジャジャラン大学・数学・自然化学部
研究者の受入
塩野義人教授 (H30. 3. 1～H30. 3. 16)

・タイ国・稲作農業省・稲作研究開発部
研究者の受入
角田憲一准教授 (H30. 3. 5～H30. 3. 7)

4. 社会活動・地域貢献

(1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧

番号	類別	件名	研究者
1	相談	「現代農業」に掲載の『多数除草』の論文(粕淵先生)について	企画広報室
2	相談	サツマイモの表面の異常について	小林 隆
3	相談	鶏卵の判別について	木村 直子
4	相談	ペレットストーブについて	林 雅秀
5	相談	エダマメ葉の斑点について	池田 和生
6	その他	寒河江高校大学訪問	小沢副学部長 藤井弘志
7	その他	福島市松川地区自治振興協議会大学訪問	藤井 弘志
8	その他	東北高校創進コース大学訪問	小沢副学部長 井上 奈穂
9	その他	熱中小学校講師派遣	江頭 宏昌 片平 光彦
10	その他	村山産業高校研究指導	俵谷 圭太郎
11	その他	鶴岡中央高校課題研究アンケート調査	企画広報室
12	その他	羽黒高校講演依頼	藤井 弘志
13	その他	鶴岡市立朝暘第三小学校総合的学習	平 智
14	その他	酒田市立東部中学校大学訪問	江頭 宏昌

(2) 平成29年度 社会・地域等の要請により派遣した職員一覧

所属	教員名	依頼先	職 名
安全農 産物生 産学 コース	西澤 隆	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探索活動)」での講師
		山形県	山形県農林水産技術会議委員
	藤井 弘志	鶴岡市	庄内水田農業推進機構委員
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター	「革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)」に係る専門PO
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター	「革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)」に係る専門PO
		山形農林水産部	エコエリアやまがた推進協議会委員
	平 智	鶴岡市	鶴岡総合研究所所長
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター	「革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)」に係る専門PO
		庄内総合支庁	平成29年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業審査委員
		鶴岡市	庄内自然博物館構想推進協議会 運営委員
	堀口 健一	山形県商工労働部	アドバイザー・ボードメンバー
	角田 憲一	鶴岡市	庄内水田農業推進機構委員
	片平 光彦	福島県農業総合センター	アドバイザー
公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会		コーディネーター	
松山 裕城	一般社団法人日本草地畜産種子協会	平成29年度飼料稲給与畜産物認証基準作成事業に係る専門委員	
佐々木 由佳	鶴岡市	庄内水田農業推進機構委員	
食農環 境マネジ メント学 コース	岩鼻 通明	山形県立米沢女子短期大学	非常勤講師
		大江町教育委員会	大江町文化的景観保存整備検討委員会委員
	小沢 互	庄内広域行政組合	公設庄内青果物地方卸売市場取引委員会委員
		東根市	果樹王国ひがしね6次産業化推進協議会委員
		鶴岡市	庄内水田農業推進機構委員
		公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会	コーディネーター
		一般社団法人日本草地畜産種子協会	平成29年度飼料稲給与畜産物認証基準作成事業に係る推進委員
		山形県農業会議	平成29年度専門家アドバイザー派遣事業に係る専門家
		東北農政局	東北農政局事前評価技術検討会委員
		東北農政局	国営最上川下流左岸土地改良事業計画(農業用排水)に係る専門技術者
		山形県農林水産部	山形県農業・農村政策審議会委員
		出羽商工会	経営発達支援計画・事業評価委員会委員
		山形県農林水産部	山形県農業農村整備長期計画検討委員会委員
		山形県立農林大学校	機能強化検討会委員
		公益財団法人 やまがた農業支援センター	山形県農地中間管理事業評価委員会委員
	角田 毅	山形県農業協同組合中央会	「JA営農指導実践 山形県大会」審査委員
		山形県農林水産部	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師
	藤科 智海	山形市	山形市農業戦略本部プロジェクトチーム
		山形県農林水産部	平成29年度やまがた6次産業ビジネス・スクール講師
		山形県立農林大学校	講師
	渡辺 理絵	山形県	山形県環境審議会委員
		山形県立山形北高等学校	学校評議員兼学校関係者評価者委員
		松江市歴史まちづくり部	松江市史専門部会専門委員 松江市史編集委員会委員
米沢市教育委員会		米沢市文化財保護審議会委員	
山形県		山形県都市計画審議会委員	
山形県		山形県総合政策審議会特別委員	

所属	教員名	依頼先	職名
食品・応用生命科学コース	小関 卓也	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探索活動)」での講師
		農林水産省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業評価分科会評価委員
		山形県村山総合支庁	平成29年度農林水産創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト成果評価審査会審査委員
	木村 直子	山形県	山形県農林水産技術会議委員
	加来 伸夫	鶴岡市立荘内看護専門学校	非常勤講師
		鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探索活動)」での講師
井上 奈穂	鶴岡工業高等専門学校	非常勤講師	
	文部科学省 科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク・専門調査員	
植物機能開発学コース	俵谷 圭太郎	鶴岡市	鶴岡市環境審議委員
	村山 秀樹	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探索活動)」での講師
		鶴岡北高等学校	平成29年度学校評議員兼学校関係者評価委員
		山形県農林水産部	山形県「ラ・フランス」振興協議会アドバイザー
	江頭 宏昌	放送大学	非常勤講師(面接授業担当)
		山形県	山形えだまめ日本一産地化推進協議会委員
		鶴岡市	焼畑温海かぶブランド力向上対策協議会 オブザーバー
		山形県おきたま伝統野菜振興協議会	山形おきたま伝統野菜振興協議会アドバイザー
		山形県	山形県農林水産技術会議委員
		八峯企画	舞台「しあわせのタネ」鶴岡公演実行委員長
	笹沼 恒男	山形県農林水産部	「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」PR大使
		鶴岡工業高等専門学校	非常勤講師
		山形県農業総合研究センター 庄内バイオ研修センター	山形県農業総合研究センター園芸試験場 遺伝子組換え実験安全委員会 庄内バイオ研修センター 育種専門指導員
	及川 彰	国立研究開発法人理化学研究所 環境資源科学研究センター (技術基盤部門 質量分析・顕微鏡解析ユニット)	客員研究員
国立研究開発法人理化学研究所 環境資源科学研究センター (統合メタボロミクス研究グループ)		客員研究員	
慶応義塾大学		非常勤講師	
高校生バイオサミット実行委員会 (慶應義塾大学先端生命科学研究所)		第7回高校生バイオサミットin鶴岡 表彰審査員	
山形県		やまがたフードセンシング活用アドバイザー	
文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター		専門調査員	
星野 友紀	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探索活動)」での講師	
網干 貴子	山形県商工労働部	山形県科学技術会議委員	
森林科学コース	高橋 孝悦	山形県農林水産部	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者
		山形市	山形市森林整備推進協議会委員
	森 茂太	山形県環境エネルギー部	山形県環境影響評価審査会委員
		鶴岡市	鶴岡市林業振興協議会委員
	林田 光祐	鶴岡市	庄内水田農業推進機構 会長
		公益財団法人 庄内地域産業振興センター	評議員
	芦谷 竜矢	山形県	山形県立鶴岡南高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員
		東北森林管理局	東北森林管理局技術開発委員会委員
		東北森林管理局	森林・林業技術交流発表会審査委員
	ロペス ラリー	山形県商工労働部	アドバイザー・ボードメンバー
		新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター	佐渡ステーション共同利用運営委員会委員
		北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション	共同利用協議会委員
	柳原 敦	山形県最上総合支庁	最上小国川流域環境保全協議会委員
山形大学生協同組合		副理事長	

所属	教員名	依頼先	職名	
森林科学コース	菊池 俊一	環境つるおか推進協議会	環境つるおか推進協議会監事	
		特定非営利活動法人公益のふるさと創り鶴岡	理事	
		国土交通省 東北地方整備局月山ダム管理所	月山ダム水源地域ビジョン推進会委員長	
	江成 広斗	宮城県環境生活部	宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会ニホンザル部会委員	
		一般財団法人自然環境研究センター	平成29年度特定鳥獣に係る保護管理検討調査業務における委員	
		株式会社ブレック研究所	「自然環境保全基礎調査における中大型哺乳類分布調査に係る調査計画の立案に向けた検討会」委員	
		山形県環境エネルギー部	山形県特定鳥獣保護管理検討委員会委員	
	林 雅秀	山形県商工労働部	アドバイザー・ボードメンバー	
		東北森林管理局	検討会委員	
	斎藤 昌幸	放送大学	非常勤講師(面接授業)	
水土環境科学コース	藤井 秀人	一般財団法人日本水土総合研究所	平成29年度海外農業農村開発促進調査等補助金検討委員会委員	
		一般財団法人日本水土総合研究所	平成29年度流通加工連携農業農村開発調査業務(アフリカ)国内検討委員会委員	
		一般財団法人日本水土総合研究所	平成29年度流通加工連携農業農村開発調査業務(アジア)国内検討委員会委員	
		一般財団法人 日本水土総合研究所	平成29年度海外技術協力促進検討事業(農地整備海外展開促進調査)業務検討委員会委員	
	奥山 武彦	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北 (財)日本水土総合研究所	平成29年度東北支社地すべり等のり面対策技術検討会委員 客員研究員	
		一般財団法人日本水土総合研究所	平成29年度庄内あさひ地区地すべり対策技術検討会委員長	
		農林水産省農村振興局	官民連携新技術研究開発事業審査委員会委員	
		農林水産省農村振興局	平成29年度地すべり調査意見聴取会委員	
	安中 武幸	山形県農林水産部	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者	
	渡部 徹	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探索活動)」での講師	
		寒河江市	寒河江市水道事業経営問題審議会委員	
		株式会社 日水コン	水浴場水質判定基準検討会委員	
	梶原 晶彦	鶴岡市立荘内看護専門学校	非常勤講師	
	花山 奨	東北農政局	国営最上川下流左岸土地改良事業計画(農業用排水)に係る専門技術者	
	渡邊 一哉	国土交通省東北地方整備局山形河川 国道事務所	山形ブロック総合評価委員会委員	
		鶴岡市	鶴岡市赤川かわまちづくり協議会委員	
	プロジェクト 教員	栞原 良樹	明治大学農学部	非常勤講師
	職員	菅原 一彰	山形大学生協同組合	理事

(3)平成29年度 他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧

氏名	依頼元	職名
岩鼻 通明	山形県立米沢女子短期大学	非常勤講師
加来 伸夫	鶴岡市立荘内看護専門学校	非常勤講師
	鶴岡工業高等専門学校	非常勤講師
江頭 宏昌	放送大学	非常勤講師(面接授業)
笹沼 恒男	鶴岡工業高等専門学校	非常勤講師
及川 彰	慶応義塾大学	非常勤講師
斎藤 昌幸	放送大学	非常勤講師(面接授業)
梶原 晶彦	鶴岡市立荘内看護専門学校	非常勤講師
栞原 良樹	明治大学農学部	非常勤講師

(4) 外部資金等の受け入れ状況

平成29年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	氏名	直接経費	間接経費	合計額	課題名
新学術領域研究	豊増 知伸	2,900,000	870,000	3,770,000	イネにおけるジテルペン環化酵素触媒能の進化プロセス
基盤研究(B)海外	渡部 徹	4,000,000	1,200,000	5,200,000	遺伝子解析にもとづく熱帯アジアの下廃水処理施設における薬剤耐性菌の挙動解明
基盤研究(B)海外	俵谷 圭太郎	2,500,000	750,000	3,250,000	インドネシアの熱帯雨林からのエンドファイトの分離と鉱山跡地の修復への利用
基盤研究(B)一般	我妻 忠雄	3,900,000	1,170,000	5,070,000	膜脂質層の分子的改変による、イオンストレスマルチ耐性植物の創生
基盤研究(B)一般	村山 秀樹	2,700,000	810,000	3,510,000	ナシ属果実成熟期に起こるデンプンの蓄積から代謝へのダイナミックな相転換の意義
基盤研究(B)一般	林 雅秀	2,600,000	780,000	3,380,000	社会変動に伴うコモন্ズのルール変化についての大規模比較研究：紛争過程に着目して
基盤研究(B)特設分野	渡部 徹	4,400,000	1,320,000	5,720,000	持続可能な養殖漁業を支える森から海への有機物と微量必須金属の輸送メカニズム
基盤研究(C)	安田 弘法	800,000	240,000	1,040,000	温暖化が自然共存型水田淡水生物の相互作用とその多様性及びイネの生育に及ぼす影響
基盤研究(C)	小沢 互	1,100,000	330,000	1,430,000	消費者の能動的行動が生産者に与える影響
基盤研究(C)	森 静香	800,000	240,000	1,040,000	環境保全・維持と調和したケイ酸資源「ヨシ」の水稻栽培への利用システムの確立
基盤研究(C)	西澤 隆	1,300,000	390,000	1,690,000	トマトの生理障害「つやなし果」の発生機構の解明と選果方法の開発に関する研究
基盤研究(C)	平 智	400,000	120,000	520,000	アケビの後発型自家不和性機構の解明と果実生産に及ぼす影響
基盤研究(C)	長谷 修	600,000	180,000	780,000	病害誘導抵抗性を活性化する根圏生息性卵菌の評価と生物防除への応用
基盤研究(C)	俵谷 圭太郎	1,200,000	360,000	1,560,000	アーバスキュラー菌根菌による有機態リン酸の獲得機構の解明
基盤研究(C)	豊増 知伸	1,200,000	360,000	1,560,000	イネのモミラクソン排出輸送体の探索と排出活性機構に関する研究
基盤研究(C)	芦谷 竜矢	1,000,000	300,000	1,300,000	樹木成分の自動酸化を利用した生理活性物質の合成
基盤研究(C)	花山 奨	500,000	150,000	650,000	動物プランクトンおよび水生生物を利用した水田からのリン回収
基盤研究(C)	渡辺 昌規	700,000	210,000	910,000	非加熱・無殺菌米副産物を単一原料とした環境調和型光活性乳酸生産法の開発
基盤研究(C)	塩野 義人	900,000	270,000	1,170,000	樹木内生菌類を利用したナラ枯れ防止のための基盤研究
基盤研究(C)	加来 伸夫	1,000,000	300,000	1,300,000	微生物燃料電池を利用した水田からの電気回収と水田からのメタン放出の抑制
基盤研究(C)	佐藤 智	700,000	210,000	910,000	マルタニシを活用した環境保全型水稻栽培技術の開発
基盤研究(C)	井上 奈穂	800,000	240,000	1,040,000	自発運動と食品因子によるメタボリックシンドローム改善の相加・相乗効果に関する研究
基盤研究(C)	渡邊 一哉	1,700,000	510,000	2,210,000	復元生態史に基づく持続性生態資源利用プログラムの解明
基盤研究(C)	角田 毅	1,100,000	330,000	1,430,000	日本農業法人の戦略的海外展開における新たな人材育成モデルの構築
基盤研究(C)	星野 友紀	1,500,000	450,000	1,950,000	稲発芽耐性遺伝子の単離と機能解明によるイネの環境適応力強化
基盤研究(C)	服部 聡	1,700,000	510,000	2,210,000	庄内沿岸極浅堆積物において棲み分けを行う嫌氣的メタン酸化古細菌に関する研究
挑戦的萌芽研究	森 茂太	1,000,000	300,000	1,300,000	根を含む樹木の光合成・呼吸の正確な多個体実測によるシステム的生理学分野の開拓
挑戦的萌芽研究	池田 和生	700,000	210,000	910,000	果皮培養によるセイヨウナシ周縁キメラ特異的果実形質の分離とその育種的利用法の確立
挑戦的萌芽研究	石川 雅也	800,000	240,000	1,040,000	人類の繁栄に資する温室効果ガス除去と地力増進の特性強化持続メカニズムの実学的解明
挑戦的萌芽研究	木村 直子	2,800,000	840,000	3,640,000	哺乳類雌の生殖寿命の上方制御法の開発～オートファジーオートファジー誘導による原子卵胞数の制御
若手(A)	江成 広斗	1,400,000	420,000	1,820,000	多雪地における大型哺乳類の分布回復が生態系に及ぼす影響の評価とリスク低減策の提示
若手(A)	松本 大生	2,700,000	810,000	3,510,000	サクラ属自家不和合性に特異な「自己認識」システムの分子機構解明
若手(B)	渡辺 理絵	700,000	210,000	910,000	近世日本の産物データを用いた動植物の分布域に関する地理情報の基礎的研究
若手(B)	斎藤 昌幸	1,600,000	480,000	2,080,000	高度に都市化した景観における中型食肉目の生息地ネットワーク構造
研究活動スタート支援	西山 正晃	1,100,000	330,000	1,430,000	近世日本の産物データを用いた動植物の分布域に関する地理情報の基礎的研究
合計		54,800,000	16,440,000	71,240,000	

分担金一覧(平成29年度)

研究種目	氏名	分担金の配分額	直接経費	間接経費	研究課題名
基盤研究(B)海外	渡部 徹	260,000	200,000	60,000	タートルアン湿原の自然浄化作用がラオス首都圏の環境衛生に果たす役割
基盤研究(B)	及川 彰	650,000	500,000	150,000	イネにおけるセロトニン蓄積の制御機構の解明:アブラムシによる抵抗性の制御と利用
新学術領域研究	及川 彰	650,000	500,000	150,000	植物個体発生を支える代謝ネットワークの解明
基盤研究(C)	角田 毅	260,000	200,000	60,000	集落営農活動を通じたコミュニティ再建の構造と展開
基盤研究(C)	角田 毅	130,000	100,000	30,000	東北水田作地帯における農村集落盛衰メカニズムの解明
基盤研究(A)	井上 奈穂	650,000	500,000	150,000	食品メイラード反応産物の抗肥満・抗炎症など新規生理機能の解明
基盤研究(C)	林 雅秀	130,000	100,000	30,000	林業営業の信託化を実現させる諸条件の解明:日本の特殊性と一般性
基盤研究(B)	俵谷 圭太郎	676,000	520,000	156,000	根分泌科学の新展開:農業生産への活用と生態学的機能
基盤研究(A)	渡部 徹	1,040,000	800,000	240,000	多剤耐性遺伝子の環境中残存機構と人への暴露リスク評価
挑戦的萌芽研究	及川 彰	260,000	200,000	60,000	種子と果肉の情報伝達機構の解明と高品質果実生産技術の開発
基盤研究(C)	角田 毅	130,000	100,000	30,000	「米生産調整廃止」後の兼業・稲単作地帯における水田利用高度化の条件に関する研究
基盤研究(C)	林 雅秀	208,000	160,000	48,000	2015年センサス・マイクロデータを用いた構造分析による林業成長産業化の検討
基盤研究(B)	村山 秀樹	130,000	100,000	30,000	ナン自殖F2集団を利用した果実有用形質に関するMASの開発と新規機能性品種の開発
基盤研究(S)	及川 彰	3,900,000	3,000,000	900,000	摂食シグナル胆汁酸の分子栄養学的機能解析と食品成分による摂食応答制御
基盤研究(B)	程 為国	325,000	250,000	75,000	有機無農薬水稻栽培年数の経過に伴って土壌・水稻・雑草・動物はどう変化するか?
基盤研究(B)	林 雅秀	195,000	150,000	45,000	林業遺産の保存と持続的な活用による林業教育・地域づくりの可能性
基盤研究(C)	角田 毅	130,000	100,000	30,000	農業法人における人的資源管理モデルの構築
基盤研究(B)	及川 彰	234,000	180,000	54,000	植物根への有害重金属元素の侵入をくい止める～植生回復を目指した研究基盤の確立
基盤研究(B)	俵谷 圭太郎	234,000	180,000	54,000	植物根への有害重金属元素の侵入をくい止める～植生回復を目指した研究基盤の確立
基盤研究(A)	吉村 謙一	520,000	400,000	120,000	タイ低地熱帯季節林の森林タイプの成立要因と降水量シフトによる森林機能への影響評価
基盤研究(A)	渡部 徹	4,680,000	3,600,000	1,080,000	東南アジアにおける環境と健康のデータベース構築
基盤研究(A)	角田 毅	520,000	400,000	120,000	農村社会から分離した農業経営の発展可能性ーその地域典型的解明ー
基盤研究(B)	ロペス・ラリー	845,000	650,000	195,000	樹木年輪の幅・酸素・炭素および窒素安定同位体比を用いた生態系総合環境変動解析
基盤研究(A)	俵谷 圭太郎	1,300,000	1,000,000	300,000	土壌中の有機物に含まれる放射性セシウムの挙動に及ぼす生物的要因の解明
基盤研究(C)	家串 哲生	130,000	100,000	30,000	青果物の計量販売への転換による物流改革と効果に関する実証的研究
基盤研究(B)	吉村 謙一	780,000	600,000	180,000	熱帯乾燥季節林の水分ストレスと火災が炭素循環に与える影響
合計		18,967,000	14,590,000	4,377,000	

平成29年度 奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況

	件 数	金 額
奨学寄附金	47	82,791,196 円
受託研究	26	58,349,635 円
共同研究	17	13,401,160 円

(5) 公開講座等大学開放実施状況

1 市民交流農園

- 4月13日(木) 開園式
- 7月31日(月) 夏の交流会
- 10月31日(火) 秋の交流会

2 公開講座

「環境保全型農業の新時代」～少ない資源で栽培する次世代農業～

・第1回目

- 5月27日(土) 開講式(ガイダンス)
「無肥料・無農薬で米は多収できるか-10年間の取り組み」

・第2回目

- 6月3日(土) 「水資源枯渇と稲作～稲の節水栽培～」

・第3回目

- 6月10日(土) 「生態系サービスと農業」

・第4回

- 6月17日(土) 「土壌と稲の生育から見た環境保全型農業の特性」

・第5回目

- 6月24日(土) 「持続的な農業のための病害防除研究」
修了式(修了証書授与)

3 農学部オープンキャンパス

- 7月30日(日) 会場: 山形大学農学部

4 女性研究者裾野拡大セミナー2017 in 農学部 会場: 山形大学農学部

- 7月30日(日) 「農学部ってどんなところ? 女性研究者ってどんなひと?」

5 夏期セミナー

- 7月31日(月) 会場: 山形大学農学部

○食料系コース

「経済学的視点から農業の維持・発展について考えてみよう」

○生命系コース

「身の回りの食品に含まれるビタミンCを測定してみよう」

○環境系コース

「水が結ぶ生活環境と農・畜・水産業」

6 ひらめき☆ときめきサイエンス

「生物の多様性を考える」

- 9月16日(土) 会場: 山形大学農学部

○生物の多様性を考える—土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用—(講義)

○土壌微生物を観察する—菌根菌の役割(実験)

- 植物を分析するーポリフェノールの役割（実験）
- 昆虫を観察するー植食者と捕食者との関係（実験）

7 山形大学農場フェスティバル

10月7日（土）

会場：山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場

8 農学紹介講座「農学の夕べ」 会場：山形大学農学部

・第1回 10月5日（木）

「私たちの生活と農業・水産業のかかわり～私たちはただの消費者じゃない？」

・第2回 10月12日（木）

「体に良い油、悪い油」

・第3回 10月19日（木）

「山岳信仰と出羽三山修験者の歴史①」

・第4回 10月26日（木）

「里山の隣人、タヌキとノウサギの生態」

・第5回 11月2日（木）

「イチゴ ～その歴史と今～」

・第6回 11月9日（木）

「山岳信仰と出羽三山修験者の歴史②」

・第7回 11月16日（木）

「米由来副産物、廃棄物の再資源化に関する最近の動向」

・第8回 11月30日（木）

「芽生えから朽ち果てるまで～炭素の流れから樹木の一生を考える～」

9 日本酒シンポジウム 「Oh!酒落に日本酒 de Night 5時限目」

12月15日（金）会場：山形大学農学部

10 山形大学農学部・県立農業大学校・県内農業高校連携シンポジウム

第8回「農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム～私たちの挑戦～」

11月17日（金）会場：東京第一ホテル鶴岡

11 山形大学農学部・慶應義塾大学先端生命科学研究所・東北公益文科大学・鶴岡工業高等専門学校との連携事業

第7回「知の拠点庄内」シンポジウム

「わくわく庄内暮らし 食べる・学ぶ・住もう」

12月10日（日）会場：鶴岡市先端研究産業支援センター レクチャーホール

- 12 研究シーズ説明会・ビジネスマッチ
1月30日（火）会場：山形大学農学部
- 13 山形大学農学部・鶴岡市連携事業「庄内水田フォーラム2018」
2月21日（水）会場：グランドエル・サン
○卒業論文修士論文発表会
○基調講演「環境保全型農業の推進から見た堆肥等の有機物の現状と今後の課題について」
○パネルディスカッション「環境保全型農業の戦略」
- 14 7年目のキャンドルナイト
〈Candle Night from 庄内ーつながる灯火 on3.11-〉
3月11日（日）会場：鶴岡アートフォーラム
- 15 山形大学・東北森林管理局連携シンポジウム
2月2日（金）会場：山形大学農学部
「人が動く、森が動く。～市民参加による森づくり～」
- 16 附属やまがたフィールド科学センター実施
(1) 鶴岡市との共催事業 農業体験「わんぱく農業クラブ」の実施
5月13日（土）～11月11日（土）
(2) 演習林開放行事「森の学校」の実施
7月22日（土）・10月21日（土）・2月3日（土）

エコ農業部門

1. エコ農業部門の組織機構整備を行う。
 - ・教育研究、技術、業務の3部門体制による組織機構の整備を行うように努力した。
 - ・学生等外部委託における農場運営の整備強化を図った。
2. 生産現場における教育研究活動を強化する。
 - ・フィールドサイエンス実験実習Ⅰ、Ⅱ及び野外科学、安全農産物生産学実験を安全農産物生産学コース教員と共同で行った。
 - ・技術検討会議、農場開放への取り組みについてはほぼ計画とおり実施した。
3. 山形在来作物系統保存センターを充実させる。
 - ・展示圃場及び展示室を充実させた。
4. 農場予算について
 - ・技術職員の研修費等について、必要な経費は支出するようにした。
法人化後の労基法に定める免許・資格及び作業従事に係る研修等が増加していることに鑑み、学部共通及び農場運営経費より支出し、技能・技術の充実を図った。また、各業務上有益と判断される研修等についても予算化し、同様の充実を図った。
他機関（大学他）に派遣し、情報や技術交換、施設・装置の共同利用による商品開発等は非常に有益であり、今後も継続して予算措置を図りたい。
5. 農場生産物販売のあり方を検討する。
 - ・各生産物の販売目標と課題については、概ね明確にして販売を行った。
配置人員や生産計画について大きな変更は不可能なため、前年の収穫量・販売額を目標値として設定していたが、前年度と比較し減収となった。農場の畑の整備で啓翁桜の生育場所を一か所にまとめて行ったが、十分に収穫することができず、販売数が減少したことが要因と推測される。
 - ・6月下旬～12月上旬の毎週木曜日に「農場市」を開場し、好評を得ることができた。
 - ・地域イベントに積極的に参加し、農産物の販売及びPRを行った。
6. 生産基盤の点検・強化
 - ・環境保全型汎用水田を整備するため、暗渠の稼働状況確認や農薬の管理を徹底し、省力栽培による良質米の生産に努めた。
 - ・黒毛和種の繁殖成績及び繁殖技術の向上を目指し、分娩前後の健康管理や発情の早期回帰、さらには疾病や事故等の予防と早期発見に努めた。
7. その他
 - ・国際協力機構（JICA）の短期研修(平成29年8月15日～9月29日)の研修プログラムの一部として、研修生20名が、農場での研修を行った。

I. 教 育

1. 実習教育等

(1) カリキュラム

農場で担当した授業科目は、以下のとおりである。

表 1-1 農場関係授業カリキュラム

	授 業 科 目	必修・選択	単位数	開講学年・学期
専門基礎科目	基礎農学セミナー	必修	1	1年・前期
	安全農産物生産学概論	必修	2	1年・後期
基盤教育科目	やまがたフィールド科学	選択	2	全学年・前期
	やまがたフィールド科学Ⅱ	選択	2	全学年・前期
学科共通科目	食料生命環境学実験実習	必修	2	2～4年・前期
	環境保全型エコ農業論	必修・選択	2	2～4年・後期
コース必修科目	安全農畜産物生産論	必修・選択	2	2～4年・前期
	畜産学	必修・選択	2	2～4年・前期
	野外科学	必修	1	2～4年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-A	必修	2	2～4年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-B	必修	2	2～4年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅱ	必修	2	3～4年・前期
	安全農産物生産学研究調査演習	必修	2	3年・前期
	安全農産物生産学研究準備演習	必修	2	3年・後期
	安全農産物生産学コース実験実習	必修	2	3～4年・前期
	コース選択科目	果樹園芸学	選択	2
安全農産物生産学特講Ⅰ		選択	2	3～4年・後期

(2) 基礎農学セミナー

履修者:162名

農学部1年次学生が鶴岡キャンパス、農場、演習林での体験を通して各コースの概要を理解すると共に鶴岡キャンパスでの生活をイメージできるようにすることを目的に1泊2日の日程で実施された。

(3) 安全農産物生産学概論

履修者:162名

食料生命環境学科・専門基礎科目として、安全・安心な農畜産物の生産について総合的な視点から考えさせることを目的に行った。

(4) やまがたフィールド科学

履修者:やまがたフィールド科学Ⅰ14名、やまがたフィールド科学Ⅱ26名

全学部、全学年を対象にした基盤教育科目の講義として実施した。山形県金峰少年自

然の家に宿泊し、農場で水稻の生育過程の学習、水稻収量調査、稲刈り体験、水田昆虫の観察、庄内柿の樹上脱渋、鶏の解体等を行った。

(5) 食料生命環境学実験実習

履修者:156名

農学が対応しなければならない幅広い内容を総合的に理解する目的で、食料系・生命系・環境系に分かれて実施した。農場では食料系の実習（田植え、果樹管理、牧草収穫、植物病害調査、鶏解体等）を実施した。

(6) 環境保全型エコ農業論

履修者:63名

循環型農業の1事例として堆肥の生産・利用技術を軸にして、飼料作物の栽培と給与、園芸作物への堆肥利用法、水稻への施用技術および食品残さの飼料化等について、講義を行った。

(7) 安全農畜産物生産論

履修者:71名

安全な農畜産物を生産する視点から、植物病理学、作物学、畜産学関連の知識習得を目指した安全な農畜産物を生産するのに必要な考え方と最新情報の理解を深める講義を行った。

(8) 畜産学

履修者:82名

家畜の生産から畜産物の利用までの基礎理論を習得することを目的として、畜産学の基礎知識、家畜家禽の定義、分類、起源、家畜の育種、繁殖、飼養管理、草地、衛生、利用等を総合的に学習し、今日の畜産業が直面する飼料問題、畜産物の安全性などの課題が理解できるよう講義を行った。

(9) 野外科学

履修者:39名

安全農産物生産学コースのフィールドサイエンス実験実習ⅠA、ⅠBと関連付けて、野外調査及び農作業の基本的な知識を概説した。

(10) フィールドサイエンス実験実習ⅠA、ⅠB

履修者:39名

各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から、安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的、多面的な考え方や技術を習得することを目的とし実施した。

(11) フィールドサイエンス実験実習Ⅱ

履修者:40名

卒業論文研究に準ずる小テーマのもとで、各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から、安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的、多面的な考え方や技術を習得することを目的とし実施した。

(12) 果樹園芸学

履修者:14名

良品果実の安定生産に必要な基礎知識とそれを実践する技術、さらには最新の知見も盛り込み、研究の現状が理解できるよう実施した。

2. 山形在来作物系統保存センターの充実

エダマメ 18 系統、サトイモ 9 系統、キュウリ 3 系統、インゲン 2 系統、雑穀 11 系統、ナス 3 系統、ベニバナ、タデアイ、カボチャ、マクワウリ及びツケナをそれぞれ 1 系統ずつ展示栽培した。ナスについては、青枯病を避け採種を確実にするために接木を行った。

3. 農場開放

(1) 収穫体験「大学農場に行こう」

鶴岡市およびその近郊の保育園、幼稚園を対象に春のお花見から、リンゴ、クリの収穫体験、動物見学、農場内の散策等に農場施設を開放した。案内・説明等は学生アルバイトを併用して行った。

実施時期：平成29年9月11日～10月27日

(2) 農業体験「わんぱく農業クラブ」

庄内農業水田推進機構の事業の一つとして、学部教員、農場教職員、鶴岡市の三者共催で平成11年度から実施してきたものである。農場の水田を利用して田植えから稲刈り、わら細工の加工まで総合的な学習を行った。

実施時期：平成29年5月13日～11月11日

参加対象：小学3～6年生の親子25組

実施内容：

5月	田植え、枝豆を植える、バケツ稲を育てる
6月	稲の生育調査、農業用水の学習、カブトムシの幼虫とり
7月	稲の生育調査、田んぼの生きもの探し、土の学習、泥遊び
8月	稲の花の観察、枝豆の収穫
9月	稲刈り、バケツ稲コンテスト
10月	脱穀から精米、新米の試食
11月	わら細工づくり、もちつき、収穫感謝祭

(3) 「山形大学農場フェスティバル」

昨年度に引き続き、農場産米のPRを目的として、新米を食しながら若手音楽グループの野外演奏や各種催しを楽しむイベントを開催した。開催にあたり近隣市町村からも、米の提供や出店があり、地域との連携も深めることができた。当日は悪天候にもかかわらず、約1,100名の来場者があった。

実施日：平成29年10月7日（土）

Ⅱ. 研究

1. 研究課題

農場及び学部教職員の農場を利用した研究課題は、表Ⅱ－1のとおりである。

農場教職員が科学研究費等を申請した課題は、表Ⅱ－2のとおりである。

表Ⅱ-1 農場及び学部教職員の研究課題

No	担当者	研究課題	利用施設等	利用期間
(水田関係)				
1	加来 伸夫	水田微生物燃料電池における発電ならびに電流発生微生物に関する研究	水田20a	29.4～30.3
2	角田 憲一	水稲栽培における窒素施肥管理に関する研究	水田180a	29.4～30.3
3	片平 光彦	水稲直播栽培に関する研究	水田30a	29.4～30.3
4	片平 光彦	水田転換ほ場での露地野菜栽培に関する研究	水田6a	29.3～30.3
5	小林 隆	イネ紋枯病の被害が収量および品質に及ぼす影響	水田10a	29.5～29.9
6	小林 隆	ドローンによる薬剤散布試験	水田60a	29.7～29.8
7	佐々木由佳	水稲栽培における鶏糞焼却灰の利用に関する研究	水田30a	29.4～30.3
8	佐々木由佳	画像解析による植物の生育状況の評価に関する研究	水田30a	29.4～30.3
9	佐藤 智	持続的新水田農法の開発	水田30a	29.4～30.3
10	佐藤 智	マルタニシが水田生態系に及ぼす影響の解析	水田12a	29.4～30.3
11	藤井 弘志	「水稲」育苗試験、ケイ酸資材試験、デジタルカメラ用	水田60a	29.4～29.10
12	星野 友紀	つや姫突然変異集団の構築と食味品質の向上	水田10a	29.5～29.10
13	星野 友紀	イネ穂発芽耐性遺伝子のマップベースクローニング	水田10a	29.5～29.10
14	星野 友紀	世界のイネコアコレクションを用いた呼吸能力の測定	水田10a	29.5～29.10
15	渡部 徹	鉄との反応性に着目した農地土壌有機物のキャラクタリゼーション	水田、畑地、 牧草地	29.7～29.11
(畜産関係)				
16	堀口 健一	堆きゅう肥を施用した飼料作物の栽培およびサイレージ品質に関する研究	牛舎	29.4～29.10

17	松山 裕城	ウシにおける飼料用米等の地域飼料資源を活用した飼養技術の開発	牛舎	29.4～30.3
18	松山 裕城	ブタにおける飼料用米等の地域飼料資源を活用した飼養技術の開発	豚舎	29.4～30.3
19	松山 裕城	飼料特性を評価するために用いるルーメンフィステル装着牛の更新	牛舎	29.4～30.3
(蔬菜関係)				
20	江頭 宏昌	エダマメ品種データベースの開発と山形県内外の在来カブの特性解析	畑5a ガラス室	29.5～29.12
21	片平 光彦	エダマメ圧縮播種に関する研究	畑10a	29.3～30.3
22	笹沼 恒男	ムギ類、ベニバナ、トウガラシの多様性解析及びその育種学的応用研究	畑8a	29.4～30.3
23	笹沼 恒男	ムギ類、ベニバナ、トウガラシの多様性解析及びその育種学的応用研究	ハウス2a	29.7～29.9
24	星野 友紀	山形日本一エダマメ産地化を目指したエダマメ新品種の開発	畑6a	29.5～29.11
25	星野 友紀	ダダチャマメの良食味を制御する遺伝子座の単離	畑6a	29.5～29.11
26	中坪あゆみ	庄内地域における食料自給圏形成に向けた畑輪作体系の構築と実証展示圃の運営	畑40a	29.4～30.3
(果樹関係)				
27	池田 和生	庄内柿への石灰肥料効果に関する研究	果樹園10a	29.3～30.2
28	池田 和生	ヤマブドウ在来系統群の特性解明	畑1a	29.3～30.3
29	池田 和生	バラ科果樹の果皮における着色遺伝子の同定とその遺伝様式	果樹園20a	29.4～30.3
30	池田 和生	バラ科果樹に特異な休眠覚醒機構ならびに低温要求性制御経路の解明	果樹園20a	29.4～30.3
31	平 智	渋ガキ果実の貼り付け式脱渋法に関する研究	果実100果	29.10～29.11
32	平 智	りんご果実の発芽と品質に及ぼすかくの役割に関する研究	樹体と果実	29.10～29.11

表Ⅱ-2 科学研究費

No.	区分	担当者	研究課題
1	挑戦的萌芽	池田 和生	果皮培養によるセイヨウナシ周縁キメラ特異的果実形質の分離とその育種的利用法の確立
2	基盤(B) (分担)	池田 和生	ゲノミクス・トランスクリプトミクスのアプローチによる異形花型不和合性の機構解明

- 3 基盤（C） 池田 和生 アケビの後発型自家不和合性機構の解明と果実生産に
（分担） 及ぼす影響

表Ⅱ－3 その他経費
受託研究

No.	担当者	研究課題
1	池田和生	鶴岡市農業振興協議会 竹粉の効果検証
2	佐々木由佳	珪酸石灰肥料協会 水稻のケイ酸吸収に対するケイカル [®] の施用効果試験
3	佐々木由佳	エルサンワイナリー松ヶ岡株式会社 葡萄苗土壌の調査分析

共同研究

No.	担当者	研究課題
1	浦川修司	トヨタ自動車株式会社 寒冷地水田における飼料用イネの新系統の適応性の評価と 飼料特性の解明
2	佐々木由佳	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 先進光学衛星等の衛星データ利用による水稻監視手法の検 討および現地データの収集

JST-JICA 地球規模課題対応国際科学協力プログラム（分担）

No.	担当者	研究課題
1	佐々木 由佳	テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェ クト

地（知）の拠点整備事業

No.	担当者	研究課題
1	佐々木 由佳	飼料と稲を用いた畜産を核とする農業生産サイクルの構築 良質な飼料用米及び稲わら生産のための肥培管理方法の確立

2. 研究業績（2017年4月～2018年3月）

学報等

1. 笹沼恒男 2017：ベニバナの食品添加色素収量の増加及び安定化に向けた遺伝育種学的研究，日本食品化学研究振興財団第23回（平成28年度）研究成果報告書，86-94
2. 上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、畑昌和、飯島信繁、星野友紀 2017：エダマメ品種ダダチャマメの良食味を司る遺伝子座の探索、大豆たん白質研究 19:30-34
3. 星野友紀 2017：メタボローム解析を用いたエダマメの香りを制御する分子メカニズムの

- 解明、(公財) 飯島藤十郎記念食品科学振興財団 平成 28 年度年報 32:109-114
4. 星野友紀 2017: 非遺伝子組換え法を用いたダイズ開花期の改良によるエダマメ生産力強化、(公財) タカノ農芸化学研究助成財団 平成 28 年度助成研究報告書 91-97
 5. 星野友紀 2017: 非遺伝子組換えによる山形ブランド米「つや姫」の良食味強化、(公財) 戸部眞紀財団 平成 28 年度研究成果報告書 60-64
 6. 星野友紀 2017: 日本人の食嗜好に最適化した水稻品種「つや姫」の良食味ファインチューニング、(公財) 浦上財団研究報告書 20:84-89

口頭発表

1. Kei Oyoshi, Yuka Sasaki, Jun Sato, Shinichi Sobue, Yutaka Kaneko, Genya Saito (2017) Rice crop monitoring in Tsuruoka, Japan by using multiple satellite data. GEOS Asia-Pacific Symposium
2. 佐藤貴広・角田憲一・佐々木由佳 (2017) 水田における耕起時期が稲わらの浮遊および分解に与える影響. 日本土壌肥料学会講演要旨集 63, 99
3. 福室絢大・松山裕城・堀口健一・中込弘二・松下景・浦川修司、2018 年、山形県庄内地域における極短穂 WCS用イネ品種・系統の適応性の評価、2018 年度日本草地学会熊本大会講演要旨集、7 ページ
4. 小野恵美・松山裕城・浦川修司・堀口健一、2018 年、規格外バレイショサイレージの給与が肥育豚の発育と肉質に及ぼす影響、日本畜産学会第 124 回大会講演要旨集、174 ページ
5. Masuda, K., H. Yamanel, K. Ikeda, T. Tetsumura, M. Gao-Takai, and R. Tao. (2017) Effects of chilling accumulation on DORMANCY-ASSOCIATED MADS-box gene expressions in sweet cherry 'Satonishiki'. 8th International Cherry Symposium
6. Tsuneo Sasanuma: Genetic characterization and evaluation of bread making quality related-traits in wheat genetics resources including its ancestral wild species 2017 年 9 月 10 日 2nd International Symposium on Innovations in Plant and Food Sciences (Saskatoon, Canada.)
7. 笹沼恒男、澤田小春、田中裕之、佐藤和広、高田兼則、朱明婧、龍春林: 中国青海省で収集したパンコムギ遺伝資源の基本農業形質及び製パン性関連形質に関する多様性評価 2018 年 3 月 25 日 日本育種学会第 133 回講演会 (九州大学)
8. 川上珠恵、後藤元、阿部洋平、本間猛俊、中場勝、星野友紀 2017: 極良食味水稻品種「つや姫」を遺伝背景にもつ突然変異集団の構築と澱粉代謝突然変異体の単離、日本育種学会第 132 回講演会
9. 栗野莉奈、飯島信繁、上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、星野友紀 2017: 鶴岡産エダマメ系統「ダダチャマメ」の良食味を支配する遺伝子座解析に向けた試み、第 7 回植物生理化学会シンポジウム
10. 飯島信繁、杉本和彦、星野友紀 2017: イネ穂発芽耐性遺伝子座 qSdr6 のファインマッピング、第 7 回植物生理化学会シンポジウム
11. 飯島信繁、栗野莉奈、上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、星野友紀 2017: 良食味エダマメ系統「ダダチャマメ」の高シヨ糖蓄積能に関する遺伝子座解析に向けた試み、東北植物学会第 7 回大会

ポスター発表

1. Christian Nkurunziza・Ken-ichi Kakuda・Yuka Sasaki・Kanao Okada (2017) Effect of N application and type of N-fertilizer on N-use efficiency in wetland rice. 日本土壌肥料学会講演要旨集 63, 100
2. S. Sato, Y. Saito, K. Shirasawa and K. Ikeda. (2017) Development of DNA markers for breeding yellow cherries. 8th International Cherry Symposium
3. 阿部美里・八代真緒・佐々木泰子・池田和生 (2017) 組織培養による赤着色系セ

- イヨウナシの果皮からのカルス形成. 園学要旨. 平 29 東北支部 :33-34
4. 佐藤紗野・森本陸・安孫子裕樹・池田和生 (2017) PCR およびシーケンス法によるナシ代替輸入花粉の S ハプロタイプの判別. 園学要旨. 平 29 東北支部 :35-36
 5. 芦川基・加来伸夫・上木勝司・上木厚子・渡部徹・Pham Duy Dong・渡邊一哉 2017 :微生物燃料電池が水田からのメタン放出に与える影響, 環境微生物系学会合同大会 2017 (仙台)
 6. 笹沼恒男、齋藤美帆、田中裕之、佐藤和広、朱明婧、龍春林：中国青海省チベット高原で採集した野生コムギ連遺伝資源の遺伝学的特徴付け 2017 年 10 月 8 日 日本育種学会第 132 回講演会 (岩手大学)
 7. 鶴巻啓一、笹沼恒男：未知遺伝子座の変異による辛味の欠失が示唆された甘味トウガラシ系統の遺伝学的解析 II 2017 年 10 月 8 日 日本育種学会第 132 回講演会 (岩手大学)
 8. 鶴巻啓一、笹沼恒男：未知遺伝子座の変異による辛味の欠失が示唆された甘味トウガラシ系統の遺伝学的解析 3 2017 年 11 月 25 日 第 12 回東北育種研究集会 (秋田市)
 9. 澤田小春、平山可奈、西田英隆、Z. Asanidze, T. Bragvadze, I. Gabrielyan, G. Melyan, A. Avagyan, A. Sahakyan, T.N. Smekalova, O.N. Kovaleva, 田中裕之、佐藤和広、朱明婧、龍春林、笹沼恒男：コーカサス地方及び中国青海省コムギ遺伝資源の基本農業形質に関する多様性評価 2017 年 11 月 25 日 第 12 回東北育種研究集会 (秋田市)
 10. 鶴巻啓一、笹沼恒男：甘味トウガラシ系統の遺伝学的解析から示唆されたアミノトランスフェラーゼ遺伝子の発現量と辛味の有無の関係について 2018 年 3 月 25 日 日本育種学会第 133 回講演会 (九州大学)
 11. 飯島信繁、栗野莉奈、上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、星野友紀 2017 : 良食味エダマメ系統「ダダチャマメ」の高ショ糖蓄積能に関する遺伝子座解析に向けた試み、日本育種学会第 132 回講演会
 12. 高橋弘紀、畑昌和、飯島信繁、川上珠恵、太田千恵、五十嵐徹、星野友紀 2017 : エダマメ品種「秘伝」突然変異集団の作出と開花期突然変異体の単離、日本育種学会第 132 回講演会
 13. 川上珠恵、後藤元、阿部洋平、本間猛俊、中場勝、星野友紀 2017 : 2 種類の変異原を利用した水稻品種「つや姫」突然変異集団の作出と低アミロース突然変異体の単離、第 12 回東北育種研究集会
 14. 栗野莉奈、飯島信繁、上村千穂、滝口可菜、川上珠恵、星野友紀 2017 : 鶴岡産エダマメ系統「ダダチャマメ」の良食味を支配する遺伝子座解析に向けた試み、第 12 回東北育種研究集会
 15. 高橋弘紀、畑昌和、飯島信繁、川上珠恵、太田千恵、五十嵐徹、星野友紀 2017 : 良食味エダマメの生産力強化に向けた突然変異による「秘伝」開花期の改良、東北植物学会第 7 回大会

雑誌への発表

1. Weiguo Cheng, Samuel Munyaka Kimani, Takamori Kanno, Shuirong Tang, Aung Zaw Oo, Keitaro Tawaraya, Shigeto Sudo, Yuka Sasaki, Norio Yoshida (2018) Forage rice varieties Fukuhibiki and Tachisuzuka emit larger CH₄ than edible rice Haenuki. *Soil Science and Plant Nutrition* 64(1), 77-83
2. Mizuno Y, Yamanouchi U, Hoshino T, Nonoue Y, Nagata K, Fukuoka S, Ando T, Yano M, Sugimoto K 2018 : Genetic dissection of pre-harvest sprouting resistance in an upland rice cultivar. *Breed. Sci.* in press.

流域保全部門

流域保全部門は、「森林計画」を基本に、教育研究、社会連携、森林管理等を実施している。

平成29年度の報告は、第8次森林計画（平成26年～35年）に基づき立案された「平成28年度森林計画」の実行に関する概況である。

I. 教育・研究林としての利活用

1. 教育

演習林に関連する授業科目を表1に示す。

表1 演習林に関連する授業科目

科目名	対象学科コース等	学年	開講期	単位数
<学士課程>				
基礎農学セミナー	食料生命環境学科	1	前期	1
食料生命環境学実験実習	全コース	2	前期	4
やまがたフィールド科学Ⅲ	全学部学科	1	後期	2
森林学への招待	全学部学科	1～4	前期	2
流域保全論	森林・水土コース	2	前期	2
森林科学総合実験実習	森林科学コース	2	前期	2
森林科学応用演習-I	森林科学コース	3	後期	2
森林科学応用演習-II	森林科学コース	4	前期	2
流域保全実習	森林・水土コース	2	前期	2
生物多様性保全学実験実習	森林科学コース	2	前期	1
雪山実習	全コース	2	後期	1
自然環境調査実験実習	森林科学コース	3	前期	2
森林資源利用学実験実習	森林科学コース	3	後期	2
公開森林実習	協定他大学農学部	全学年	後期	※
<大学院修士課程>				
森林雪氷学特論	生物環境科学専攻	1	前期	2
森林雪氷学特別演習	生物環境科学専攻	1	前期・後期	1・1

※各大学規程による。

このうち、流域保全部門が主体となって実施した学部科目の授業概要を以下に記す。

(1) やまがたフィールド科学Ⅲ（雪との共生－雪国の自然と生活－）

基盤教育科目の基幹科目「山形から考える」領域として、全学部学生を対象に開講しており、演習林における教科の全学開放の1つとしても位置づけられている科目である。今年度は、1月中旬に3泊4日の日程で上名川演習林の宿泊施設を利用し実施した。

(2) 流域保全論

森林科学コース必修科目、水土環境科学コースの選択科目として開講されている。持続可能な森林管理と流域の保全に向けて、森と川と海は縫い目のないひとつながりの生態系であるという観点から、私

たちの暮らしを守り、快適に、豊かにしてくれる森林のはたらきについて広い視野でとらえ、森林の恵みを将来にわたって上手に利用していくためには何が必要か、自然と人間の共生、森林との上手な付き合い方、流域保全のありかたについて学習することがねらいである。授業は講義と上名川演習林におけるエクスカージョンとにより、グローバルな環境問題と深い関わりをもっている森林資源の実状について、わが国内外の様子を紹介したあと、森林の環境形成作用、森林と環境との相互作用、森林の有する多岐にわたる公益的機能のしくみ等について明らかにし、環境保全的な森林の取り扱い方に関する理論と実践について学習した。

(3) 流域保全実習

森林科学コース、水土環境科学コースの選択科目として開講している。今年度は2泊3日の日程で上名川演習林の宿泊施設を利用し実施した。授業のねらいは、森林の多面的な働きの理解と森林流域の保全のために、森林・土壌調査、樹木生態、育林、森林整備に関する実習を通じて、森林の多面的な働きについて理解を深め、森林の循環利用、森林流域の保全に関する技術を習得することである。

(4) 雪山実習（公開森林実習）

学科共通科目として開講している。授業のねらいは、積雪環境と森林・樹木の生理・生態的応答関係を理解すること。また、雪国の森林・樹木に多大な影響を及ぼす積雪環境について理解を深め、雪と森林の相互作用について学ぶことである。また、公開森林実習を同時開催している。

2. 卒業論文・修士論文・博士論文の指導

流域保全部門の研究室に所属している学生を受け入れ、指導教職員と共同で論文指導等を行った。

3. 研究

上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマを表2に示す。

表2 上名川演習林及び生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマ

No.	研究代表者	共同研究者	研究テーマ	場所
1	栗山 はづき		スギ人工林内の照度とワラビの分布の関係	演習林
2	平山 修二		緑化ネットにササ稈マルチを併用した地表被覆工法の表土環境調節効果	演習林
3	大滝 翔太		山形大学上名川演習林における冬期間の気温特性に関する研究	演習林
4	永嶋 史桜里		安定同位体比を用いたカラマツ内部における窒素循環の評価	演習林
5	高橋 礼奈		上名川演習林産ヒノキ心材へキサソ抽出物の病害部・健全部における成分変異	演習林
6	千木良 一道		ヒノキ樹皮およびその逐次抽出物の藍藻 <i>Microcystis aeruginosa</i> に対する増殖抑制効果	演習林
7	平塚 悠騎		オオバクロモジの低極性成分の部位ごとの変化と季節変動	演習林
8	大木 崇空		温度ロガーを用いた大徳沢流域における積雪・融雪特性	演習林
9	遠田 絢子		Leaf nitrogen resorption and leaf $\delta^{15}\text{N}$ of four tree species in cold temperate forests of Japan	演習林
10	小菌井 貴裕		Evaluation of snowmelt water used by Japanese cedar at the start of the growing season in Shonai	演習林

		region	
11	江成 広斗 齊藤 麻璃惟	上名川演習林における中・大型哺乳類の種子散布～ 散布地点の環境と種間比較～	演習林
12	斎藤 昌幸	庄内地方におけるマダニ相調査	演習林
13	斎藤 昌幸 江成 広斗	焼畑に訪れる哺乳類調査	演習林
14	俵谷 圭太郎 佐藤 匠	菌根菌利活用のための診断技術の開発	生物多様性 保全研究園
15	森 茂太 吉村 謙一	植物の個体呼吸に関する研究（モウソウチク、オニ グルミ、ブナ）	生物多様性 保全研究園

II. 生涯学習林としての利活用および地域との連携

1. 演習林施設開放事業

上名川演習林の施設開放事業の一環として、鶴岡市内の小学生を対象に、「森の学校」を7月22日（土）、10月21日（土）、2月3日（土）の3回実施し、森林散策、葉っぱのお面作り、川遊び、落ち葉プール作り、焼き芋、赤カブ収穫、雪の特徴と雪で遊び等を行った。

2. 地域との交流（国内と国際）

地元の上名川・下名川自治会が主催して、毎年5月6日に開催される入山式に参加するとともに、同日に入山式懇談会を開催し、鶴岡市、庄内総合支庁及び出羽庄内森林保護組合等の地元関係者並びに学長をはじめとする多数の学内関係者が参集し、地元と大学関係者との交流を深めた。

III. 教育研究支援および森林管理

1. 実習支援

演習林で実施される実習計画に基づき、事前に実習用具の準備・点検整備、刈払い、および試料提供等を行った。実習時には指導教員の指示に従い実習指導支援を行った。

2. 研究支援

学生・教員等からの研究支援の要請に応えるよう、森林管理作業と調整を図りながら研究支援を行った。大気成分調査への協力（山形県環境科学研究センター）、卒論・修論研究に関する調査の支援を行った。

3. 調査

平成29年度伐採地である6林班ヲ施業班枝番2の毎木調査を行った。

4. 収穫事業

1) スギ直営生産

スギ素材生産を6林班ヲ施業班枝番2にて実施し、販売した。計画量100m³に対し、98m³の販売実績であった。採材に当たっては販売委託先である木材流通センターと連絡を取り、需要の多い寸法となるよう努めた。

2) キノコ生産

シイタケ・ナメコ・ヒラタケの生産を行った。販売実績はそれぞれ0.8kg、8.5kg、2.4kgであった。

3)カブ生産

6林班ヲ施業班枝番2において焼払い地拵えを行い、その後赤カブを栽培した。6林班は平坦地であり、散布した材が燃え残り、まとまった量が収穫出来なかったため、生長した赤カブは森の学校での収穫体験学習や、つるおか森の時間での収穫体験に供した。

4) 製炭

製炭実績、販売実績はない。

5) 端材

根元曲がり材、湾曲材、雑木等販売不適材について、市内バイオマス発電所へ販売した。A材:294.21 t (1591.24 円/t)、B材:89.79 t (1154.98 円/t) の販売実績であった。

5. 育林作業

1)地拵え

6林班ヲ施業班枝番2(0.19ha)に対し焼払い地ごしらえを行った。

2)新植・補植

本年度実施せず。

3)下刈り

新植～3年目の植栽地に対し2回/年、4～6年目の植栽地に対して1回/年行った。

樹種	林班	面積 (ha)	植栽年
スギ	4林班ソ小班(枝3)	0.2	2014

6. 土木作業

1)林道

芦沢・大徳沢林道に関して、重機の進入可能な範囲において土砂撤去、排水路の確保を行い、路面掘削、崩落等の災害発生の抑止に努めた。

2)歩道

要請がなかったため実施しなかった。

3)その他

降雨後の林道の巡視、積雪時の橋幅員の確認用支柱の設置、橋の雪下ろし、冬期通勤路における路面補修、雪崩後の復旧作業等を行った。

7. 管理作業

1)車両

車両の点検・整備は事故防止につながることから、使用前に点検・整備を行った。

2)建物

管理棟・格納庫・仮設物および分室等の維持管理のための雪下ろしおよび補強、雪下ろし後の除雪および除雪機具の手入れ等を行った。

3)整理

実習前・後に特に管理棟内外の整理・清掃を行った。

4)その他

入山式関連の諸準備、案内板・表示板を設置および撤去、入林者の送迎を行った。
送電線への支障木の除去を行い、断線・漏電防止に努めた。

8. 製炭作業

実績なし。

9. 苗畑作業

1) 樹木管理

見本林、樹木園の草刈り、道路・隣地との境界の支障木除去・枝払いを行った。

2) その他

学生や教員の要請に応じて耕耘作業、整地等を行った。

老朽化著しい倉庫の一部解体を行った。

10. 会議等

演習林会議、実習打合せ、健康診断、各種行事・委員会、センター試験補助、業務説明会等への出校。

11. 演習林開放事業

演習林施設開放事業として、鶴岡市内の小学生を対象とした『森の学校』を夏季（7月）、秋季（10月）、冬季（2月）に開催した。

12. 調書作成等

作業計画・実績、作業・運転日誌等の整理、報告、演習林等利用申請書の作成を行った。

社会教育部門

【国際貢献部門】

○H29 年度 JICA 短期研修生の受け入れ

- ・内容：アフリカ稲作収穫後処理コース/英語圏
- ・期間：平成 29 年 8 月 15 日(火)～9 月 29 日(金)
- ・地域（国家）別研修生 計 20 名

Cameroon (6), Democratic Republic Congo (2), Ethiopia (1), Ghana (1),
Liberia (2), Nigeria(2), Sierra Leone (4), Tanzania (1), Uganda (1)

・受け入れコーディネーター

角田憲一・片平光彦・佐々木由佳・角田毅

○教育強化

- ・関連授業の実施（国際フィールド協力論、国際理解）
- ・国際農業経済論（2011 年度後期～）

6. 農学部図書館の概要等

昭和24年 5月	山形大学附属図書館農学部分館	発足
昭和47年12月	〃	竣工
平成3年 4月	受入業務を最後に全面的に電算化へ移行	
平成8年 4月	平日の時間外開館20時までとなる	
平成10年10月	土・日の時間外開館開始（13時～17時）	
平成15年 3月	山形大学附属図書館農学部分館	改修・増築
	面積 969 m ²	収容可能冊数 58,000冊 座席数 120席
平成17年11月	土・日の時間外開館拡大（10時～17時）及び祝・休日の開館開始（10時～17時）	
平成20年 1月	平日の開館時間延長（8時45分～21時15分）	
平成21年 4月	平日の開館時間短縮（8時45分～21時）	
平成21年10月	「山形大学農学部図書館」に名称を変更	

開館時間

曜日	通常期	休業期(※)	※夏季休業	8.4～9.30
月～金	8時45分～21時	8時45分～17時	冬季休業	12.25～1.10
土・日・祝・休日	10時～17時	閉館	春季休業	2.20～

蔵書数 (30.3.31 現在)

和書	84,012	洋書	17,298	計	101,310
----	--------	----	--------	---	---------

入館者数 (カッコ内は1日平均)

年度	平日	土・日・祝・休日	計
27	42,762 (179)	5,546 (69)	48,308 (151)
28	35,047 (146)	4,223 (54)	39,270 (123)
29	30,999 (129)	3,134 (40)	34,133 (107)

文献複写件数

年度	学内からの受付	学外からの受付	学内への依頼	学外への依頼
27	27	109	40	111
28	9	92	38	97
29	5	121	33	105

7. 大型設備の設置状況

年度	一般設備費	特別設備費	特別教育研究経費	施設整備補助金	設備補助金	備考
昭和62年度		作物群落生理測定装置				
平成2年度	エネルギー分散形X線分析装置					電子顕微鏡
3年度	物性精密計試験装置					人工気象装置
6年度	ガスクロマトグラフ質量装置					
7年度		高性能質量分析装置				
		栽培環境条件設定装置				ファイトロン
8年度	フリーラジカルモニタ					
9年度	3次元データビジュアル化解析システム	遺伝情報解析装置				
11年度		農業用ロボット実験システム				
15年度		環境負荷軽減物質成分分析システム				
21年度			地域在来作物の高度化利用研究 (質量分析装置)	微量成分解析装置	N・C安定同位体比測定用質量 分析システム	
22年度			地域在来作物の高度化利用研究 (共焦点レーザー顕微鏡)			
23年度					積雪寒冷地農林業気象観測システム 植物・土壌成分分析システム	
24年度			新・里山生態系管理システムの構築 (ガスクロマトグラフ質量分析装置) (高所作業台車)		卓上走査型電子顕微鏡 開放型光合成蒸散測定システム	
26年度				高分解能核磁気共鳴装置		NMR

8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地，土地・建物の概要

山形大学農学部

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
 TEL 0235-28-2805
 FAX 0235-28-2812
 ホームページアドレス <http://tds1.tr.yamagata-u.ac.jp/>

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場

〒997-0369 鶴岡市高坂字古町5-3
 TEL 0235-24-2278
 FAX 0235-24-2270

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林

〒997-0405 鶴岡市上名川字早田川10
 TEL 0235-53-2755
 FAX 0235-53-2755

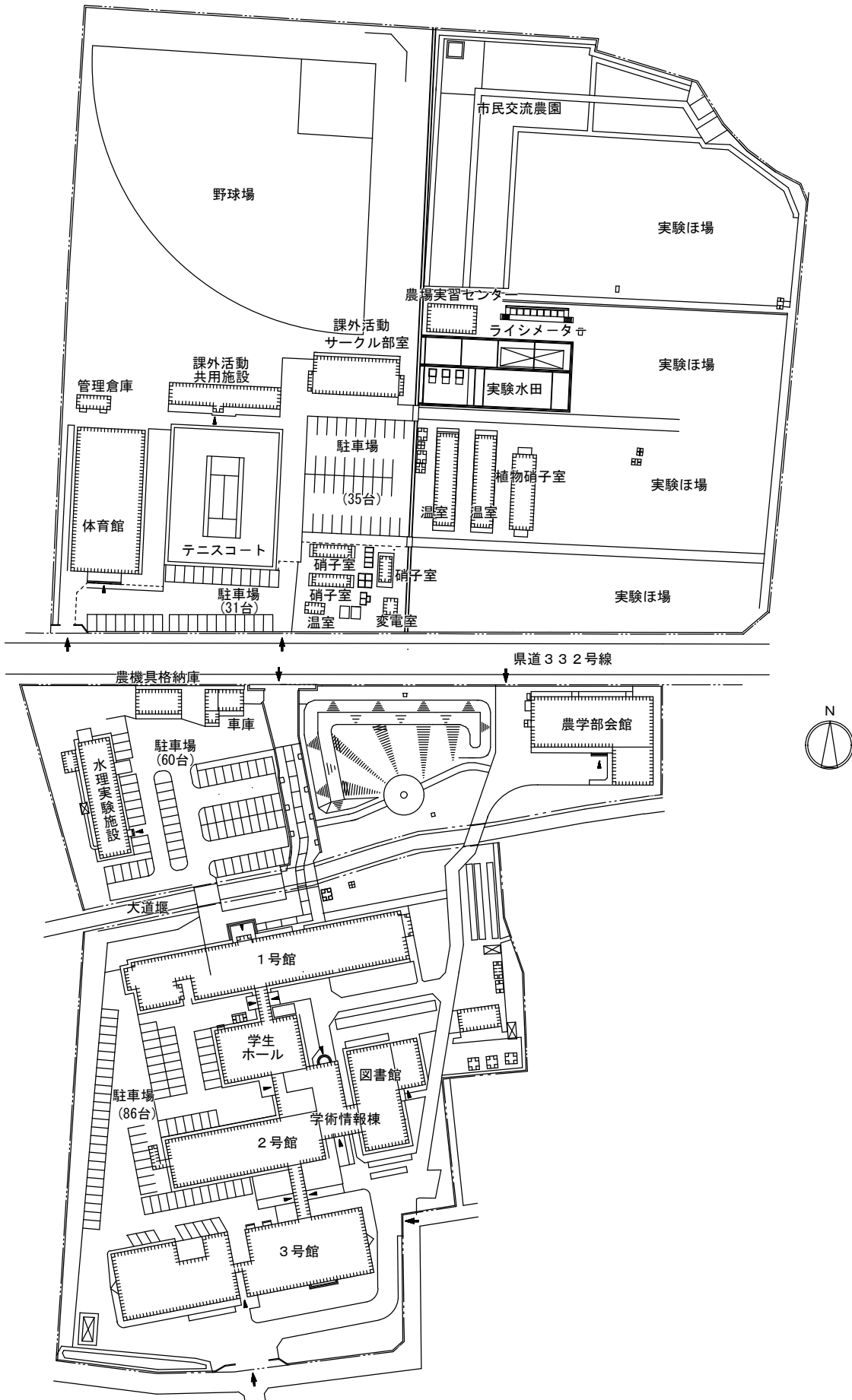
土地

区分	面積 (㎡)
農学部	62,506
農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場	240,655
農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林	7,530,908
農学部附属やまがたフィールド科学センター生物多様性保全研究園	7,871
学生寮 (啓明寮)	6,756
職員宿舍	4,319
計	7,853,015

建物

区分	構造	築年度	面積 (㎡)
水理実験施設	S1	平成17	321
3号館	SR6	平成15	3,266
3号館	SR6	平成12	3,103
2号館	R5	昭和47	3,429
学生ホール棟	R1	昭和46	429
1号館	R5	昭和44	5,742
図書館	R2	昭和47	820
学術情報棟	S2	平成14	384
学術情報基盤センター	R1	昭和61	112
農学部会館	R2	昭和51	1,090
体育館	S2	昭和45	1,083
課外活動施設棟	R2	昭和57	406
	S2	平成20	572
その他			1,041
計			21,798

配置図





Yamagata University
Faculty of Agriculture